

令和5年10月31日開催

石狩市教育委員会会議（10月定例会）資料

<議 案>

議案第1号 石狩市公民館条例の一部改正について・・・P1～P3

【非公開】

議案第2号 石狩市学校給食センター運営委員会への諮問について・・・P4～P8

議案第3号 教育委員会点検・評価報告書（令和4年度実施分）について・・・別冊

<協議事項>

① 石狩市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針について・・・P9～P10

<報告事項>

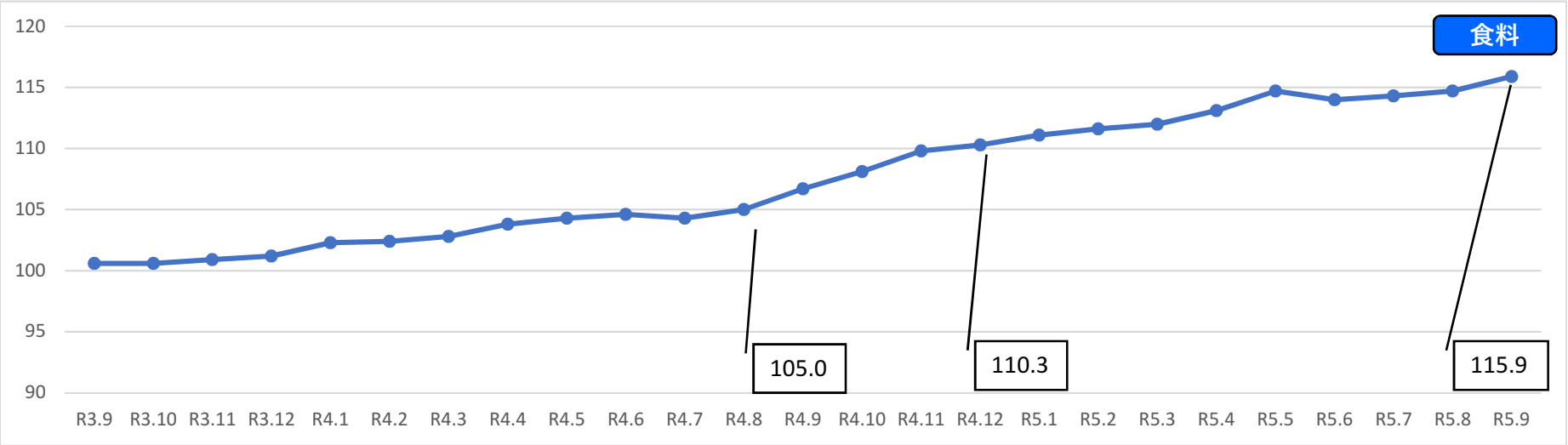
① 「第13回科学の祭典 in 石狩」の開催結果について・・・P11～P12

② 令和5年度（第12回）図書館を使った調べる学習コンクール「石狩市コンクール」審査結果について・・・P13～P15

③ 令和5年度全国学力・学習状況調査結果報告～石狩市における結果概要～・・・別冊

④ 令和4年度 いじめ・不登校の状況について・・・P16～P18

北海道地方の消費者物価指数（食料）の推移（総務省統計局 2020年基準消費者物価指数）



年単位 消費者物価指数（北海道地方・食料）（総務省統計局 2020年基準消費者物価指数）

年	指数(%)	対基準年 変化率(%)	備考	(参考)
2020 (R 2)	100.000	0	・ 消費者物価指数基準年	100円
2021 (R 3)	100.000	0.000	・ 給食費単価設定時確認データ (R 2)	100円
2022 (R 4)	105.400	5.400	・ 給食費単価設定 (R 3.11)	106円
2023 (R 5)	113.488	13.488	・ 給食費単価施行 (R 4.4)	114円
2024 (R 6)	115.388	15.388	・ R 5.10以降はR5.1～9平均で試算	116円
2025 (R 7)	117.388	17.388	・ 前年+ 2 %	118円
			・ 前年+ 2 %	

※色付き（黄色 R5～R7）は推計値

※物価安定の目標として、消費者物価指数の前年比上昇率で 2 %とすることが掲げられている。政府・日本銀行共同声明

「デフレ脱却と持続的な経済成長の実現のための政府・日本銀行の政策連携について」（2013/1/22）

（総務省統計局 2020年基準消費者物価指数）

児童生徒 1 人当たりの単価

単位：円（円単位に四捨五入）

		R 4 現行単価	変化率に基づく推測数値				
			R4	R5	R6	R7	R6・7の差額平均
			現行差額	現行差額	現行差額	現行差額	現行差額
小学校	小	253	267 -14	287 -34	292 -39	297 -44	295 -42
	中	260	274 -14	295 -35	300 -40	305 -45	303 -43
	高	266	280 -14	302 -36	307 -41	312 -46	310 -44
中学校		326	344 -18	370 -44	376 -50	383 -57	380 -54

児童生徒 1 人当たりの年間額（年間最大食数195食）

単位：円

		R 4 現行年額	R4 現行差額	R5 現行差額	R6 現行差額	R7 現行差額	R6・7の差額平均 現行差額
小学校	小	49,335	52,065 -2,730	55,965 -6,630	56,940 -7,605	57,915 -8,580	57,525 -8,190
	中	50,700	53,430 -2,730	57,525 -6,825	58,500 -7,800	59,475 -8,775	59,085 -8,385
	高	51,870	54,600 -2,730	58,890 -7,020	59,865 -7,995	60,840 -8,970	60,450 -8,580
中学校		63,570	67,080 -3,510	72,150 -8,580	73,320 -9,750	74,685 -11,115	74,100 -10,530

(1) 協議事項

①学校給食費の適正な水準について

●これまでの給食費の改定状況

区 分		H19.4.1			H20.4.1	H22.8.1	H26.4.1	R4.4.1
		旧石狩市	厚田区	浜益区	改定	改定	改定	改定
小 学 校	低学年	224円	240円	240円	224円	236円	242円	253円
	中学年	231円	240円	245円	231円	243円	249円	260円
	高学年	236円	240円	250円	236円	248円	255円	266円
中学校		273円	284円	290円	273円	297円	320円	326円
単価改定の理由		3市村合併時の単価をそれぞれ継続			市内単価を統一	食材費 値上げ対応	消費税率 5％→8％	食材費 値上げ対応

●管内市町村給食費単価一覧（札幌市を含む。）

区分毎に、単価の高い市町村から順に掲載している。

(令和5年4月時点)

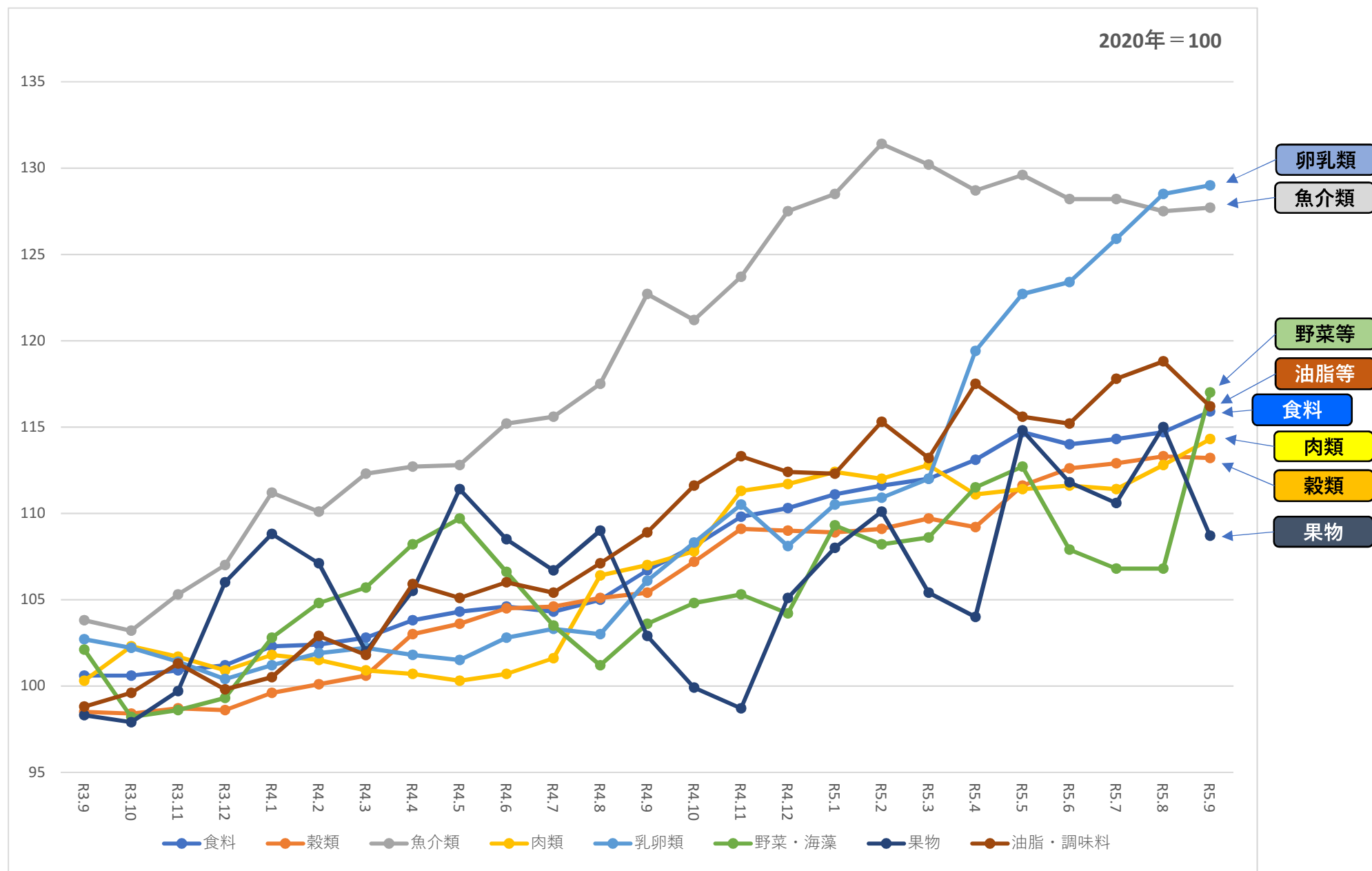
区 分		市町村名			R 5 単価	管内平均	
小 学 校	低学年	1	江 別 市		289円	265.88円	
		2	北 広 島 市		283円		
			札 幌 市		269円		
		3	当 別 町		266円		
		4	恵 庭 市		265円		
		5	新 篠 津 村		255円		
		6	石 狩 市		253円		※石狩市を除くと 267.71円
	7	千 歳 市		247円			
	中学年	1	江 別 市		292円	273.43円	
		2	北 広 島 市		286円		
			札 幌 市		274円		
		3	当 別 町		273円		
		4	恵 庭 市		270円		
		5	石 狩 市		260円		※石狩市を除くと 275.67円
		6	新 篠 津 村		259円		
	高学年	1	江 別 市		295円	276.25円	
		2	北 広 島 市		289円		
		3	当 別 町		279円		
			札 幌 市		277円		
		4	恵 庭 市		275円		
		5	千 歳 市		266円		
		6	石 狩 市		266円		※石狩市を除くと 277.71円
	7	新 篠 津 村		263円			
中 学 校		1	江 別 市		351円	328.63円	
		2	北 広 島 市		342円		
		3	当 別 町		339円		
		4	恵 庭 市		337円		
			札 幌 市		328円		
		5	石 狩 市		326円		※石狩市を除くと 329.00円
		6	千 歳 市		304円		
7	新 篠 津 村		302円				

・千歳市の小学校単価は、「低学年」（1～3学年）と「高学年」（4～6学年）の2区分。

・千歳市は平成26年4月、新篠津村は平成30年4月、恵庭市は平成31年4月、令和2年4月及び令和3年4月の3年連続、江別市及び北広島市は令和2年4月、当別町は令和5年4月にそれぞれ単価改定を行っている。

●消費者物価指数の推移（北海道地方） ※R3.9～R5.9

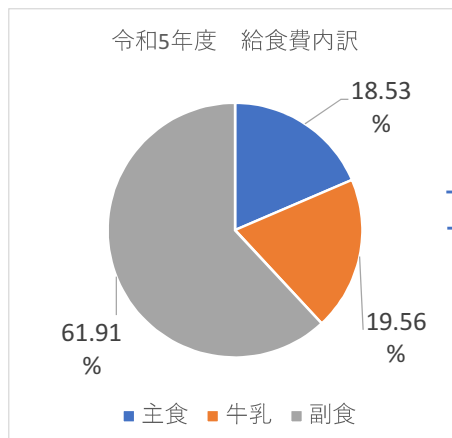
（総務省統計局 2020年基準消費者物価指数）



●給食費の内訳の推移（実績値）

令和5年度

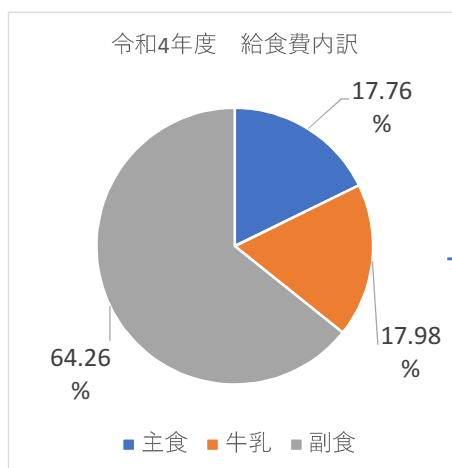
		主食	牛乳	副食	
低学年	石狩	45.32	54.03	153.65	253
	厚田	47.47	54.03	151.50	253
		46.40	54.03	152.57	253
中学年	石狩	49.07	54.03	156.90	260
	厚田	51.12	54.03	154.85	260
		50.09	54.03	155.88	260
高学年	石狩	50.93	54.03	161.04	266
	厚田	52.98	54.03	158.99	266
		51.96	54.03	160.01	266
中学生	石狩	55.36	54.03	216.61	326
	厚田	57.30	54.03	214.67	326
		56.33	54.03	215.64	326
小中平均		51.19	54.03	171.03	
		18.53%	19.56%	61.91%	



R4とR5の差
主食+0.77%
牛乳+1.58%
副食-2.35%

令和4年度

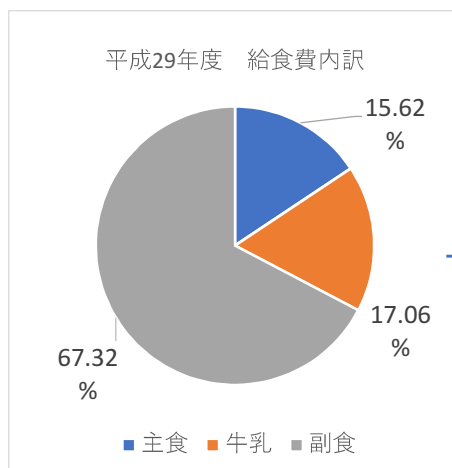
		主食	牛乳	副食	
低学年	石狩	43.59	49.67	159.74	253
	厚田	45.15	49.67	158.18	253
		44.37	49.67	158.96	253
中学年	石狩	47.35	49.67	162.98	260
	厚田	48.73	49.67	161.60	260
		48.04	49.67	162.29	260
高学年	石狩	49.16	49.67	167.17	266
	厚田	50.54	49.67	165.79	266
		49.85	49.67	166.48	266
中学生	石狩	53.35	49.67	222.98	326
	厚田	54.56	49.67	221.77	326
		53.96	49.67	222.37	326
小中平均		49.05	49.67	177.53	
		17.76%	17.98%	64.26%	



H29とR5の差
主食+2.91%
牛乳+2.5%
副食-5.41%

平成29年度

		主食	牛乳	副食	
低学年	石狩	37.50	45.46	159.04	242
	厚田	38.31	45.46	158.23	242
		37.90	45.46	158.64	242
中学年	石狩	39.97	45.46	163.57	249
	厚田	41.18	45.46	162.36	249
		40.57	45.46	162.97	249
高学年	石狩	41.77	45.46	167.77	255
	厚田	42.98	45.46	166.56	255
		42.38	45.46	167.16	255
中学生	石狩	45.39	45.46	229.15	320
	厚田	45.99	45.46	228.55	320
		45.69	45.46	228.85	320
小中平均		41.64	45.46	179.40	
		15.62%	17.06%	67.32%	



< 協議事項①関係 >

石狩市教育委員会の保管するアイヌ遺骨等の取扱方針（案）

令和 年 月 日

石狩市教育委員会

1 基本的方針

石狩市教育委員会はいしかり砂丘の風資料館において、石狩市内で出土したアイヌ遺骨及び当該遺骨と一対一で対応する副葬品（以下「アイヌ遺骨等」という。）を保管している。

発掘・発見された出土地域が明らかである当該アイヌ遺骨等（以下「出土地域特定遺骨等」という。）の取扱いについては、「先住民族の権利に関する国際連合宣言」（国際連合総会第 61 会期、平成 19 年 9 月 13 日採択（国連文書 A/RES/61/295 附属文書））の関連条項を参照しつつ、「アイヌ遺骨の返還・集約に係る基本的な考え方について」（平成 25 年 6 月 14 日政策推進作業部会報告）、「大学の保管するアイヌ遺骨等の出土地域への返還手続に関するガイドライン」（平成 30 年 12 月閣副第 831 号、30 文科振第 336 号、国北総第 91 号。以下「地域返還ガイドライン」という。）及び「博物館等の保管するアイヌ遺骨等の取扱いについて」（令和 4 年 7 月 15 日 4 文庁第 1600 号）を考慮しながら、アイヌの人々にアイヌ遺骨等を返還し、アイヌの人々による尊厳ある慰霊の実現を基本方針とする。

なお、今後石狩市内で発掘等により発見されるアイヌ遺骨等の取扱方針については、本取扱方針に準じて定めることとする。

2 情報の周知

石狩市教育委員会で保管するアイヌ遺骨等の情報は、アイヌの人々のプライバシー、心情等を尊重しつつ、石狩市のホームページにおいて 1 か月間公表する。

3 地域への返還手続について

上記 2 の情報の周知を行った後、地域返還ガイドラインを考慮して、出土地域に居住又は縁のあるアイヌの人々を中心に構成された団体（以下「出土地域アイヌ関係団体」という。）に出土地域特定遺骨等を地域返還するための手続は、以下によることとする。ただし、出土地域特定遺骨の返還対象団体としてすでに協議中の樺太アイヌ協会については本手続から除く。

（1）地域返還の申請方法

ア 出土地域特定遺骨等の地域返還を希望する者は、所定の様式により、石狩市教育委員会に申請するものとする。

イ 出土地域特定遺骨等の地域返還の申請を受け付ける期間は、上記 2 の情報の周知の期間とする。

（2）出土地域アイヌ関係団体の確認

ア 石狩市教育委員会は、上記（1）の申請を受理後、出土地域特定遺骨等に関する情報及び申請者から提出のあった書面等を総合的に勘案した上で、申請者が当該出土地域特定遺骨

等の返還の対象として適切な出土地域アイヌ関係団体であることを確認する。

イ 上記アの確認前に、同一の出土地域特定遺骨等に対して複数の団体から申請があった場合、必要に応じて申請者間での協議を求め、その結果を勘案して、地域返還の対象として適切な出土地域アイヌ関係団体であるか確認するものとする。

ウ 上記ア又はイにおいて、適切な出土地域アイヌ関係団体であると確認できた場合には、地域返還の申請があった旨を石狩市のホームページで周知し、当該申請に対する反対意見等を所定の様式により受け付ける。

エ 上記ウの反対意見等を受け付ける期間は、上記ウの周知より 1 か月とする。

オ 石狩市教育委員会は、反対意見等があった場合、申請者に反対意見等があった旨を通知するとともに、反対意見等の内容に照らして必要があると認める場合には、申請者及び反対意見等を提出した者（以下「申請者等」という。）に対し、当事者間における話し合い及びその結果の報告を求めるものとする。

カ 石狩市教育委員会は、申請者が適切な出土地域アイヌ関係団体であるとの確認ができなかった場合や上記オの話し合いの結果等を勘案しても、出土地域アイヌ関係団体の確認ができなかった場合には、その旨を申請者等に通知するものとする。

（３）地域返還の実施について

ア 石狩市教育委員会は、上記（２）の手續により、出土地域アイヌ関係団体を特定した場合には、当該団体にその旨を通知するとともに、当該団体と協議の上、当該遺骨等の地域返還について、引渡日時、場所、方法等を決定することとする。

イ 出土地域アイヌ関係団体との上記アの決定に関する合意は、書面をもって行うこととする。

ウ 石狩市教育委員会は、上記イの合意内容に基づき、出土地域アイヌ関係団体に当該出土地域特定遺骨等の地域返還を行うこととする。

なお、出土地域特定遺骨等の地域返還を行うにあたっては、尊厳をもって扱うよう十分に配慮する。

エ 当該出土地域特定遺骨等の地域返還に係る搬送に際し発生する費用については、石狩市教育委員会と当該団体との間で協議する。

（４）返還申請がなかった場合

次のいずれかに該当する出土地域特定遺骨等は、引き続き石狩市教育委員会で保管の継続、又は国と協議の上、国が北海道白老郡白老町に整備する民族共生象徴空間（ウポポイ）を構成するアイヌ遺骨等の慰霊及び管理のための施設（以下「慰霊施設」という。）において保管する。

ア 情報の周知から 1 か月間地域返還の申請がなかった場合

イ 出土地域特定遺骨等の地域返還の申請があったものの、適切な出土地域アイヌ関係団体であることの確認ができなかった場合

<報告事項①関係>

「第13回 科学の祭典 in 石狩」開催結果について

I 日 時 令和5年10月7日（土）、8日（日） 13:00～16:00

II 会 場 石狩市民図書館（花川北7-1）

・視聴覚ホール ・エントランスホール ・研修室1、3

III 主 催 科学の祭典 in 石狩実行委員会（事務局：石狩市民図書館内）

IV 内 容

【10月7日（土）】

出展ブース	出展者	会場
① 作ってみよう！色々なエネルギー ・オリジナルミニ風車づくり ・チャレンジ風力発電 ・ソーラーミニカーを作ろう	石狩市環境市民部環境課 NPO 法人北海道グリーンファンド	視聴覚ホール
② 星の砂をみてみよう	NextScience	研修室1
③ タネアート ～海浜植物のタネを見て、触って、遊んでみよう～	石狩市環境市民部石狩浜海浜植物保護センター	研修室3
<工作体験コーナー> ・ペーパー紙トンボ ・簡単折り紙ヒコーキ ・UV チェックビーズ簡単アクセサリ	北海道札幌手稲高等学校サイエンスボランティア	エントランスホール

【10月8日（日）】

出展ブース	出展者	会場
① 石狩海岸の生きもののクイズ大会！	石狩浜夢の木プロジェクト	視聴覚ホール
② タネアート ～海浜植物のタネを見て、触って、遊んでみよう～	石狩市環境市民部石狩浜海浜植物保護センター	研修室1
③ マイ・ストロー・オーガエト マイ・ストロー・クラリネットをつくろう！！	サイエンスアイ	研修室3
<工作体験コーナー> ・ペーパー紙トンボ ・簡単折り紙ヒコーキ ・UV チェックビーズ簡単アクセサリ	北海道札幌手稲高等学校サイエンスボランティア	エントランスホール

V 参加者数

月 日 (曜日)	大人	子ども	計
10月7日 (土)	89名	133名	222名
10月8日 (日)	52名	77名	129名
両日合計	141名	210名	351名

VI アンケート結果

【自由筆記：感想】

- ・また来たいです
- ・すごく楽しかったです。ありがとうございました
- ・無料でできる体験がステキです
- ・高校生のお姉さん、お兄さん達にとっても丁寧に教えてもらいました。ありがとうございます！！
- ・笑顔、笑い声が聞こえてきて、ついつい寄り道してしまいました。とても良い雰囲気でした

【体験したブース数】

- ・最多で5種体験

【参加者の年齢】

- ・3歳～47歳

令和5年度（第12回）図書館を使った調べる学習コンクール
「石狩市コンクール」の審査結果について

1. 審査会 令和5年10月26日（木） 午後4時から
※事前審査：10月11日（水）～10月15日（日）
2. 会場 石狩市民図書館 研修室1
3. 審査員
重山 麻人（石狩八幡小学校校長／石狩市校長会）
山森 聡（生振小学校教頭／石狩市教頭会／石狩市民図書館協議会委員）
望月 静華（石狩南高等学校司書教諭／石狩市民図書館協議会委員）
柴田 和子（緑苑台小学校司書）
伊藤 学志（教育委員会生涯学習部次長（社会教育担当）兼市民図書館長）
4. 応募作品数
全406点
（小学校1・2年生4点、3・4年生137点、5・6年生29点、中学校236点）
※昨年度は全420点（小学校1・2年生10点、3・4年生165点、
5・6年生70点、中学校175点）
5. 受賞作品 最優秀賞4点、優秀賞9点、佳作10点、奨励賞13点

■小学校1・2年生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	南線小	2年	庄司 幸晟	だいすきなうちゅうノート
優 秀	南線小	1年	鷹 陸斗	まなべてたのしいむしずかん
佳 作	双葉小	2年	新岡 華佳	わたしのすきなきょうりゅうのとくちょう
奨励賞	南線小	1年	島村 颯介	じしんについて

■小学校3・4年生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	双葉小	3年	坂本 陽愛	色いろ知りたいな 月の世界
優 秀	紅南小	3年	宇津野 祈	体の中はどうなっているのだろう？
	緑苑台小	3年	中川 奏	強くてきれいな花 コヒルガオのヒミツにせまる！！
	南線小	4年	新田 望杏	アイヌの神とぎしきって？
佳 作	双葉小	3年	杉本 登紀	災害時に使える火のおこし方
	花川小	4年	首藤 幸代 首藤 賢一（1年）	きょうりゅうのぎもん
	南線小	4年	紺井 祐花	アイヌ文様
	双葉小	4年	山野 禾由実	究極のアイスクリームを目指して

奨励賞	石狩八幡小	3 年	高玉 智輝	コウモリってどんな生き物？
	南線小	4 年	清水 季環	アイヌの地名
	緑苑台小	4 年	蜂谷 真七斗	犬のごはん～栄養バランスを考えて～

■ 小学校 5 ・ 6 年生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	双葉小	6 年	高野 蒼	打ち上げ花火について
優 秀	花川小	5 年	矢野 櫻	じゃがいもの育ち方
	緑苑台小	5 年	作田 愛花	日本の伝統 箸
	南線小	6 年	木谷 真愛 武田 明花音	私達のペット
佳 作	緑苑台小	5 年	成田 笑梨	昭和の暮らし
	緑苑台小	5 年	森田 陽南子	SDGs について
	石狩八幡小	6 年	藤田 來奈	動物について
奨励賞	緑苑台小	5 年	工藤 はぐみ	キャビンアテンダントについて
	浜益小	5 年	野村 結桜	江戸幕府について
	花川南小	6 年	佐藤 健太郎	石川県～輪島市について～
	紅南小	6 年	谷川 七虹	歴史人物 好きな食べ物&エピソード 縄文時代～明治時代

■ 中学生部門

賞	学校	学年	名前	作品名
最優秀	樽川中	1 年	向江 杏	日本の伝統工芸品について
優 秀	樽川中	1 年	塩田 莓加	食品ロスの現在と未来
	樽川中	1 年	中齊 鈴音	日本の行事と歴史
佳 作	樽川中	1 年	北川 ゆきの	韓国 文化と地理
	樽川中	1 年	城越 月花	季節の花について
奨励賞	花川南中	1 年	原 陽輔	トンボについて
	浜益中	1 年	佐々木 大樹	織田信長の一生
	花川北中	3 年	小田桐 美空	三疊紀について
	花川北中	3 年	塩谷 杏花	ウイルスってなんだろう？ ～ウイルスのいろいろ～
	厚田学園 (後期)	9 年 (3 年)	中村 心海	心臓病について

6. 今後の予定

(1) 表彰式について

- ・令和5年11月23日（祝・木）10：00～ 市民図書館エントランスホールで4年ぶりに表彰式を開催する。

※過去3年間、コロナ禍により表彰は各校にて実施

(2) 全国コンクールへの応募について

- ・今年度は、「石狩市コンクール」での最優秀賞と優秀賞作品の中から下記7作品を全国コンクールへ応募する（全応募作品の1.5%以内）。
- ・全国コンクールへの応募報告締め切りは11月8日（水）まで、作品発送は11月16日（木）必着。
- ・全国コンクールの結果発表は、令和6年1月11日（木）13時予定、発表後は速やかに結果を各学校に通知する。
- ・応募作品の返却は2月中旬以降、図書館振興財団から作品が戻り次第、学校を通し、順次行う。

■全国コンクール応募作品

学校	学年	名前	作品名
南線小	2年	庄司 幸晟	だいすきなうちゅうノート
緑苑台小	3年	中川 奏	強くてきれいな花 コヒルガオのヒミツにせまる！！
双葉小	3年	坂本 陽愛	色いろ知りたいな 月の世界
花川小	5年	矢野 櫻	じゃがいもの育ち方
双葉小	6年	高野 蒼	打ち上げ花火について
樽川中	1年	中齊 鈴音	日本の行事と歴史
樽川中	1年	向江 杏	日本の伝統工芸品について

7. その他

- ・全国コンクールへ応募する上記7点以外の作品については、12月中旬以降に図書館振興財団から参加賞が届き次第、各学校を通して順次返却する。
- ・「石狩市コンクール」で最優秀賞、優秀賞、佳作となった作品については、11月中旬から11月下旬にかけて、石狩市民図書館内においてレプリカの展示を行う予定。

令和4年度 いじめ・不登校の状況について

石狩市教育委員会 教育支援課

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

1 令和4年度いじめの状況について

(1) 認知件数の推移

(単位:件)

区分			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校			1,011	925	773	715	779
前年度増減			971	-86	-152	-58	64
中学校			106	148	88	62	102
前年度増減			95	42	-60	-26	40
小・中合計			1,117	1,073	861	777	881
前年度増減			1,066	-44	-212	-84	104
1,000 人 当たり	小学校	全国	66	76	67	80	89
		全道	66	78	67	80	125
		本市	323	304	260	247	266
	中学校	全国	30	33	25	30	34
		全道	26	27	22	24	36
		本市	61	87	54	38	64

(2) いじめの発見のきっかけ(12項目から1つの項目を選択した内容)

区分	順位	内容	件数(件)	構成比(%)
小学校	①	アンケート調査などの学校の取組により発見	731	93.8%
	②	本人からの訴え	27	3.5%
	③	学級担任が発見した	10	1.3%
	④	当該児童生徒(本人)の保護者からの訴え	8	1.0%
	⑤	その他	3	0.4%
中学校	①	アンケート調査などの学校の取組により発見	93	91.2%
	②	本人からの訴え	3	2.9%
		学級担任が発見した	3	2.9%
		その他	3	2.9%

(3) いじめの態様 主な要因(9項目から複数回答の内容)

区分	順位	内容	構成比
小学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	44.1%
	②	軽くぶつかられたり、遊ぶふりをして叩かれたり、蹴られたりする	19.1%
	③	仲間はずれ、集団による無視をされる	14.8%
	④	ひどくぶつかられたり、叩かれたり、蹴られたりする	10.6%
中学校	①	冷やかしからかい、悪口や脅し文句、嫌なことを言われる	46.6%
	②	パソコンや携帯電話等で、ひぼう・中傷や嫌なことをされる	18.1%
	③	嫌なことや恥ずかしいこと、危険なことをされたり、させられられたりする	9.5%
	④	仲間はずれ、集団による無視をされる	8.6%

※ 要因の割合の高い順について5番目までを掲載しているため全体の合計は100%とならない

(4) いじめ重大事態発生件数

(単位:件)

区分	小学校	中学校	計
法第1条第1項第1号に規定する重大事態	0	0	0
法第1条第1項第2号に規定する重大事態	0	1	1

(5) 学年別件数

(単位:件)

小学校							中学校				合計
1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	
164	164	153	127	73	98	779	62	25	15	102	881

●担当課(教育支援課)の所見

・本市の小・中学校におけるいじめの認知件数は、881件(前年度777件)であり、前年度より104件増加している。
・いじめの認知件数は、新型コロナウイルス感染症を予防しながらの生活となった令和2年度に大幅な減少となっていたが、令和4年度においては、部活動や学校行事等の様々な活動が徐々に再開され、接触機会が増えたことにより増加傾向にあると考えられる。
・いじめの認知件数が北海道及び全国よりも高い状況となっていることは、いじめ防止対策推進法におけるいじめの定義やいじめの積極的認知に対する理解が広がっていることと考えている。
・いじめの態様で、パソコンやスマホ等でひぼう・中傷や嫌なことをされる等のSNS上の見えづらいいじめが38名と増加傾向にあり、学校における情報モラル教育の徹底や事態が深刻化させないよう学校と連携を図っていく必要がある。
・本市の認知したいじめの解消状況は、881件すべて解消している。今後も早期に必要な指導や支援を行うことが必要と考えられる。

「令和4年度児童生徒の問題行動・不登校等生徒指導上の諸課題に関する調査」より

2 令和4年度不登校の状況について

(1)不登校児童生徒数の推移

(単位:人)

区分			H30年度	R1年度	R2年度	R3年度	R4年度
小学校			26	18	49	62	71
前年度増減			-8	-8	31	13	9
中学校			88	117	119	135	146
前年度増減			18	29	2	16	11
小・中合計			114	135	168	197	217
前年度増減			10	21	33	29	20
1,000人 当たり	小学校	全国	7.0	8.3	10.0	13.0	17.0
		全道	6.4	8.3	11.5	13.9	16.3
		本市	8.3	5.9	16.5	21.4	24.2
	中学校	全国	36.5	39.4	40.9	50.0	59.8
		全道	39.5	45.8	51.6	60.4	71.7
		本市	50.7	68.5	73.4	81.7	91.0

(2)新規・継続別の状況

(単位:人 構成比:%)

		R3年度		R4年度		増減
		人数	構成比	人数	構成比	人数
小学校	新規	39	63%	33	46%	-6
	継続	23	37%	38	54%	15
	計	62	100%	71	100%	9
中学校	新規	41	30%	64	44%	23
	継続	94	70%	82	56%	-12
	計	135	100%	146	100%	11
合計		168				-168

(3)学年別人数

(単位:人)

小学校							中学校				合計
1年	2年	3年	4年	5年	6年	計	1年	2年	3年	計	
4	4	11	11	15	26	71	40	59	47	146	

(4)不登校の主たる要因

(単位:人 構成比:%)

主たる要因		小学校				中学校			
		新規	継続	計	構成率	新規	継続	計	構成率
学校に係る状況	いじめ	0	0	0	0.0%	0	1	1	0.7%
	いじめを除く友人関係をめぐる問題	2	1	3	4.2%	12	4	16	11.0%
	教職員との関係をめぐる問題	1	0	1	1.4%	3	0	3	2.1%
	学業の不振	1	0	1	1.4%	3	2	5	3.4%
	進路に係る不安	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
	クラブ活動、部活動等への不適応	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
	学校のきまり等をめぐる問題	0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
	入学、転編入学、進級時の不適応	0	0	0	0.0%	1	2	3	2.1%
家庭に係る状況	家庭の生活環境の急激な変化	0	2	2	2.8%	1	2	3	2.1%
	親子の関わり方	4	6	10	14.1%	3	3	6	4.1%
	家庭内の不和	1	0	1	1.4%	0	0	0	0.0%
本人に係る状況	生活リズムの乱れ、あそび、非行	2	5	7	9.9%	10	4	14	9.6%
	無気力、不安	22	24	46	64.8%	31	64	95	65.1%
上記に該当なし		0	0	0	0.0%	0	0	0	0.0%
合計		33	38	71	100.0%	64	82	146	100.0%

●担当課(教育支援課)の所見

・本市の不登校の児童生徒数全体では、前年度比20人(10.2%)増加している。不登校児童生徒数全体は毎年増加しており、過去最多が続いている。

・小学校では9人(14.5%)増加し、中学校では11人(8.1%)増加しており、小中学校ともに増加している。

・新規・継続別においては、継続者の構成比が、小学校では53.5%、中学校では56.2%となっており、小学校及び中学校ともに継続者の割合が多いことから、不登校の長期化が懸念される。また、不登校の主たる要因が「無気力、不安」が半分以上を占めている。これらを踏まえ、個々の不登校のきっかけや継続理由についての的確な把握や増加している要因について分析し、引き続き学校、SSW、SCなど関係機関の連携による早期の支援を進めていく必要がある。

<議案第3号関係>



教育委員会の点検・評価報告書

(令和4年度分)

令和5年10月
石狩市教育委員会

目 次

点検及び評価について

1 教育委員会の点検・評価報告書について	P 1
2 点検及び評価の対象について	P 1
3 点検及び評価の手法と方針について	P 1
4 学識経験者の知見の活用について	P 1

教育委員会の活動状況について

1 教育委員会の活動状況	P 2
（1）教育委員会会議の状況	P 2
（2）教育委員会会議での審議事項	P 2～ 5
（3）教育委員会会議以外の活動状況	P 5～ 6
2 教育に関する事業の点検及び評価	P 7～ 8
（1）石狩市教育プランの構造と評価・意見の区分（イメージ図）	P 7
（2）点検・評価の対象と評価基準について	P 7
（3）施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性（一覧）	P 8
施策別の取組状況、分析・評価	P 9～ 36

点検及び評価に対する学識経験者による意見について	P 37～ 38
--------------------------	----------

資 料

資料 1 令和 4 年度の方針等	P 39～
（1）教育行政執行方針	P 39～ 42
（2）主要な施策の成果	P 43～ 55
資料 2 石狩市教育委員会外部評価委員会設置要綱	P 56
石狩市教育委員会外部評価委員会委員名簿	P 57
資料 3 教育長及び教育委員会委員名簿	P 58
資料 4 教育委員会事務局組織図	P 59

いしかりの教育は
「こんにちは」から始めます。



石狩市教育委員会

※上の絵は、手話で「こんにちは」を表しています。

点検及び評価について

1 教育委員会の点検・評価報告書について

地方教育行政の組織及び運営に関する法律第 26 条の規定により、教育委員会は、毎年、その権限に属する事務の管理及び執行の状況について、点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を議会に提出するとともに、公表することとなっています。

石狩市教育委員会（以下「市教委」という。）は、市民への説明責任を果たすとともに、より効果的に教育行政を推進するため、令和 4 年度の教育委員会の活動状況及び主要な施策・事業について点検・評価を行い、教育に関し学識経験を有する方々による「石狩市教育委員会外部評価委員会」の意見を踏まえ、「教育委員会の点検・評価報告書（令和 4 年度分）」としてまとめました。

○地方教育行政の組織及び運営に関する法律（抜粋）

第 26 条 教育委員会は、毎年、その権限に属する事務（前条第一項の規定により教育長に委任された事務その他教育長の権限に属する事務（同条第四項の規定により事務局職員等に委任された事務を含む。）を含む。）の管理及び執行の状況について点検及び評価を行い、その結果に関する報告書を作成し、これを議会に提出するとともに、公表しなければならない。

2 教育委員会は、前項の点検及び評価を行うに当たっては、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るものとする。

2 点検及び評価の対象について

令和 4 年度の教育委員会の活動状況のほか、教育委員会において実施した施策・事業等を対象としています。

3 点検及び評価の手法と方針について

教育委員会会議の開催及び審議の状況など、教育委員会の活動状況を明らかにするとともに、教育に関する事業を個別に評価し、課題（分析）を踏まえ、今後の改善に向けた方針を明らかにしています。

4 学識経験者の知見の活用について

教育委員会の活動状況や教育に関する施策・事業の執行状況の点検・評価の客観性を確保し、今後の取組への活用を図るため、教育に関し学識経験を有する方々から、点検及び評価に対する意見や助言をいただき、本報告書に付して報告します。

教育委員会の活動状況について

1 教育委員会の活動状況

教育委員会の会議は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律及び石狩市教育委員会会議規則に基づき、教育長と4人の委員が、付議された議案・報告案件及び協議事項・報告事項について、委員相互の入念な審議・協議・意見交換などを経て決定しています。

会議（毎月の定例会）においては、従前と同様に、主要な教育施策の確立、変更及び実施に関すること、教育委員会規則の制定、その他付議された議案について審議決定するとともに、教育に関する様々な協議事項・報告事項等について、委員相互による活発な協議が行われています。

また、市民が教育行政に関心を持っていただけるよう、市ホームページや、市役所本庁舎情報公開コーナーなどで会議録を公開して、市民の理解に努めています。

なお、これまでの石狩市教育プランは、平成22年4月にスタートし、教育委員会会議において協議を重ね、令和2年3月に新教育プラン（令和2年～6年度）を策定しました。さらにプランに基づく施策等を着実に実施するため、様々な教育課題や具体的取組などについて都度協議するほか、教育現場の視察や関係者との意見交換を行っています。

（1）教育委員会会議の状況

教育委員会会議については、石狩市教育委員会会議規則第2条第2項の規定に基づき定例会を開催、また同条第3項の規定に基づき、必要に応じて臨時会を開催しています。

令和4年度については、下記のとおり合計14回の会議を開催しました。

また、会議以外に施策に関する勉強会も月1回の定期及び必要に応じて実施し、様々な課題等について意見交換を重ねています。

① 定例会 12回（毎月1回）

② 臨時会 6回（6月1回、8月1回、11月1回、2月1回、3月2回）

（2）教育委員会会議での審議事項

教育委員会会議への付議案件は、石狩市教育委員会事務委任規則等に基づく議案等84件でしたが、その内訳は次のとおりです。

① 石狩市教育委員会事務委任規則に基づく審議事項60件

- ・議決案件 47件
- ・承認案件 8件
- ・協議案件 5件

② 同規則に規定されていない教育施策にかかわる事業等の報告事項及びその他の事項14件

- ・報告事項 24件

③ 付議案件一覧

年 月 日	付 議 案 件
04. 4. 27	【議案】7件（うち承認3件） ・石狩市学校運営協議会委員の任命について ・石狩市奨学審議委員会委員の委嘱について ・石狩市教育支援委員会委員の委嘱について ・石狩市文化財保護審議会委員の委嘱について ・石狩市学校運営協議会委員の解任について

年 月 日	付 議 案 件
	・石狩市民図書館協議会委員の解任について ・石狩市学校給食センター運営委員会委員の解嘱について 【報告事項】 2件 ・教育委員会の点検・評価の実施について（令和３年度実施分） ・石狩市奨学審議委員会委員の解嘱について
04. 5. 31	【議案】 7 件（うち承認 3 件） ・令和４年度一般会計予算（第２号補正） ・石狩市社会教育委員の委嘱について ・石狩市民図書館協議会委員の任命について ・石狩市学校給食センター運営委員会委員の委嘱について ・石狩市学校運営協議会委員の解任について ・石狩市学校運営協議会委員の任命について ・石狩市学校給食センター運営委員会委員の解嘱について 【報告事項】 1 件 ・令和４年度市内小中学校の児童生徒数・学級数について
04. 6. 21 (臨時)	【議案】 1 件 ・令和４年度一般会計予算（第３号補正）について
04. 6. 28	【議案】 4 件（うち承認 2 件） ・石狩市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について ・石狩市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について ・石狩市学校運営協議会委員の解任について ・石狩市学校運営協議会委員の任命について 【協議事項】 1 件 ・教育委員会の点検・評価について（令和３年度実施分） 【報告事項】 1 件 ・石狩市教育委員会基礎データについて
04. 7. 26	【議案】 3 件 ・令和４年度石狩市奨学生の決定について ・石狩市いじめ問題対策連絡協議会委員の委嘱について ・石狩市いじめ問題調査委員会委員の委嘱について 【協議事項】 2 件 ・教育委員会の点検・評価について（令和３年度実施分）（継続協議） 【報告事項】 1 件 ・第三期石狩市教育委員会特定事業主行動計画の取組状況について
04. 8. 22 (臨時)	【議案】 2 件 ・令和４年度一般会計予算（第４号補正）について ・奨学金の廃止について
04. 8. 30	【議案】 3 件 ・令和５年度に使用する小学校用教科用図書の採択について ・令和５年度に使用する中学校用教科用図書の採択について ・令和５年度使用教科用図書のうち学校教育法附則第９条に規定する教科用図書の採択について 【協議事項】 1 件 ・教育委員会の点検・評価について（令和３年度実施分）（継続協議） 【報告事項】 2 件 ・令和４年度全国学力・学習状況調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について

年 月 日	付 議 案 件
	・石狩市教育委員会所属の会計年度任用職員の逮捕について
04. 9. 27	【議案】 2 件 ・招致外国青年就業規則の一部改正について ・教職員の懲戒処分の内申について 【協議事項】 1 件 ・奨学金制度の見直しについて 【報告事項】 2 件 ・令和 4 年度「俳句のまち～いしかり～」俳句コンテストの実施結果について ・令和 5 年石狩市「はたちのつどい」の開催日時等について
04. 10. 25	【議案】 1 件 ・教育委員会の点検・評価について（令和 3 年度実施分）（継続協議） 【報告事項】 3 件 ・令和 4 年度全国学力・学習状況調査結果について ・I C Tを活用した学習活動を行った場合の出席扱いに関するガイドラインの策定について ・令和 4 年度（第 11 回）図書館を使った調べる学習コンテスト「石狩市コンクール」審査結果について
04. 11. 7	【議案】 2 件 ・令和 4 年度一般会計予算（第 6 号及び第 7 号補正）について ・石狩市奨学金支給条例の一部改正について
04. 11. 29	【報告事項】 6 件 ・令和 5 年度教育委員会予算要求について ・教職員の懲戒処分内申の結果について ・令和 4 年度石狩市教職員研修「サマーセミナー」実施結果及び「ウィンターセミナー」の実施計画について ・令和 3 年度いじめ・不登校の状況について ・市内学校における新型コロナウイルス感染状況等について ・第 12 回科学の祭典 in 石狩の開催について
04. 12. 20	【議案】 2 件 ・石狩市奨学審議委員会委員の委嘱について ・令和 4 年度石狩市教育委員会表彰受賞者の決定について 【報告事項】 2 件 ・石狩市奨学審議委員会委員の解嘱について ・令和 4 年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査「北海道版結果報告書」への市町村別結果の掲載に係る同意について
05. 1. 24	【議案】 3 件 ・石狩市奨学金支給条例施行規則の一部改正について ・石狩市奨学生選考基準の一部改正について ・教職員の懲戒処分内申について 【報告事項】 2 件 ・令和 5 年度学力・学習状況調査の実施について ・令和 4 年度石狩市教職員研修「ウィンターセミナー」の実施結果について
05. 2. 7	【議案】 3 件 ・イラストレーションの使用に係る和解及び損害賠償額の決定の件 ・令和 4 年度一般会計予算（第 9 号補正）について ・令和 5 年度一般会計予算について 【報告事項】 1 件 ・教職員の懲戒処分内申の結果について

年 月 日	付 議 案 件
05. 2. 22 (臨時)	【議案】1 件 ・石狩市立学校の教職員（校長分）人事異動に係る内申について
04. 3. 2 (臨時)	【議案】1 件 ・石狩市立学校の教職員（校長以外分）人事異動に係る内申について
04. 3. 20 (臨時)	【議案】4 件 ・石狩市教育委員会職員の人事異動について ・職員の処分について ・石狩市立学校部活動指導員設置に関する規則の制定について ・石狩市外国人学習指導員設置に関する規則の制定について
05. 3. 28	【議案】7 件 ・石狩市教育委員会会計年度任用職員の任用、給与、勤務時間、休暇等に関する規則の一部改正について ・個人情報の保護に関する法律の施行に関する石狩市教育委員会規則の制定について ・石狩市立学校管理規則の一部改正について ・石狩市立学校通学区規則の一部改正について ・石狩市立学校に勤務する県費負担教職員の退職管理に関する規則の一部改正について ・石狩市教育職員の業務量の適切な管理等に関する規則の一部改正について ・スクールソーシャルワーカー設置に関する規則の制定について 【報告事項】1 件 ・令和4年度全国体力・運動能力、運動習慣等調査結果について

（３）教育委員会会議以外の活動状況

教育長及び教育委員は、教育委員会会議の出席以外に教育関係機関の会議や研修、関連行事への出席などの公務や教育現場への訪問・視察など実態把握を行っています。

また、教育委員会は、市長部局から独立した中立的・専門的な機関ですが、効果的・効率的な行政運営を行うため、後述の総合教育会議等の機会に市長との協議、意見交換などを積極的に行っています。

その他にも、教育委員会事務局職員からの報告・相談への対応及び情報交換など、教育行政や教育委員会会議運営にかかわる調整活動を行っています。

令和4年度の主な活動は、次のとおりです。

① 各種関係機関等への出席・意見交換や研修活動

北海道都市教育委員会連絡協議会をはじめ、会議や研修会に出席し、文教施策にかかわる審議や情報交換等を行っています。また、市議会への出席や、校長会や各種審議会等との意見交換等を行い、市の教育行政推進に努めています。

- ・石狩管内教育委員会協議会総会（4月オンライン開催）
- ・市議会本会議定例会（7、9、11、2月）、臨時会（5、12月）
- ・石狩市PTA連合会総会（4月）
- ・全国都市教育長協議会山口大会（5月）
- ・北海道都市教育委員会連絡協議会定例総会等（8月）

② 総合教育会議での協議

市長が設置する「総合教育会議」開催され、子どもの将来を見据えて重点的に講ずべき施策について

の協議を行いました。

年 月 日	協 議 内 容
04. 12. 20	・ 令和4年度全国学力・学習状況調査の結果について ・ 石狩市の「学びの保障」について

③ 教育現場の実態把握等（学校訪問・視察等）

入学式や卒業式のほか、適宜学校訪問、視察等を行っています。また、社会教育施設や各種事業を視察するなどして、実態把握に努めました。

- ・ 小中学校卒業式（3月）

④ 各種行事・事業への参加等

市民スポーツまつり、ユネスコ協会事業、文化団体事業など市内のスポーツ・文化関係団体等の教育全般にかかる各種事業や、その他の事業等に参加し、広く自己研鑽に努めています。

- ・ 市民スポーツまつり（9月）
- ・ はたちのつどい（1月）
- ・ 教育委員会表彰式（1月）

⑤ その他の教育行政の運営に関する諸活動

- ・ 教育関連機関（行政機関を含む）等への要請、調整活動等
- ・ 教育行政に係る各種団体等との意見交換活動等
- ・ 就任教職員辞令交付式（4月）
- ・ 公立学校職員永年勤続者表彰状伝達式（8月）
- ・ 退職教職員辞令交付式（3月）

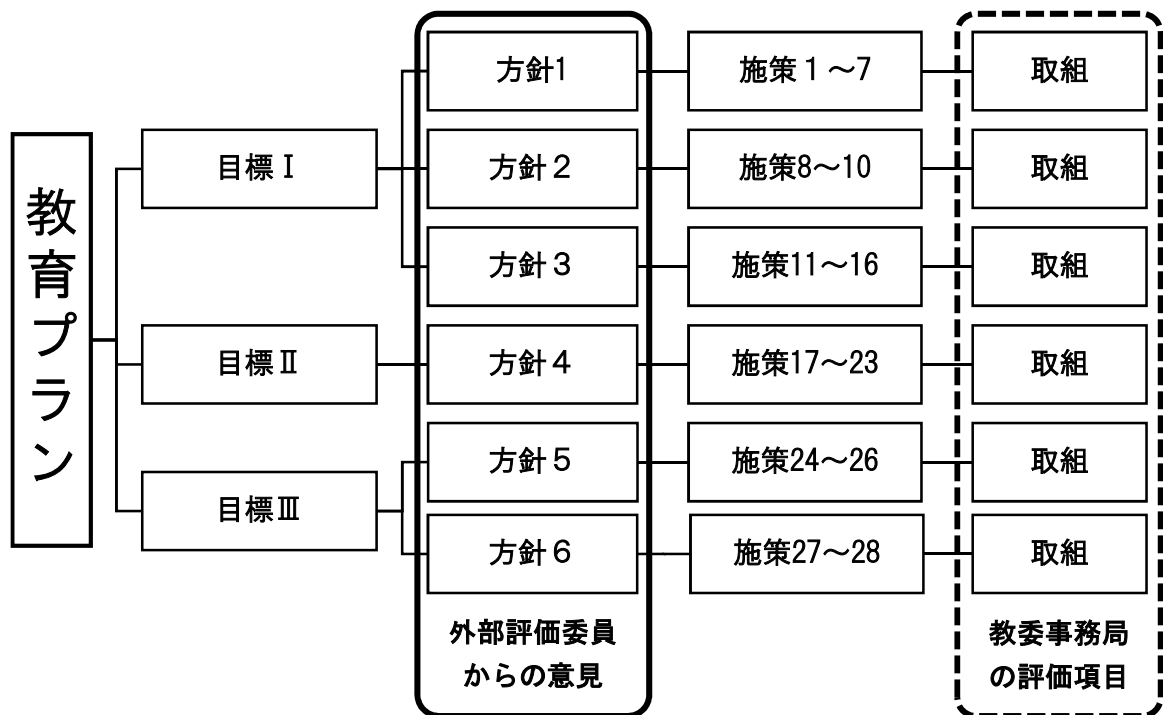
⑥ 市民、団体等との意見交換の場への参加

上記のような多様な公務活動のほか、市民への様々な情報発信、市民や関係団体との情報、意見交換も求められており、体育協会、文化協会、青年会議所など各種団体の会合や行事にも積極的に参加しているほか、委員自らが自主的な活動を通じて、教育現場の実態把握や、自己研鑽にも努めています。

2 教育に関する事業の点検及び評価

今年度（令和4年度）分の教育に関する事業の点検・評価について、市教委では、令和4年度の教育行政執行方針と予算（参照 資料1）、及び石狩市教育プランに基づく施策ごとに掲げる目的達成に向け、取組状況を点検・評価し、課題等を分析、分析結果をもとに今後の方向性を示しています。

（1）石狩市教育プランの構造と評価・意見の区分（イメージ図）



（2）点検・評価の対象と評価基準について

点検・評価の対象は、石狩市教育プラン（2020年度～2024年度）に掲げる基本目標を達成するための各施策に基づいて実施する「主な取組」としてしています。

評価方法は、教育委員会事務局における『自己評価』方式で、令和4年度に実施を予定していた事業について、年度当初に定めていた目標が達成できたか否かを検証します。

評価及び評価基準は下表のとおり3段階となっており、予定どおり目標が達成できた場合はA評価とし、この評価を基点とします。目標を上回った場合はAA評価、目標を下回った場合はB評価とし、A評価以外はその理由を、また、A評価でも補足説明が必要な場合は、「分析」、「方向性」欄に記述をしています。

また、プランに掲げる施策ごとの成果指標についても令和4年度の実績を記載し、プランに掲載している令和元年度の実績と比較できるようにしています。成果指標の結果は、概ね評価とリンクしています。

評価		評価基準	説明の記述
良 ↓ 悪	AA	目標に対する達成率が100%を上回ったとき	必須
	A	90～100%の場合	適宜
	B	90%を下回った場合	必須
不能		F 外的な要因(コロナ)等により実施できなかった場合	必須

(3) 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性（一覧）

基本目標	基本方針	施策	ページ
【目標Ⅰ】 自ら学ぶ意欲をもって、主体的に社会に関わり、新しい時代を生きる力を育てる	1 新しい社会で生きる力の育成	1 確かな学力の育成	9
		2 特別支援教育の充実	10
		3 外国語教育の充実	11
		4 理数教育の充実	12
		5 情報教育の充実	13
		6 キャリア教育の充実	14
		7 手話を通じた学びの推進	15
	2 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進	8 家庭教育支援の充実	16
		9 学びのセーフティネットの構築	17
		10 学校を核とした地域づくり	18
	3 学びをつなぐ学校づくり	11 開かれた学校づくりの推進	19
		12 学校施設・設備の整備・充実	20
		13 安全な学校づくりを目指した環境の整備	21
		14 学びの段階間の連携・接続の推進	22
		15 学校運営の改善	23
		16 学校安全教育の充実	24
【目標Ⅱ】 思いやりと豊かな心・健やかな体をもって、多様な人々と共に支え合う人を育てる	4 健やかな成長を促す取組の推進	17 道德教育の充実	25
		18 読書活動の推進	26
		19 体験活動の推進	27
		20 コミュニケーション能力の育成	28
		21 いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実	29
		22 体力・運動能力の向上	30
		23 健康・食育の推進	31
【目標Ⅲ】 ふるさとへの愛着をもち、幅広い視野で新しい価値を創造し、活躍する人を育てる	5 学びを活かす地域社会の実現	24 生涯学習の振興	32
		25 芸術文化活動の推進	33
		26 図書館サービスの充実	34
	6 ふるさとを学ぶ機会の充実	27 ふるさとを学ぶ機会の充実	35
		28 文化・自然遺産の保護・保存・活用の推進	36

目標Ⅰ-方針1

施策1		確かな学力の育成				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	学校改善の推進		A	A	指導主事	
(2)	「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善		B	A	指導主事	
(3)	定着を一層確かにする工夫「1校1プラン(学力充実)」の策定と実施		A	A	指導主事	
(4)	情報を正確に理解し適切に表現する力の育成(話す、聞く、書く、読む)		A	A	指導主事	
(5)	学習環境の整備(教室環境・学習習慣・集団づくり・言葉遣い)		A	A	指導主事	
(6)	研修活動の充実・授業研究の推進		A	A	指導主事	
(7)	授業と連動させた宿題、家庭学習の取り組み方の指導		B	A	指導主事	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	1	CRT標準学力調査において、国語の全国平均に対する石狩市の小学5年生、中学2年生の割合	小5 97 中2 93	小5 96 中2 96	小5 95 以上 中2 95 以上	%
		*	*	*	*	*
※CRT標準学力調査では、令和6年度目標と合わせて、同一母集団で前年度全国比を上回ることを目指す						
【取組の成果等】						
(1) 学校改善の推進 ・学校訪問やヒアリングを実施し、学校経営や学力保障等に関し校長、教頭に指導・助言を行ってきた ・学力調査等の各種調査における石狩市の結果とその分析考察、及び学校への周知を迅速に行い、速やか且つ的確に改善方策を実行するよう指導・助言を行った (2) 「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善 ・定例校長会・教頭会だけではなく、ウインターセミナーやICT教育推進担当者協議会で、1人1台端末等の効果的活用も含めた、子どもの主体性と対話による深い学びを意識した授業構築の指導助言や研修を行ったが、依然として教師による説明が長い授業や児童生徒が受け身となっている授業も見られ、授業改善に向けて指導・助言の継続が必要である (7) 宿題や家庭学習を充実させる取組は行っているものの、全国平均と比較して家庭学習の時間は短く、取組の改善が必要である 【成果指標1】※同一母集団の昨年度からの変容 ・小学校5年生：前年度(小4時)比－1P ・中学校2年生：前年度(中1時)比－2P						
【方向性】						
(2) 「主体的・対話的で深い学び」からの授業改善 ・具体的な視点 ○単元(題材)を見通して、育成を目指す資質・能力を明確にし、評価規準を設定 ○主体的に学習に取り組めるよう、自身の学びや変容を自覚できる場面を設定 ○対話により自分の考えを広げたり深めたりする場面を設定 ○学びの深まりをつくるために児童が考える場面と教師が教える場面を組み立てる						

目標Ⅰ-方針1

施策2		特別支援教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用		A	A	教育支援課	
(2)	早期からの連携による教育相談の充実		A	A	教育支援課	
(3)	教職員研修・講習会の充実		A	F	教育支援課	
(4)	特別支援教育支援員の養成		A	A	教育支援課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	2	特別支援教育に関する研修受講者延べ人数 (教員、特別支援コーディネーター<CN>、支援ボランティア)	教員 35 CN 13 支援員 89	教員 0 CN 0 支援員 33	183 以上	人
【取組の成果等】						
(1) 「個別的教育支援計画」「個別の指導計画」の活用 ・市内の各学校で作成し活用 (2) 早期からの連携による教育相談の充実 ・支援の必要な児童生徒の早期発見ときめ細やかな支援 ⇒ 就学前の教育相談・学校巡回訪問の実施 ⇒ 関係機関(子ども発達支援センター、保健師、認定こども園等)との連携 (3) 教職員研修・講習会の充実 ・教員・特別支援コーディネーターを対象に3回の研修を実施し、特別支援教育に関する専門性の向上を図った (4) 特別支援教育支援員の養成 ・支援方法の研修実施(年3回実施) ⇒ グループワーク及び個人面談を実施し、教育現場で起こる様々な日常生活の補助者としての資質向上を図った						
【方向性】						
(3) 教職員研修・講習会の充実 ☞ 教育支援主事や外部講師を招聘し、特別支援教育に関する研修を実施 ☞ 学校訪問や学校での児童生徒の個別対応時の機会を活かし、特別支援教育コーディネーターや特別支援教育担当教員へ専門的な知識を伝える						

目標Ⅰ-方針1

施策3		外国語教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	ALT(外国語指導助手)による生きた外国語を学ぶ機会の充実		A	A	指導主事	
(2)	外国語授業の指導力向上のための研修等の充実		A	A	学校教育課	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	3	CRT標準学力調査において、英語の全国平均に対する石狩市の中学2年生の割合	96	94	93以上	%
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
※CRT標準学力調査では、令和6年度目標と合わせて、同一母集団で前年度全国比を上回ることを目指す						
【取組の成果等】						
■ALTの体制 ・新型コロナウイルス感染症の影響により、欠員となっていたALT2名が来日し、厚田・浜益地区担当者を含め定員4名のALTが揃った ■ALT活用の効果 ・児童生徒との生きた英語によるコミュニケーション ⇒ 英語に対する興味・関心の喚起 ・親身な関わり ⇒ 児童生徒によるコミュニケーションのとりやすさ、英語スキルの向上 【成果指標3】 同一母集団の昨年度(中1時)からの変容 前年比-3						
【方向性】						
■ALTの体制 ☞ 現行の体制を維持し、子どもたちの外国語への関心意欲を高め、コミュニケーション能力の向上を図る素地となる資質・能力の育成を目指す						

目標Ⅰ-方針1

施策4		理数教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	観察・実験を重視する授業の充実		A	A	指導主事	
(2)	関係機関(道研)による移動理科教室(サイエンスカー)の活用		B	B	指導主事	
(3)	普段の生活との関わりを意識した授業の充実(理科・算数・数学)		A	A	指導主事	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	4	CRT標準学力調査において、理科の全国平均に対する石狩市の小学5年生、中学2年生の割合	小5 94 中2 93	小5 93 中2 91	小5 96 中2 98 以上	%
	5	CRT標準学力調査において、算数・数学の全国平均に対する石狩市の小学5年生、中学2年生の割合	小5 95 中2 90	小5 85 中2 96	小5 96 中2 89 以上	%
	6	全国学力・学習状況調査において、「算数(数学)の授業で学習したことは、将来、役に立つ」と思っている小学校6年生、中学校3年生の割合	小6 93.5 中3 77.6	小6 93.6 中3 75.6	小6 90.4 中3 75.5 以上	%
※CRT標準学力調査では、令和6年度目標と合わせて、同一母集団で前年度全国比を上回ることを目指す						
【取組の成果等】						
(2) 関係機関(道研)による移動理科教室(サイエンスカー)の活用 令和4年度も学校教育課より「移動理科教室」への応募を呼びかけ、応募した小学校があったが、選抜されなかったためBとした 令和5年度も積極的な応募を呼びかける 【成果指標4】 ※同一母集団の昨年度からの変容 小学校：前年度比 -1P、 中学校：前年度比 -7P 【成果指標5】 ※同一母集団の昨年度からの変容 小学校：前年度比 +2P、 中学校：前年度比 -6P 【成果指標6】 ※昨年度からの変容 小学校では90%を超える高水準を維持。中学校では77%程度であるもののR6年度の目標値を超えている。年度毎の児童生徒の実態もあるが、学習指導要領で「生活との関連を意識した指導の充実」が示され、日常の授業の中で実践化が図られていることなどが、今回の変容の一つの原因となっていると考えられる						
【方向性】						
・理数教育の充実については、次の視点からの目標と指導と評価の一体化を意識した授業づくりの指導助言を行う。 ☞ 興味・関心を高める指導の充実 …「普段の生活との関連を意識した授業の充実」の視点 ☞ 探究の過程を重視した理数教育の充実 …「観察・実験を重視する授業の充実」の視点 ☞ 全国学力・学習状況調査やCRT標準学力調査の問題を生かした授業改善の視点						

目標 I -方針 1

施策5		情報教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	電子黒板やICT機器などの情報機器の整備		A	AA	総務企画課 学校教育課	
(2)	プログラミング的思考を育む教育活動の充実		A	A	学校教育課 指導主事	
(3)	教員のICT機器活用指導力の向上を図る取組の推進		A	A	学校教育課 指導主事	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	7	全国学力・学習状況調査において、教員が大型提示装置（電子黒板、プロジェクター）などのICTを活用した授業を1クラス当たり、ほぼ毎日行っていると回答した学校の割合	小 100 中 71.4	小 100 中 42.9	小 66.7 中 37.5 以上	%
	8	全国学力・学習状況調査において、授業でコンピュータなどのICT機器を週1回以上使用していると回答した小学校6年生、中学校3年生の割合	小6 52.2 中3 88.9	小6 35.8 中3 23.1	小6 35.8 中3 23.1 以上	%
【取組の成果等】						
(1) 電子黒板やICT機器などの情報機器の整備 ・電子黒板は、全学校の普通教室で整備済み ・1人1台端末の整備済み ・高速大容量の情報通信インターネット環境の整備済み (3) ICT活用能力向上に向けた取組 石狩市ICT教育推進プロジェクト会議(3回)と石狩市ICT教育推進担当者協議会(2回)を行い、教員の活用能力の向上に資する取組を行った 令和4年度は「学びの質の向上を図る1人1台端末を活用した授業づくり」と「AIDリル等、1人1台端末を活用した家庭学習の充実」をテーマとした好事例の発信と研修を行った ■その他 1人1台端末の常時持ち帰りに伴う課題の整理、新たなAIDリルの導入などの環境整備も行った						
【方向性】						
(1) 電子黒板やICT機器などの情報機器の整備 ・理科室をはじめとする特別教室への電子黒板の導入や書画カメラの更新 ■一人一台端末を含め、ICT機器が学校でも家庭でも日常的に使われるようになっており、以下の取組が必要 ☞ 児童生徒の機器活用能力、情報リテラシーの向上 ☞ 緊急時におけるオンライン授業実施のための環境整備 ☞ 教職員のICT活用能力の向上に向けた研修の充実						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度の取組に対する意見)						
・小中学生の情報機器に対する環境は目覚ましいものがあり、情報を入手するスピードが格段に上がっています。自ら考える力や洞察力が失われないような利用方法を望みます。 ・端末の持ち帰りを想定した場合、学校内で使用するとき以上に、情報モラル教育や端末に関するルールメイキングが重要となるので、スマートフォン・SNSの正しい使い方講座も含めたルールづくり等に取り組まれることを望みます。 ・児童生徒一人一台端末が授業での活用に取り組まれていることを評価します。 タブレット端末の活用(持ち帰り等)では、各学校で苦勞されていると思いますが、今後更なる効果的活用を目指して取り組まれることを期待します。						

目標Ⅰ-方針1

施策6		キャリア教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	学ぶことと働くことの繋がりを意識した、学習・体験活動・職業体験の充実		A	A	学校教育課 指導主事	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	9	全国学力・学習状況調査において、「将来の夢や目標を持っている」という小学校6年生、中学校3年生の割合	小6 79.7 中3 67.4	小6 82.7 中3 65.5	小6 82.2 中3 72.1 以上	%
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
■職業体験 ・新型コロナウイルス感染症の状況から石狩中、厚田学園、浜益中の3校で実施した 他の4校は感染状況から中止した ⇒ 体験先は、官公庁・保育所・医療関係・流通関係・販売・果樹園等で実施 体験学習を中止した学校では、職業・上級学校調べやマナー講習等を実施						
【方向性】						
☞ 令和5年度は新型コロナウイルス感染症予防のための教育活動の制限が大幅に緩和されることから、自らの未来を切り拓いていく力を身に付ける手立てとして、「職業体験学習」を実施していくよう、各学校に指導助言を行う						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度の実績に対する意見)						
・コロナ終息後は広く社会体験活動の機会を引き続き継続されることを望みます。 ・学校教育に協力いただける企業・団体・人材を各学校レベルで継承していくのではなく、市内で共有できるような仕組みを整備することで、引き続き各学校のキャリア教育を支援されることを望みます。						

目標Ⅰ-方針1

施策7		手話を通じた学びの推進					
【取組】				【評価】		所管	
				R4年度	R3年度		
(1)	学校への手話出前授業の実施			A	A	学校教育課	
	＊			＊	＊	＊	
	＊			＊	＊	＊	
	＊			＊	＊	＊	
成果指標	No.	指標の名称		R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	10	手話講習会等を年1回以上行った学校数		16 ※全校実施	15	全校 実施	校
		＊		＊	＊	＊	＊
		＊		＊	＊	＊	＊
【取組の成果等】							
(1) 学校への手話出前授業の実施 ・市内全16校(厚田学園は1校とする)で手話授業を実施し、ろう者への理解と、手話が言語であることの理解を深めた 令和4年度石狩市手話出前授業実績（市内学校）							
学校名※1		学年					
		1	2	3	4	5	6
石狩八幡小学校				2	2	2	2
花川小学校		2	2	3	3	3	3
生振小学校					2		
南線小学校		2	2	2	2	2	2
花川南小学校		2	2	2	2	2	2※2
紅南小学校		2	2	3	3	3	2
緑苑台小学校		2	2	2	2※2	2	2
双葉小学校		2	2	3	3	3	3
厚田学園（前期）		1		1		1※3	
浜益小学校		1				1	
学校名		学年					
		1	2	3	特支		
石狩中学校		1	1	1			
花川中学校		1	1	1	1		
花川南中学校		3	3	3	3		
花川北中学校		1	1	1			
樽川中学校		1	1	1	1		
厚田学園（後期）		1※4		1			
浜益中学校		1					
※4 厚田学園7年は5・6年と合同実施							
※1 小学校は特別支援学級在籍児童について学年ごとの集計に含む。 ※2 一部学級は1回のみ ※3 厚田学園5・6年は7年と合同実施							
【方向性】							
☞ 全校における実施の継続 ☞ 実施回数の増 ⇒ 手話を言語として認知する ⇒ 手話の理解の広がりを実感							

目標Ⅰ-方針2

施策8		家庭教育支援の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	子育て世代の包括的な支援(家庭児童相談員等の配置)		A	A	子ども相談センター	
(2)	家庭教育及び子育てに関する各種講座の開催		A	A	社会教育課 子ども政策課	
(3)	中学校の試験期間に合わせた小学校の家庭学習強化週間の設定		A	A	指導主事	
(4)	あい風寺子屋事業による放課後学習支援の充実		A	A	社会教育課	
(5)	放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備		AA	AA	子ども政策課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	11	全国学力・学習状況調査において、児童生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら伝えていると回答した学校の割合	小 60.0 中 85.7	小 60.0 中 71.4	小 66.7 中 37.5 以上	%
	12	全国学力・学習状況調査において、学校の授業時間以外に、普段(月曜日から金曜日)、1日当たり「1時間以上」勉強(学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む)している小学校6年生、中学校3年生の割合	小6 65.0 中3 57.5	小6 65.5 中3 70.3	小6 61.2 中3 56.6 以上	%
	13	放課後児童クラブ及び放課後子ども教室等の一体的又は連携による実施箇所数	6	5	1以上	箇所
【取組の成果等】						
(2) 家庭教育及び子育てに関する各種講座の開催 ・「家庭教育講座 佐々木十美の子どもと食べたい朝ごはん」・「家庭教育講座 いのちのおはなし」の開催 ・いしかり子育てネット会議企画子育て講座の開催 (3) 中学校の試験期間に合わせた小学校家庭学習強化習慣の設定はなされているが、【成果指標12】にあるように、家庭学習の時間が少ない。また、スクリーンタイムは長時間化しており、学力保障、体力向上等に向け、家庭と連携した生活習慣の改善が必要である (※)「スクリーンタイム」…テレビ、スマートフォン、ゲーム機等による映像の視聴時間 (4) あい風寺子屋事業による放課後学習支援の充実 ・新型コロナウイルス感染防止に考慮し、ほぼ予定通り実施 ・大人数にならないよう学年別での実施など工夫しながら実施 (5) 放課後児童クラブ及び放課後子ども教室の計画的な整備 ・児童数やニーズに応じた開設準備及び廃止等を計画的に推進 ・南線小学校区の利用者ニーズに応じて、おおぞらクラブ(定員40名)を廃止し、エースクラブ(定員60名)を開設し、定員を増やした						
【方向性】						
㊦各学校において家庭学習の習慣化に向けて取り組みがなされていることから、学校訪問の際に取組状況を把握し、課題解決や一層の取組の推進に向けての指導助言を継続する						

目標Ⅰ-方針2

施策9		学びのセーフティネットの構築				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	就学援助などによる経済的支援		A	A	学校教育課	
(2)	教育(スクールソーシャルワーカー)と福祉(家庭生活支援員)による総合的な支援		A	A	教育支援課	
(3)	補充(放課後)学習の充実		A	A	学校教育課	
(4)	生活困窮等を要因とした、学習面での支援ニーズへの対応		A	A	福祉総務課 教育支援課	
(5)	地域団体による子どもの居場所づくりの支援(学習支援・食事支援等)		A	A	子ども政策課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	14	スクールソーシャルワーカー(SSW)が行った相談の延べ件数と家庭生活支援員が行った学習支援・家庭生活支援の延べ件数	SSW 481 支援員 929	SSW 552 支援員 1310	SSW 246 支援員 1442 以上	件
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) 就学援助などによる経済的支援 ・前年度に引き続き、新型コロナウイルス感染拡大に伴い、離職・失業等により経済環境の激変があった世帯に対して、失業者の前年収入を0円とみなして収入判定を行う等の臨時的な特例を設けたが、対象者はいなかった (2) 教育(スクールソーシャルワーカー)と福祉(家庭生活支援員)による総合的な支援 ・不登校、いじめ、児童虐待、問題行動など児童生徒や保護者の悩みや困りごとの解消に向け、学校とともにスクールソーシャルワーカーが関係機関と連携を図り、個々のニーズに寄り添いながら効果的な支援を行うことができた (5) 地域団体による子どもの居場所づくりの支援(学習支援・食事支援等) ・2団体に交付金を交付し、子どもの居場所づくりを支援した						
【方向性】						
(3) 補充(放課後)学習の充実 ・今年度以降も学習支援員やSATによる学習支援が拡大に努める						

目標Ⅰ-方針2

施策10		学校を核とした地域づくり				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	地域学校協働活動の推進		A	A	社会教育課	
(2)	コミュニティ・スクール(学校運営協議会)導入による地域一体の学校運営		A	A	総務企画課	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	15	全国学力・学習状況調査において、地域学校協働本部やコミュニティ・スクールなどの仕組みを生かして、学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの保護者や地域との協働による活動を「よく行っている」と感じている学校の割合	小 50.0 中 71.4	小 70.0 中 42.9	小 33.3 中 25.0 以上	%
	16	全国学力・学習状況調査において、今住んでいる地域の行事に参加している小学校6年生、中学校3年生の割合	小6 45.7 中3 33.9	小6 54.6 中3 35.7	小6 59.9 中3 45.4 以上	%
【取組の成果等】						
(1) 地域学校協働活動の推進 ・これまで地域ぐるみで学校を支援する取り組みから、地域と学校が連携・協働する地域学校協働活動へ円滑かつ効果的に移行されるよう、本部事業実施要綱の一部を改正し取り組んだ ・地域コーディネーターを6人から7人に増員したことにより、学校と地域が連携・協働して、教育環境の充実を目指す体制づくりが進んだ (2) コミュニティ・スクール導入による地域一体の学校運営 ⇒ コロナ禍においても全体で42回の会議が開催され(書面開催も含む)、前年(34回)より協議する機会が増加した ⇒ 主に学校評価等が協議され、地域と学校との一体感が図られるとともに、地域学校協働本部事業や学校運営協議会関係団体とが学校を支援する取組について協議が行われ、合同防災教室や学習支援、交通安全活動等が実施された ⇒ 「地域からの学校づくり」と「学校からの地域づくり」の双方の取り組みを各協議会で模索中 浜益区においては、中学生が地元食材を販売する等、学校からの地域づくりの取り組みを実施						
【方向性】						
☞ 各CS単位での地域学校協働活動の推進を目指し、地域コーディネーターを中心とした学校支援活動や環境整備を継続して推進するとともに、地域コーディネーターの確保、また、地域ボランティアなどの新たな地域人材の発掘・育成を目指す						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度 of 取組に対する意見)						
市内全校にコミュニティ・スクールが組織されたこと、スタートされたことを評価します。 今後の取り組みをさらに充実されていくことを期待します。また、取り組みを進めるにあたっては「協働」の含意が双方向性にあることを意識し、「地域からの学校づくり」と「学校からの地域づくり」の双方の取り組みとなることを望みます。						

目標Ⅰ-方針3

施策11		開かれた学校づくりの推進				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	学校ホームページの充実		A	A	学校教育課	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) 学校ホームページの充実 ・各校、学校評価におけるホームページに関する評価指標は全校達成 【参考】各学校のホームページ更新率(更新回数/登校日): 平均75パーセント						
【方向性】						
(1) 学校ホームページの充実 ☞ 「開かれた学校」を推進するため、定期的な更新と適時・適確な情報発信を継続						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度 of 取組に対する意見)						
学校ホームページによる情報発信を通して、学校と家庭・地域との連携を深めるため、ホームページのコンテンツ充実だけでなくアクセス数の増加を意識した取り組みを期待します。						

目標Ⅰ-方針3

施策12		学校施設・設備の整備・充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	学校施設長寿命化計画の策定及び実施(※)		A	A	総務企画課	
(2)	トイレの洋式化		AA	A	総務企画課	
(3)	教材教具設備・備品の整備		A	A	学校教育課	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	17	学校トイレ洋式化の割合	小 98.3 中 99.1	小 98.3 中 84.3	小 64.0 中 49.3 以上	%
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) 学校施設長寿命化計画の策定及び実施(※) ・令和2年度に策定した計画を基に、令和3年度は花川南中学校の大規模改修の実施設計を行った ・令和4年度は、第1期の大規模改修工事(屋上防水、外壁補修・塗装、内部塗装、トイレ改修)を実施した ※教育プランの当初目標は、計画を策定することであり、令和2年度に目標を達成した 令和3年度以降、目標を変更し計画を基に改修を進めるため「実施」と追記する (2) トイレの洋式化 ・令和3年度は、生振小、南線小、花川南小、紅南小、緑苑台小、双葉小、石狩中、花川中、花川北中で洋式化工事を行った ・令和4年度は、花川南中学の大規模改修において洋式化工事を行った ⇒ 安全上又は構造上改修ができない箇所を除き、全校での洋式化が完了し、当初の目標値を達成した						
【方向性】						
(1) 学校施設長寿命化計画の策定 ☞ 令和4年度に続き、5年度も花川南中学校の大規模改修(第2期工事)を行う (2) トイレの洋式化 ☞ 花川南中学校大規模改修により全校の洋式化率は98.7%となり目標値を大きく上回り、令和4年度をもって全校洋式化は完了した なお、小中学校共に安全上及び構造上の理由から洋式化率100%は達成出来ない						

目標 I -方針 3

施策13		安全な学校づくりを目指した環境の整備				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	危機管理マニュアルの整備、適切な運用と訓練の実施		A	A	総務企画課	
(2)	情報セキュリティマニュアルの適正な運用及び教職員研修の実施		A	A	学校教育課	
(3)	通学路交通安全プログラムに基づく、点検・対策の実施		A	A	総務企画課	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	18	学校の防犯カメラ設置状況	小 7校 中 5校 義 1校	小 7校 中 5校 義 1校	全校設置	校
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) 危機管理マニュアルの整備、適切な運用と訓練の実施 ・各学校で危機管理マニュアル整備済み、適宜修正を加えたうえ、避難訓練等を実施 (3) 通学路交通安全プログラムに基づく、点検・対策の実施 ・各学校より報告のあった51箇所を関係部署と対応策等を協議し、対応策を各学校へ通知 ⇒ 令和3年度中に実施した点検に伴い令和4年度北陽通りと道道石狩手稲線が交わる交差点において、歩行者用信号1機が設置された						
【方向性】						
(2) 情報セキュリティマニュアルの適正な運用及び教職員研修の実施 ☞ 1人1台端末と高速通信ネットワークなど学校ICT環境の整備を踏まえ、情報セキュリティポリシー(指針)を策定し、遵守体制を確立する (3) 通学路交通安全プログラムに基づく、点検・対策の実施 ☞ 引き続き各学校からの報告等を基に点検・対策を進める 【成果指標18】 ・防犯カメラ未設置校については、令和6年度までに設置を予定						

目標 I -方針 3

施策14		学びの段階間の連携・接続の推進				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	認定こども園などへの情報提供		A	A	教育支援課	
(2)	保護者の幼児教育・保育等の選択の支援(子育てコンシェルジュの配置)		AA	AA	子ども政策課	
(3)	保育士等の処遇改善と確保対策		A	A	子ども家庭課	
(4)	スタートカリキュラムの実施にかかる、幼保小の連携		A	A	指導主事	
(5)	中一ギャップの解消を目指した小中の連携		A	F	指導主事	
(6)	生活、学習規律、家庭学習時間等の小中でのスタンダード化		A	A	指導主事	
(7)	校内研修への、学校間の相互参加		A	F	指導主事	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	19	全国学力・学習状況調査において、近隣の中学校(小学校)と、教育課程に関する情報交換を「よく行った」と思っている学校の割合	小 20.0 中 42.9	小 40.0 中 42.9	小 41.7 中 25.0 以上	%
【取組の成果等】						
(1) 認定こども園などへの情報提供 ・市内の認定子ども園に対し「就学前の教育相談のお勧め」のチラシを配布した ・認定子ども園等の保護者会において、就学に向けた教育相談について説明を行った (2) 保護者の幼児教育・保育等の選択の支援 ・コンシェルジュが保護者のニーズの把握に努め、悩みに寄り添い、アドバイスや情報提供、関係機関へのつなぎなど適切な支援を行うことができた (3) 保育士等の処遇改善と確保対策 ・施設型給付費に係る処遇改善等加算の適用による処遇改善(市内全園) ・市内の認定こども園等に就職した者に「就職奨励金」を交付し、保育士の確保に努めた (4) 幼保小連携協議会を2回実施した。 ・1回目は連携の目的や重要性について、講師による講演をオンラインで実施した ・2回目は幼保小の担当者が参集し、それぞれの実態等を交流・情報共有した						
【方向性】						
(4) スタートカリキュラムの実施に係る、幼保小の連携 ☞ 切れ目のない幼保小の連携を図りつつ、令和4年度は幼保小連絡協議会を開催し、小1プロブレム解消につながるスタートカリキュラム等について、幼保小の教諭が取組の充実を図るよう指導助言を行う (5) 中一ギャップの解消や学力保障の推進を目指した小中の連携 ☞ 令和5年度も国語科「読むこと」領域における9年間の教育課程編成作成など、学びの連続性に係る取組の強化について指導助言を行う (7) 校内研修への、学校間の相互参加 ☞ 令和5年度は、取組が活性化するように指導助言を行う						

目標 I -方針 3

施策15		学校運営の改善				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	指導主事による学校訪問、学校ヒアリングの充実		A	A	指導主事	
(2)	学校における働き方改革推進計画の実施		A	A	学校教育課	
(3)	働き方改革に関する視点を盛り込んだ「学校経営方針」や「重点目標」の設定		A	A	学校教育課	
(4)	働き方改革の実現に向けた環境整備		A	A	学校教育課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	20	一月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える教員の割合	28.0	26.6	25.8 以下	%
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(2) 学校における働き方改革推進計画の実施、(4) 働き方改革の実現に向けた環境整備 ・令和2年度から、ICカード・カードリーダーを用いた出退勤時間の管理を実施し、客観的な勤務時間の把握を実施						
【方向性】						
(2) 学校における働き方改革推進計画の実施、(4) 働き方改革の実現に向けた環境整備 ☞ 客観的な勤務時間の把握と情報の共有を進め、一月当たりの時間外勤務時間が45時間を超える教職員の割合の逡減化を図り、教職員の負担逡減を進める ☞ 部活動の地域移行の逡進により、教職員の負担逡減を進め、持続可能な部活動の実現を図る						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度の取組に対する意見)						
働き方改革の逡進によって、教職員の勤務の「量的な適切化」と「質的な充実化」が図られることにより、教育の質が向上することを希望しますが、一方で、子どもたちの活動が制限されるようなことが無いように願います。						

目標Ⅰ-方針3

施策16		学校安全教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	防犯教室・防犯訓練の実施		A	A	教育支援課	
(2)	交通安全教室・自転車乗車マナー教室の実施		A	A	教育支援課	
(3)	災害に応じた避難訓練の実施		A	A	総務企画課	
(4)	学校・地域・家庭での「あいさつ運動」の実施		A	A	社会教育課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) 防犯教室・防犯訓練の実施 ・警察職員等を講師として、校内に不審者が侵入した場合に的確で安全な行動が取れるよう指導した (2) 交通安全教室・自転車乗車マナー教室の実施 ・交通安全指導員等を講師として招聘 ⇒ 小学校では通学路に潜む危険や横断歩道の渡り方等を指導した ⇒ 中学校では自転車の点検や走行マナー等を指導した (4) 学校・地域・家庭での「あいさつ運動」の実施 ・新型コロナウイルス感染症拡大防止を考慮しながら、地域学校協働事業の中ではしっかりと「あいさつ運動」の取組をした						
【方向性】						
(1) 防犯教室・防犯訓練の実施 ☞ 地域学校協働本部事業において、地域ボランティアが子どもたちと関わることで、地域の防犯につながると考え、今後も事業を推進する						

目標Ⅱ-方針4

施策17		道徳教育の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	「道徳科」を基軸とした豊かな心の育成		A	A	学校教育課	
(2)	保護者への「考え、議論する道徳科授業」の公開		A	B	指導主事	
(3)	他者を思いやる心の育成		A	A	指導主事	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	21	全国学力・学習状況調査において、「自己肯定感や自尊感情が高い」と感じている小学校6年生、中学校3年生の割合	小6 77.5 中3 76.7	小6 72.0 中3 70.5	小6 79.3 中3 73.2 以上	%
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(2) 保護者への「考え、議論する道徳科授業」の公開 ・すべての学校が「考え議論する道徳の授業」の推進に努めた ・新型コロナウイルス感染症の影響により「道徳科授業の公開」ができなかった学校もあった						
【方向性】						
(2) 保護者への「考え、議論する道徳科授業」の公開 ☞ 今年度も引き続き、地域住民や保護者へ「道徳科授業」を積極的に公開し、道徳教育への理解と協力を得る契機とするよう、学校へ指導助言していく						

目標Ⅱ-方針4

施策18		読書活動の推進				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	学校独自の取組を支援		A	A	市民図書館	
(2)	調べる学習コンクールの活用		A	A	市民図書館	
(3)	ブックスタート、家読(うちどく)の充実		A	A	市民図書館	
(4)	授業での市民図書館、学校図書館、学校司書の活用		A	A	市民図書館	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	22	全国学力・学習状況調査において、学校の授業以外で、普段(月～金曜日)、1日当たり「10分以上」読書(教科書や参考書、漫画や雑誌は除く)をしている小学校6年生、中学校3年生の割合	小 51.5 中 44.1	小 58.7 中 43.9	小 57.3 中 45.8 以上	%
【取組の成果等】						
(1) 学校独自の取組を支援 ・図書館利用オリエンテーション ・時事に即した特集展示や新刊図書紹介 ・読書週間時期等のイベント ⇒ 児童生徒が本に親しむ機会を創出 ⇒ 学校司書、市民図書館司書による支援体制確立と学校との情報共有 ⇒ 学校の好事例を学校司書間で共有、自校に活かす工夫 (2) 調べる学習コンクールの活用 ・疑問、調べたいことなどをイメージ ・図書館や市内施設等の利用 ・調べたり、考えをまとめる活動 ⇒ 本やインターネットを活用し、情報を取捨選択 ⇒ 現物、現場での体験を活かした取組 (3) ブックスタート、家読(うちどく)の充実 ・読書活動推進プロジェクトの実施 ⇒ 学校司書、市民図書館司書、市P連と連携した取組 ⇒ 市内全児童生徒へ読書標語入り「しおり」を配布 (4) 授業での市民図書館、学校図書館、学校司書の活用 ・蔵書の充実や読書活動の活性化につながる情報交換 ・授業で使用する本を学校図書館、市民図書館から提供 ⇒ 毎月開催している学校司書連絡会議で、選書等に関する情報交換 ⇒ 図書館の本を活用した学習を支援						
【方向性】						
(1) 学校独自の取組を支援 ☞ 児童生徒が本に親しむ機会を創出するために学校司書、市民図書館司書の支援体制を強化 (4) 授業での市民図書館、学校図書館、学校司書の活用 ☞ (2)調べる学習コンクールの活用と合わせ、図書館の本を活用した学習の定着を図る						

目標Ⅱ-方針4

施策19		体験活動の推進				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	奨励プログラムの活用(環境・人権・平和・国際理解)		A	A	学校教育課	
(2)	地域の様々な人々との交流や社会体験等の充実		A	A	社会教育課	
(3)	児童館を拠点とする、子どもたちが主体的に取り組む体験活動の充実(農村体験、けん玉チャレンジなど)		A	F	子ども政策課	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) 全ての学校が奨励プログラムを活用し、学校の自主的かつ特色ある教育活動の推進を図り、教育の充実に努めた (2) 地域の様々な人々との交流や社会体験等の充実 ・あい風寺子屋教室において地域と学校、子ども達が体験活動を実施したことにより、地域が子ども達を見守る意識の向上や子ども達が安心感を得られる機会となった (3) 児童館を拠点とする、子どもたちが主体的に取り組む体験活動の充実 ・子ども未来館あいぽーとで農村体験を、花川南小学校・紅南小学校でけん玉の体験活動をそれぞれ実施						
【方向性】						
(2) 地域の様々な人々との交流や社会体験等の充実 ☞ 学校支援地域本部事業(あい風寺子屋教室)を活用し、地域の方の経験や特技等を子どもたちに伝える取り組みを推進						

目標Ⅱ-方針4

施策20		コミュニケーション能力の育成				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	実験レポートの作成や、立場や根拠を明確にして議論することなどの充実(小中:総則、各教科等)		A	A	指導主事	
(2)	パートナースクールや小中間交流の効果的な活用		A	B	指導主事	
	*		*	*	*	
	*		*	*	*	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	23	全国学力・学習状況調査において、「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている」と感じている小学校6年生、中学校3年生の割合	小 78.1 中 76.3	小 77.5 中 70.1	小 73.4 中 70.4 以上	%
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(2) パートナースクールや小中間交流の効果的な活用 新型コロナウイルス感染拡大防止を考慮しながら、パートナースクールや教職員間の小中交流、部活動体験、乗り入れ授業などを実施した学校が多かった 【成果指標23】 「主体的・対話的で深い学び」の実現に向け、授業改善が進んでいる 小学校 : 前年度比 +0.6P 中学校 : 前年度比 +6.2P						
【方向性】						
(2) パートナースクールや小中間交流の効果的な活用 ☞ 積極的に交流事業を推奨し、コミュニケーション能力の育成を図るよう指導助言する 【成果指標23】 ☞ 1人1台端末やICT機器も効果的に活用しながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善の推進に向けて学校訪問等を通して指導主事から指導・助言する						

目標Ⅱ-方針4

施策21		いじめの防止や不登校児童生徒への支援の取組の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	小中連携した「いじめ防止集会」の実施		A	A	教育支援課	
(2)	SNS等の適切な利用についての指導		A	A	教育支援課	
(3)	いじめ等の問題行動や不登校の未然防止及び早期発見・即時対応		B	B	教育支援課	
(4)	スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用		A	A	教育支援課	
(5)	教育支援教室「ふらっとくらぶ」の活用		A	A	教育支援課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	24	全国学力・学習状況調査において、「いじめはどんなことがあってもいけないことだ」と思っている小学校6年生、中学校3年生の割合	小 98.7 中 96.7	小 98.5 中 98.5	全ての児童生徒が「思う」ことを目指す	%
	25	不登校児童生徒のうち、学校復帰やふらっとくらぶ、フリースクールなどにつなげられた割合 ※R6年度の目標数値は、令和元年度の実績数値以上としているが、令和2年度から実績の数値を国における調査の数値を使用しているため、数値が乖離している	小 43.7 中 26.7	小 38.7 中 39.3	小 7.7 中 21.6 以上	%
【取組の成果等】						
(1) 小中連携した「いじめ防止集会」の実施 ・市内小中学校で取り組んだ活動内容を市HPに掲載 (2) SNS等の適切な利用についての指導 ・情報モラル教育の充実の取組として、啓発リーフレット及び家庭のルールづくりシートを市HPに掲載 (3) いじめ等の問題行動や不登校の未然防止及び早期発見・即時対応 ・いじめ防止の対応について、主な取組の実施及び取組による成果に関しては目標を達成できたが、法に基づくいじめに関する重大事態の事案があり、総合評価はBとした (4) スクールカウンセラー・スクールソーシャルワーカーの活用 ・スクールカウンセラーと児童生徒との個別カウンセリングだけでなく、スクールカウンセラーを講師とした校内研修会や心に関する授業等の教育プログラムを実施 ・スクールソーシャルワーカーが定期的に学校訪問することにより、課題を抱える児童生徒の早期発見・早期対応に努めることができた (5) 適応指導教室「ふらっとくらぶ」の活用 ・中学校34名の生徒に対し教科学習・集団活動・体験活動を通して、学校への復帰あるいは社会的な自立を支援した						
【方向性】						
(2) SNS等の適切な利用についての指導 ☞ 保護者への啓発の取組として、啓発リーフレットと家庭のルールづくりシートを活用していただくよう各学校へ依頼						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度の取組に対する意見)						
新型コロナウイルス感染症の影響で様々な取り組みが行動制限や活動中止になり、子どもたちにも大きなストレスを抱えた毎日を送ることとなりました。そのストレスがいじめや登校拒否などに波及することなく過ごせるよう、関係団体が協力し合い子供を見守る体制をこれからも継続して実施していくことを望みます。						

目標Ⅱ-方針4

施策22		体力・運動能力の向上				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	1校1プラン(体力)に基づく体力の育成		A	A	指導主事	
(2)	新体力テストの活用		A	A	指導主事	
(3)	放課後の運動奨励、部活動指導の充実(外部指導者の活用など)		A	A	学校教育課	
(4)	レクリエーション活動の推進		A	F	総務企画課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	26	全国体力・運動能力、運動習慣等調査において、体力合計点の全国平均値を50.0とした場合の小学校5年生、中学校2年生の値	小男子 50.0 女子 50.4 中男子 48.4 女子 46.2	小男子 50.2 女子 49.4 中男子 48.8 女子 47.6	小男子 50.6 女子 48.5 中男子 50.8 女子 47.9	-
		*	*	*	*	*
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(2) 新体力テストの活用 ・感染対策を講じたうえで、令和4年度も全国体力・運動能力、運動習慣等調査、新体力テストを実施した小学校男子の結果は、全国平均同様であるが、体力合計点等は低下傾向にある。女子は初めて体力合計点で全国を上回った 中学校の結果は、体力合計点の全国平均より低く、その差は男女ともに広がっている 原因としては、コロナ禍における運動や外遊びの機会の減少、スクリーンタイムの増加等が考えられる						
(4) レクリエーション活動の推進 ・体力・運動能力の向上として、放課後すこやかスポーツ教室を実施 ・スポーツまつりは、新型コロナウイルス感染症の状況から規模を縮小して実施						
【方向性】						
(1) 1校1プラン(体力)に基づく体力の育成 ☞ 令和5年度は1校1プランの取組をはじめ、体育授業の充実や外遊びの推奨等の指導助言を行う						
(2) 新体力テストの活用 ☞ 児童生徒が自身の記録の変容を確認し、体力向上に向けた意欲向上につなげるため、すべての小学校に対し、全学年で全種目の実施を促し、実態を把握するとともに、経年の変化をとらえ、体力向上のための全体計画の策定、1校1プラン(体力)など特色ある取組を推進するほか、運動の楽しさを知ることができる環境の中で、危機回避能力や自分の成長を実感することができるよう指導助言する						

目標Ⅱ-方針4

施策23		健康・食育の推進				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	関係機関と連携した健康教育の充実(心肺蘇生講習(AED)、薬物乱用防止、がん教育など)		A	A	教育支援課 学校教育課	
(2)	「いしかりふれあいDAY」「生活リズムチェックシート」の活用(スマートフォン等の使用時間、食事摂取、睡眠時間など)		A	A	社会教育課	
(3)	学校給食「いしかりウィーク」の開催		A	A	学校給食センター	
(4)	「アレルギー明示献立」の配付、食物アレルギー対応給食の提供を継続		A	A	学校給食センター	
(5)	栄養教諭を中心とした「食に関する指導」の実施		AA	AA	学校給食センター	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	27	全国学力・学習状況調査において、毎日、同じくらいの時刻に寝ている小学校6年生、中学校3年生の割合	小 79.3 中 80.7	小 79.2 中 79.2	小 76.4 中 76.3 以上	%
	28	全国学力・学習状況調査において、朝食を毎日食べている小学校6年生、中学校3年生の割合	小 89.8 中 86.9	小 92.7 中 90.5	小 81.6 中 76.3 以上	%
	29	学校給食における、米及び主要な野菜の全使用量のうち石狩産食材の割合	52.2	48.7	54.9 以上	%
【取組の成果】						
(1) 関係機関と連携した健康教育の充実(心肺蘇生講習(AED)、薬物乱用防止、がん教育など) ・外部講師(警察職員等)を講師として、薬物乱用防止教室を開催 (2) 「いしかりふれあいDAY」「生活リズムチェックシート」の活用 ・「いしかりふれあいDAY」は、市P連の事業計画にも位置づけ、積極的に活動しており、認知度が高まっている ・「生活リズムチェックシート」については、ほとんどの学校が独自様式を採用し、生活習慣改善に向け様々な手法で指導をしていることを確認 (3) 学校給食「いしかりウィーク」の開催 ・「いしかりウィーク」(9月に5回実施)は集中した期間の食材調達となり天候等に左右されることから、令和4年度より「いしかりデー」(6月から10月まで各月1回計5回実施)にリニューアルした ・「いしかりデー」では、季節に応じた様々な石狩産の食材を用いることにより、子どもたちに地場産物・料理の普及啓発をおこなった (4) 「アレルギー明示献立」の配付、食物アレルギー対応給食の提供を継続 ・申請に応じて「アレルギー明示献立」を配付するとともに、食物アレルギー対応給食を提供した (5) 栄養教諭を中心とした「食に関する指導」の実施 ・学校における食育活動や地産地消の推進を図った(実施回数189回)						
【方向性】						
(2) 「いしかりふれあいDAY」「生活リズムチェックシート」の活用 ☞ 多くの学校がスマホやSNSの正しい使い方講座の実施を求めているため、これらの意見を参考に、市P連と連携しながら、今後の家庭教育事業の手段、方法を検討していく (3)～(5) ☞ 引き続き、食育及び地産地消の推進、適切なアレルギー対応を継続する						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度の実施に対する意見)						
子どもたちの「生活リズムチェックシート」の活用、テレビゲーム等の使用に関する家庭でのルール作りの取り組みを評価します。今後もスマホ等の使用について継続した取り組みを期待します。						

目標Ⅲ-方針5

施策24		生涯学習の振興				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	「いしかり市民カレッジ」「石狩シニアプラザはまなす学園」などの推進・支援		A	A	公民館	
(2)	公民館講座等の充実		A	A	公民館	
(3)	社会教育主事・社会教育支援スタッフの確保と育成		A	A	社会教育課	
(4)	社会教育関係団体への専門的な指導・助言		A	A	社会教育課	
(5)	社会教育施設等の整備と施設の特性を活かした有効的な活用		A	A	社会教育課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	30	市教委や社会教育団体が行った市民向け講座等の開催数 ※教育プランでは、連携講座等を含めていなかったが、市民向け講座として目標値及び実績値に反映する	735	798	800 以上	回
	31	社会教育主事、生涯学習アドバイザー、地域コーディネーターの人数	13	11	8 以上	人
【取組の成果等】						
(1) 「いしかり市民カレッジ」「石狩シニアプラザはまなす学園」などの推進・支援 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、「いしかり市民カレッジ」等の講座を予定通り実施 (2) 公民館講座等の充実 ・新公民館オープン事業に併せ、2講座を実施						
【方向性】						
(2) 公民館講座等の充実 ☞ 関係機関と更なる連携を図りながら、講座等を充実させる (3) 社会教育主事・社会教育支援スタッフの確保と育成 ☞ 事業の実施や研修の受講を通じて社会教育主事の資質向上を目指す						
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見(令和3年度の取組に対する意見)						
生涯学習の振興とあわせて社会教育の側から学校教育の課題解決につながる連携を望みます。						

目標Ⅲ-方針5

施策25		芸術文化活動の推進				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	ロビーコンサートなどのイベントの継続		A	A	社会教育課	
(2)	俳句のまち～いしかり～こども俳句コンテストの継続と「俳句ガイド」の活用		A	A	社会教育課	
(3)	市民文化祭開催の支援		A	A	社会教育課	
(4)	芸術文化活動への支援		A	A	社会教育課	
(5)	各種コンクール・検定等への応募の奨励		A	A	社会教育課	
(6)	「情操教育プログラム」の開催(あい風コンサート・The music など)		A	A	社会教育課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	32	市教委が実施する体験活動の回数(情操教育プログラムなど)	13	14	11 以上	回
		*	*	*	*	*
【取組の成果等】						
(1) ロビーコンサートなどのイベントの継続 ・新型コロナウイルス感染症防止を徹底し、予定どおり実施 (2) 市民文化祭開催の支援 ・舞台部門は通常通りの実施。展示会場は新型コロナウイルス感染防止を考慮し、会場を変更し、参加団体を割り振りしながら長いスパンで実施 (4) 芸術文化活動への支援 ・文学を読む会の記念誌発行事業へ補助金交付 (6) 「情操教育プログラム」の開催 ・新型コロナウイルス感染症対策を徹底し、各会場の変更や実施回数を増やすなど工夫しながら実施						
【方向性】						
☞ 開催方法や会場など関係機関と連携を密にし、工夫しながら文化振興事業を実施していく						

目標Ⅲ-方針5

施策26		図書館サービスの充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	司書研修等によるレファレンスサービス(調べもの相談)の充実		A	A	市民図書館	
(2)	ボランティアによるおはなし会、DVD上映会		A	A	市民図書館	
(3)	図書館まつり、科学の祭典などのイベントの充実		A	A	市民図書館	
(4)	新刊図書の購入や適切な除籍による蔵書の充実		A	A	市民図書館	
(5)	地域の歴史や情報を伝える資料の収集・提供		A	A	市民図書館	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	33	市民図書館(本館)の入館者数	175,737	130,399	236,080 以上	人
	34	司書研修等を行った回数	17	9	6 以上	回
	35	ボランティアなどによるイベントの開催数	51	20	72 以上	回
【取組の成果】						
(1) 司書研修等によるレファレンスサービス(調べもの相談)の充実 ・文化財課職員(学芸員)を講師に迎え、「いしかりの歴史」等を学ぶ研修 ・現場体験を重視した内部研修 ⇒ 司書としてのスキルアップを目的として、市民サービス向上に向けた取組 ⇒ 北海道史や石狩に関する講座から歴史を学ぶ ⇒ 分館業務や学校図書館業務を実地で学ぶ (2) ボランティアによるおはなし会、DVD上映会 ・ボランティア、関係団体による定例の「おはなし会」、DVD上映会を再開 ⇒ 幅広い年代が図書館に集い、本に触れ親しむ機会を創出 (3) 図書館まつり、科学の祭典などのイベントの充実 ※新型コロナウイルス感染拡大防止に配慮 ・「秋の読書週間Autumn Book Week～ステキな本の収穫祭～」開催 ⇒ 図書館まつり中止による代替イベントの展開 ⇒ 約ひと月間のロングラン開催により集客分散配慮 ・「科学の祭典in石狩」Web講座を実施 ⇒ 一方向の配信サービスから、参加者との応答性あるイベントへ発展 (4) 新刊図書の購入や適切な除籍による蔵書の充実 ・雑誌リサイクル広場、除籍本の無償譲渡等 ⇒ 計画的な購入と除籍の遂行 ⇒ 除籍本の幅広い活用方法を検討 (5) 地域の歴史や情報を伝える資料の収集・提供 ・地域資料の受入、展示等を積極的に行い、歴史の継承及び地元の動きを情報発信 ⇒ 子母澤寛生誕130年記念講座、記念展示の実施等 ⇒ アフターコロナを見据え、館内を活用した情報発信方法を模索						
【方向性】						
☞ 市民協働による取組を推進 ☞ 社会教育課との連携事業を展開し、多くの市民の学びや交流の拠点となるよう推進 ☞ 地域資料の継続的な収集、保存、提供に加え、特集展示の開催等により資料のPRに努める ☞ 音響映像設備等のオンライン対応を推進						

目標Ⅲ-方針6

施策27		ふるさとを学ぶ機会の充実				
【取組】			【評価】		所管	
			R4年度	R3年度		
(1)	総合的な学習の時間の活用		A	A	学校教育課	
(2)	テーマ展、体験講座、野外講座などの開催		A	A	文化財課	
(3)	市民図書館や海浜植物保護センターなどと連携した講座や展示による学習機会の提供		A	A	文化財課	
(4)	資料館や道の駅の情報コーナーを活用した情報発信の充実		A	A	文化財課	
(5)	地域情報誌や石狩ファイルのホームページ公開等による情報発信の充実		A	AA	文化財課	
成果指標	No.	指標の名称	R4年度 (実績)	R3年度 (実績)	R6年度 (目標)	単位
	36	ふるさと学習に関する講座等の開催数	4	4	10以上	回
	37	資料館の延べ入館者数	2,595	2,391	2,384以上	人
【取組の成果等】						
(2) テーマ展、体験講座、野外講座などの開催 ・新型コロナウイルス感染防止対策から活動の制限が続いたが、屋外で実施する野外講座は以前の水準に近づいた ⇒ テーマ展4回、野外講座2回を開催した ⇒ 課題:感染拡大への対策と屋内での体験講座の再開の両立 (3) 市民図書館と連携した講座や展示による学習機会の提供 ・感染防止と両立しながら、市内外の施設等との連携活動を進めた ⇒ 市民図書館を会場とするサテライト展、サテライトパネル展を各1回、パネル掲示を1回実施したほか、図書館主催展示に協力した ・市内外の教育施設・団体等主催の講座6件に協力し、講師として職員を9回派遣した ⇒ 課題:感染防止と両立可能なリモートを活用したイベント形態の開発 (4) 資料館や道の駅の情報コーナーを活用した情報発信の充実 道の駅情報コーナーを活用してオンライン講座を実施した (5) 情報発信の充実 Youtube動画の追加公開、Facebookでの公開の継続						
【方向性】						
☞ 感染防止と両立しながら活動を以前の水準に近づける SNS、リモートツールを活用した新たな活動手法の開発 ☞ 食べ物や近所の地形など、身近な自然を題材とした実物展示や情報発信を継続						

目標Ⅲ-方針6

施策28		文化・自然遺産の保護・保存・活用の推進		
【取組】		【評価】		所管
		R4年度	R3年度	
(1)	市内の特徴的な文化財の調査・把握	A	A	文化財課
(2)	歴史的価値のある文化資料の修復・公開	A	A	文化財課
(3)	自然標本の収集、標本製作と資料館等での公開	A	A	文化財課
(4)	文化財、標本等の整理と保存環境の充実	A	A	文化財課
(5)	歴史、文化、自然についての研究活動の充実	A	A	文化財課
(6)	紀要等による研究成果の公表	A	AA	文化財課
(7)	郷土研究会等の市民による調査研究活動への支援	A	A	文化財課
(8)	石狩小学校校舎を郷土資料館として利活用するための検討	A	A	文化財課
【取組の成果等】				
(1) 市内の特徴的な文化財の調査・把握 ・花川東の馬頭観世音碑の収集を行った ・市内考古資料の収集を行った (2) 歴史的価値のある文化資料の修復・公開 ・はまます郷土資料館で収蔵されている資料の修復に向けた調査を実施した (3) 自然標本の収集、標本製作と資料館等での公開 ・超世代スケール(※)の視点で継続的に収集保管、展示公開等を実施した ⇒ キタハウネンエビ、鯨類骨格などの収集（前年度より継続） ⇒ キタハウネンエビの詳細な時空間分布の解明（前年度より継続） ・プラスチックごみの漂着、カタクチイワシの大量漂着現象、など漂着物に反映される海洋環境の調査 ⇒ 課題：調査研究のための時間・場所の確保 ⇒ 課題：標本製作が可能な作業環境（設備・空間）の確保 (4) 文化財、標本等の整理と保存環境の充実 ・旧石狩小学校校舎の収蔵場所としての整備、収蔵資料データベース入力作業を実施した ⇒ 課題：資料・標本を安全に保管できる収蔵庫の確保 (5) 歴史、文化、自然についての研究活動の充実 ・超世代スケール(※)の視点で継続的に、各分野の調査研究を実施した ⇒ 課題：調査研究のための時間・場所の確保 (6) 紀要等による研究成果の公表 ・紀要第12巻を刊行・配布した。学会等での発表、論文等の公開を行った ⇒ 紀要掲載論文等は6本、学芸員による学会発表・論文等は2本投稿した (7) 郷土研究会等の市民による調査研究活動への支援 ・運営補助金の支出、例会での研究発表の支援を行った (8) 石狩小学校校舎を郷土資料館として利活用するための検討 ・円形校舎内で石狩市内の小中学校の歴史展示を行い、博物館的な利活用の手法を検討した ※「超世代スケール」…世代間を跨いだ引継ぎが必要となる、数十年を超える規模の長期的時間スケール				
【方向性】				
☞ 資料・標本等のデータベースの構築。安定した保管環境の整備、超世代スケールの調査研究の継続				
石狩市教育委員会外部評価委員会の意見（令和3年度の取組に対する意見）				
旧石狩小学校の工夫された展示の公開を評価するとともに、今後も「ふるさと石狩」を学ぶ場としての取り組みに期待します。また、その周知にあたり各コンテンツやアクセスの充実を図ることを望みます。				

点検及び評価に対する学識経験者による意見について

点検及び評価の実施にあたっては、事業等の進捗状況を総括するとともに、課題や今後の取組の方向性について、内部評価を行うと同時に、学識経験者の知見活用として、「石狩市教育委員会外部評価委員会」から意見や助言をいただくこととしています。

これらにより、点検及び評価の客観性を確保するとともに、いただいた意見等については、今後の施策、事業等の展開に活用していきます。

令和5年10月3日に外部評価委員会を開催し、次の意見等をいただきました。なお、会議録は、石狩市ホームページ等にて公開しています。

意見等の内容

外部評価委員会では、6つの基本方針28施策に関する多くの取組について、評価をいただきました。

なお、本報告書においては、今後の本市教育行政へ参考となる視点や、課題に対する意見などについてのみ以下に掲載しています。

1 施策別の取組状況、分析・評価及び今後の方向性

【目標Ⅰ 自ら学ぶ意欲をもって、主体的に社会に関わり、新しい時代を生きる力を育てる】

基本方針1 新しい社会で生きる力の育成

○「主体的・対話的で深い学び」の視点からの授業改善については、指導主事からの指導・助言は重要である一方、各学校の教員同士による授業研究や交流の活性化も重要であると考えますので、更なる学校内外での取組に期待します。また、ICT教育導入により児童生徒の学びが大きく変化していることから、効果的な活用など、更なる授業改善の取組を期待します。

○ICT教育能力向上の取組を評価します。今後も研修の充実を期待します。

基本方針2 学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進

○家庭学習の習慣化に向けた取組が行われていると評価できる一方で、それが「実績」となって表れているとは言えない(施策1評価(7)「B」、成果指標12中3の減少)ため、今後の取組として更なる工夫を望みます。

○「地域の行事への参加」は、地域からの児童生徒への働きかけはもちろん、教職員の地域活動に対する理解の深化が不可欠であるため、学校と地域の連携・協働による更なる取組を望みます。

基本方針3 学びをつなぐ学校づくり

○写真を多く取り入れ、よく工夫された学校ホームページの取組を評価します。

○学校における働き方の取組を評価する一方、時間外勤務が45時間を超える教員の割合が増加していると思われる。各学校の状況で違いはあると思うが、働き方改革が進んでいる学校での取組や工夫を他の学校と共有し、教職員が心身ともに健康的に教育活動が出来るよう目標達成のほか、更なる割合低下に向けた動きを進めていくことを望みます。

【目標Ⅱ 思いやりと豊かな心・健やかな体をもって、多様な人々と共に支え合う人を育てる】

基本方針4 健やかな成長を促す取組の推進

- すこやかで健康な体づくりと同時に、相手の立場になって考えたり、想像できる心の教育を望むほか、道徳授業の公開を通して地域住民、保護者、学校との信頼関係が築かれることを期待します。
- 調べる学習コンクールの取組を評価します。調べる学習を通して、児童生徒の関心、活動の広がりを期待します。
- 「いじめ防止集会」等の取組を評価します。児童生徒が「いじめ問題」を常に考え、取組むことを期待します。

【目標Ⅲ ふるさとへの愛着をもち、幅広い視野で新しい価値を創造し、活躍する人を育てる】

基本方針5 学びを活かす地域社会の実現

- 子どもから高齢者まで、多岐にわたるイベントや講習会を展開し、多くの市民がいくつになっても学べる機会をこれからも一層継続して頂きたい。
- 新型コロナウイルス感染対策に配慮した科学の祭典の取組を評価します。

基本方針6 ふるさとを学ぶ機会の充実

- 文化・自然遺産の保護、保存、活用の取組を評価するとともに、講座等の開催数を増やすことにより、歴史ある石狩市の文化・自然をこれからも大切に次の世代へ受け継いで行くことを望みます。
- 円形校舎内での石狩市内小中学校の歴史展示の取組を評価します。その展示の中に、現在の学校及び統廃合校の「校歌」を聴くことができる取組を望みます。

資料１ 令和４年度の方針等

（１）教育行政執行方針

（令和４年第１回石狩市議会定例会）

はじめに

長期化する新型コロナウイルス感染症の影響も相まって、今、私たちの社会は一層急激に変化しようとしております。社会の担い手を育て、「国家 100 年の大計」と言われる教育もまた、大きな変革の真只中にあります。学習指導要領の改訂に始まり、教職員の働き方にメスが入る一方で、１人１台端末を基盤として教育データの利活用が急速に進もうとしているなど、変革は多岐にわたりますが、共通する狙いはポスト・コロナも見据えた新しい学びの実現です。ひるむことなく取り組んでいかなければなりません。

最近、「ウェルビーイング」という概念が注目されています。経済的な豊かさだけでなく精神的な豊かさや健康など多面的な幸せが保たれた状態を指すものです。あらかじめ定まった正解がない時代にあって、個人と社会のウェルビーイングを目指すためには、一人一人が社会の当事者として自ら主体的に考え、目標を設定し、責任ある行動を取ることができる力を備えることが大切とも言われます。

石狩市教育プランが掲げる「自立とチャレンジの精神、主体性と協働意識を持った市民の育成」という理念は、こうした方向性にも合致するものであり、引き続きその推進に鋭意取り組んでまいります。

以下、新年度の主要な施策について、石狩市教育プランの柱立てに即して、順次申し述べます。

目標１ 自ら学ぶ意欲をもって、主体的に社会に関わり、新しい時代を生きる力を育てる

（新しい社会で生きる力の育成）

新学習指導要領の趣旨を踏まえた確かな学力の育成のため、「主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善」「学習内容の定着を一層確かにする工夫」「学習環境の整備」の３点を柱とした取組を進め、カリキュラム・マネジメントの確立を図ります。特に、「国語科の『読むこと領域』の課題解決」、「教科指導における小中連携の推進」を重点に取組を進めます。

１人１台端末の整備により学びが大きく変わろうとしています。電子黒板、デジタル教科書などＩＣＴを効果的に活用し、個別最適な学びと協働的な学びを相互に結び付けながら、「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けた授業改善につなげてまいります。

端末の持ち帰りによる家庭学習への活用や緊急時の学びの保障をより確かなものとするために、教員のＩＣＴ活用能力の向上や学校のＩＣＴ環境整備に向けた支援を行うとともに、児童生徒の情報活用能力の育成を図ります。

小学校での学級編制標準の段階的な引き下げや新たな教科担任制の導入、エキスパートサポーターや外部指導者の効果的な配置などにより指導体制を充実させ、学習内容の定着が一層進むよう努めます。

特別支援教育については、特別支援教育支援員の適切な配置等に努めながら、よりきめ細かな支援を行ってまいります。一人一人のニーズに応じた途切れのない一貫した支援を行うため、就学前からの教育相談の実施や、「個別の教育支援計画」「個別の指導計画」の活用、研修による教員の専門性の向上を図ります。

外国語教育については、外国語指導助手（ＡＬＴ）の活用により外国の言語や文化について理解を深めながら、積極的にコミュニケーションを図る態度の育成に努めるとともに、新たに国の実証事業で提供される学習者用デジタル教科書の効果的な活用に取り組みます。

（学びを支える家庭・地域との連携・協働の推進）

家庭教育支援を充実させるため、子育てに不安や悩みを持つ保護者のサポートに、市長部局と連携しながら引き続き取り組むほか、中学校の試験期間に合わせた小学校の家庭学習強化週間の設定など、家庭学習や生活規律等の小中連携の取組を継続します。

子どもたちの基本的な生活習慣の定着を図るため、「いしかりふれあいDAY」や「生活リズムチェックシート」を活用し、規則正しい生活とテレビ、ゲーム等の使用に関する家庭のルール作りについての呼びかけを継続します。特にスマートフォン等の使用については、保護者と児童生徒がネットのメリットとデメリットをよく理解して、上手に付き合うことが大切であり、家庭での使用ルールについて親子で考えるきっかけとなるよう、保護者向けの情報発信を学校と連携して行います。

感染症の拡大が家計に及ぼす影響を考慮し、引き続き就学援助による経済的支援を柔軟に行うほか、生活困窮等を要因とした学習支援のニーズへの対応や補充学習の充実、スクールソーシャルワーカーと家庭生活支援員による教育と福祉が連携した支援を継続して進めます。

（学びをつなぐ学校づくり）

現在、同一中学校区内の小学校と中学校は、「中1ギャップの解消」や「学びの連続性による学力向上」をテーマに連携した取組を進めています。幼児期の学びと育ちを義務教育へとスムーズにつなげるため、認定こども園等との連携をさらに深めながら、各小学校で策定するスタートカリキュラムの確実な実施と不断の見直しにより、幼児期から中学校段階までを見通した教育を進めます。

また、市内全校で始まったコミュニティ・スクールにより、地域と連携・協働しながら教育活動を展開する「開かれた教育課程」の実現を図っていきます。

教員の働き方改革については、推進計画に位置づけた取組を着実にを行いながら、勤務時間を意識した働き方を一層推進するよう促し、引き続き教員の長時間勤務解消に向けて取り組みます。

また、中学校の部活動は、今後、休日の活動を皮切りに、地域の実情に応じた段階的な地域移行を検討していくこととなりますが、これに先行して、ソフトボール競技における将来の地域指導体制の確立を目指して、競技団体が実施するモデル事業への支援を行います。

学校施設長寿命化計画に基づき、老朽化が進んだ花川南中学校の校舎を2か年計画で改修します。また、浜益区の子どもたちのより良い教育環境を確保するため、保育園を併設した小中一貫型の学校の実現に向け基本設計に着手するなど、地域の方々と対話しながら準備を進めてまいります。

通学路の交通安全の確保に向けては、通学路交通安全プログラムに基づき、関係機関と連携し対策を講じてまいります。併せて学校の交通安全教育において交通ルールの遵守を指導するとともに、自ら危険を予測し回避する力の育成に取り組みます。

目標Ⅱ 思いやりと豊かな心・健やかな体をもって、多様な人々と共に支え合う人を育てる

（健やかな成長を促す取組の推進）

道徳科を基軸として、教育全体を通じて行う道徳教育による豊かな心の育成、人権を尊重した教育による他者を思いやる心の育成のほか、地域の様々な人々との交流や体験活動などを通して、自己有用感や自尊感情を醸成します。さらに、保護者や地域住民に道徳科の授業を公開し、学校、家庭、地域の連携強化を図ります。

豊かな人間性を育む上で読書が果たす役割は重要です。ブックスタートや家読（うちどく）など本との出会いをサポートするとともに、学校図書館においては、学校司書の配置・派遣により児童生徒や教職員の情報ニーズに対応する資料購入、更新を支援するなど、適切な蔵書構築を行います。読書活動によって言葉を学び、考える力を育てるとともに、感性を磨き、表現力、創造力を豊かにする取組を継続します。

長期化するコロナ禍の影響により、児童生徒は不安やストレスを抱えた中での生活が続いています。

いじめの防止や不登校児童生徒への支援も含め、学校がチームで対応しながら、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカーを活用した教育相談につなげ、未然防止と早期発見・早期対応に努めます。

また、1人1台端末を活用した不登校児童生徒とのコミュニケーションや学習支援について、学校の取組を促進します。

本市の児童生徒の体力と運動能力は向上傾向にありますが、この流れをさらに定着させるため、「体力の1校1プラン」や体力テストの活用を継続します。

関係機関と連携した健康教育や栄養教諭を中心とした食に関する指導により、健康で豊かな食生活に対する児童生徒の関心を高めるほか、石狩産食材のより一層の活用を意識しながら安心・安全な学校給食を提供します。本市食育の拠点ともなっている学校給食センターでは、成人向けの食育講座を開催し、厚田学校給食センターでは、給食配送車を更新します。

目標Ⅲ ふるさとへの愛着をもち、幅広い視野で新しい価値を創造し、活躍する人を育てる （学びを活かす地域社会の実現）

「学び交流センター」に移転して新たなスタートを切る公民館と20周年の節目を迎えるアートウォームを両輪として、地域の文化芸術活動の活性化を図ります。

新たな公民館を市民の文化芸術活動の拠点とするために、団体による発表の場の創出や展示等の活動を支援するほか、講演会や公民館講座を開催します。アートウォームについては、周年記念事業としてのステージイベント、展覧会の開催やメインホール照明のLED化を支援します。

市民一人一人の学びへの意欲を喚起し、潤いのある生活と活力ある地域づくりを推進するため、市民が集い、生涯にわたる主体的で多様な学びを実践する「いしかり市民カレッジ」との協働、市内文化芸術の振興を通したまちづくりに取り組む「石狩市文化協会」への支援のほか、市教委が主催する生涯学習事業の内容充実に努めます。

また、学校を核とした地域づくりを推進するため、学校支援ボランティアを確保するとともに、地域コーディネーターを拡充するほか、公民館・社会教育課の執務室を市民図書館内に移し、社会教育分野の更なる連携・充実に努めます。

市民図書館では、オンラインの受配信ができる設備を視聴覚室等に整備し、これまで行ってきたフェイスブックなどによる情報発信とあわせて、動画配信やオンラインでの講座受講を可能にすることで、新たな学びのかたちにも対応できるようにしてまいります。

石狩市民図書館ビジョン、子どもの読書活動推進計画に基づく施策を着実に進め、これからも市民の読書環境充実に努めるとともに幅広く多くの市民に愛される図書館を目指します。

民法改正により本年4月1日から成年年齢が18歳に引き下げられますが、令和5年からの成人式については、「石狩市はたちのつどい」として、引き続き20歳を対象に開催いたします。

（ふるさとを学ぶ機会の充実）

石狩で生まれ、育ち、学んだ子どもたちが、ふるさと石狩への愛着と誇りを持つことができるよう、総合的な学習の時間での学習活動やテーマ展、体験講座、野外講座などの開催に加え、ふるさとを学ぶ機会の充実に努めます。

また、資料館や道の駅の情報コーナーを活用した情報発信を引き続き進めるほか、市民が市内に所在する遺跡への理解を深められるよう、市民図書館等での出張展示を行います。昨年好評だった旧石狩小学校の円形校舎の公開は、展示の充実に努めながら継続し、石狩の教育の歩みなどを伝えてまいります。

むすび

「教育は国家 100 年の大計」という言葉には、人材育成には長期的な視点が必要という意味も込められています。学びにより得た新しい知識や経験を糧に、市民が生涯にわたって成長を続け、それぞれのやり方で社会に参画する—こうした地域の姿を実現できるよう、子どもたちはもとより、年齢、性別、障がいの有無等にかかわらず、全ての市民がより質の高い学びを重ねていくことができる環境づくりが求められております。

新型コロナウイルスにより厳しい状況はなお続きますが、市長部局とも緊密に連携しながら、本市の教育の充実と発展に向け全力で取り組み、現在そして未来におけるより良い石狩市づくりに貢献してまいりたいと存じます。

市民並びに市議会議員の皆様の一層のご支援とご協力を心から お願い申し上げ、令和 4 年度の教育行政執行方針といたします。

生涯学習部

所 属 課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成 果 の 説 明
総務 企画課	(2・3・7) 新型コロナウイルス 感染症対応地方創生 推進事業	スクールバス感染リスク低 減事業	12, 110 (11, 961)		自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	(株)余市自動車工業 ほか	石狩八幡小学校及び生振小学校のスクー ルの登校便を各校1台増便し、登校時の密集状 態を緩和することで、車内での感染防止に寄与 した。 ・石狩八幡小学校 ・生振小学校 5,965千円 6,145千円		
			財源	国・道支出金					
			内訳	地方債					
			内訳	その他					
			内訳	一般財源					
	総務 企画課	石狩市緑苑台・花川東地区 冬季通学支援補助金 (スクールバス感染リスク 低減事業)	5, 740 (5, 553)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 24	緑苑台・花川東地区 通学バス協議会	緑苑台・花川東地区から花川中学校への冬季 間におけるバス通学時の専用バス借上料を助成 し、生徒への感染防止に寄与した。			
							財源	国・道支出金	
							内訳	地方債	
							内訳	その他	
							内訳	一般財源	
総務 企画課	(10・1・2) 英語指導助手招致事 業	小中学校に英語指導助手を 派遣	12, 320 (19, 049)		自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	(公社)石狩市シルバ ー人材センター	学校施設において感染拡大防止のため施設 の消毒作業を実施し、衛生環境の改善を図った。		
			財源	国・道支出金					
			内訳	地方債					
			内訳	その他					
			内訳	一般財源					
	総務 企画課	小中学校に英語指導助手を 派遣	14, 726 (12, 706)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	—	中学校生徒の英語力向上及び小学校の外国語 活動の推進など、英語教育の充実に寄与した。 ・英語指導助手4人			
							財源	国・道支出金	
							内訳	地方債	
							内訳	その他	
							内訳	一般財源	

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明
総務企画課	教育振興会拠出金等 (10・1・4) (教育振興会拠出金)	石狩市教育振興会へ活動費の一部を交付	4,800 (5,000)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	石狩市教育振興会	教員の研究及び研修活動を通じて、専門的知識の習得など、教育の質的向上に寄与した。
			財源	国・道支出金	地方債	その他			
			内						
			訳	一般財源		4,800			
	(中学校体育連盟補助金)	中学校体育連盟の運営費及び全国・全道・管内大会参加費の一部を交付	2,607 (1,822)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	石狩市中学校体育連盟	全国・全道・管内大会に出場する生徒の保護者の負担を軽減するとともに、中学校における体育、スポーツの振興と競技力の向上に寄与した。
			財源	国・道支出金	地方債	その他			
			内			2,607			
			訳	一般財源					
	(中学生文化関係コンクール等参加費補助金)	中学校文化連盟が主催する全国・全道・管内大会参加費の一部を交付	107 (164)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	樽川中学校ほか	全道・管内大会に出場する生徒の保護者の負担を軽減するとともに、中学校における文化活動の振興に寄与した。
			財源	国・道支出金	地方債	その他			
			内			107			
			訳	一般財源					
	(10・1・4) 沖縄県恩納村交流事業拠出金	石狩市・恩納村生徒交流委員会へ交流活動費の一部を交付	0 (-)				—	—	新型コロナウイルス感染症拡大防止のため交流事業を中止した。
			財源	国・道支出金	地方債	その他			
			内						
			訳	一般財源					

※決算額の（ ）内は前年度の決算額

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円)決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明	明
総務企画課	(10・1・4) コミュニティ・スクール推進事業	学校運営協議会の運営	財源内訳	1,000 (838)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31		—	—	市内全校でコミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）を運営し、地域とともにある学校づくりの向上に寄与した。	
			国・道支出金							
			地方債							
			その他							
	(10・2・1) スクールバス購入事業	浜益区のスクールバスを購入	財源内訳	0 (-)	—		—	—	製造メーカーが行政処分を受けたことから、バスの出荷・販売が中止となり、購入に至らなかった。	
	校舎等改修事業 (10・2・1) (小学校校舎等改修事業費) (10・3・1) (中学校校舎等改修事業費)	学校の高圧変圧器の取替修繕	財源内訳	2,486	自 R4. 7. 15 至 R4. 9. 30		(株)シグマ通信電機	高圧変圧器を交換し、停電等の未然の事故防止に寄与した。 ・南線小学校電灯用高圧変圧器 1,243千円 ・石狩中学校暖房用高圧変圧器 1,243千円		
	(10・3・1) (中学校校舎等改修事業費)	花川中学校グラウンド防球ネット増設	財源内訳	1,540	自 R4. 6. 28 至 R4. 9. 9		(株)立花工務店	防球ネットの増設により、道路や隣地へのボール等の飛び出しを未然に防ぎ、地域及び学校における安全な教育環境の整備に寄与した。		

※決算額の（ ）内は前年度の決算額

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明
総務企画課	(10・2・3) 浜益区教育・保育環境整備事業 (義務教育学校施設整備事業費)	教育・保育環境整備の基本設計	17,809				自 R4. 7. 8 至 R5. 1. 31	(株)サン設計事務所	浜益区の教育環境の維持・改善や0歳児保育の機能確保を図るため、浜益中学校敷地内に浜益小学校及びはまます保育園を移転整備する基本設計を行った。
			財	国・道支出金	地方債	内			
			源	地	方	債			
			内	そ	の	他			
	(10・3・3) 中学校施設整備事業	花川南中学校大規模改修	269,236				自 R4. 6. 14 至 R5. 3. 15	酒井・佐藤特定共同企業体ほか	屋上防水及び外壁の改修により、構造劣化を防ぎ、未然の事故防止に寄与したほか、トイレの洋式化及び多目的トイレの設置により、衛生的な学校環境の確保や、避難所機能の改善が図られた。
			財	国・道支出金	地方債	内			
			源	地	方	債			
			内	そ	の	他			
学校教育課	(2・3・7) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業	修学旅行キャンセル料補助金	589 (3,861)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	花川中学校	新型コロナウイルス感染症の影響により、修学旅行の延期で生じたキャンセル料等を市立学校へ補助することで、保護者の負担軽減を図った。 ・中学校1校
			財	国・道支出金	地方債	内			
			源	地	方	債			
			内	そ	の	他			
		教育情報化整備事業	2,947 (-)				自 R5. 2. 28 至 R5. 3. 10	(株)北海道日立システムズ	児童生徒1人1台の端末に対して故障時の交換用端末として整備した。 ・教育用端末47台
			財	国・道支出金	地方債	内			
			源	地	方	債			
			内	そ	の	他			

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明
学校 教育課	学力向上推進事業 (10・1・3) (学力向上推進事業費)	教員免許を有する会計年度任用職員（エキスパートサポーター）を学校に配置	財源内訳	国・道支出金	地方債	その他	11, 167 (11, 760)	—	市立学校の学力向上に向けた取組に寄与した。 ・エキスパートサポーター 小学校4校
			一般財源	11, 167					
	(外部指導者活用事業費)	学校での「SAT」や「学力向上サポーター」の活用に対して交付金を交付	財源内訳	国・道支出金	地方債	その他	3, 529 (3, 543)	—	・SAT 小学校6校、中学校3校 ・学力向上サポーター 小学校5校
			一般財源	3, 529					
	(10・1・3) 体力・運動能力向上推進事業 (外部指導者活用事業費)	学校での「スポーツ支援SAT」や「部活動外部指導者」の活用に対して交付金を交付	財源内訳	国・道支出金	地方債	その他	912 (754)	—	市立学校の体力・運動能力向上に向けた取組に寄与した。 ・スポーツ支援SAT 小学校10校、中学校7校 ・部活動外部指導者 中学校4校
			一般財源	912					
	(10・1・3) 奨励プログラム推進事業	環境・人権・平和・国際理解教育などに関する取組や特色ある教育活動に対し、交付金を交付	財源内訳	国・道支出金	地方債	その他	4, 655 (4, 643)	—	市立学校が各々の教育テーマに沿って行う、実技学習や校外学習等の特色ある教育活動の推進に寄与した。
			一般財源	4, 655					

※決算額の（ ）内は前年度の決算額

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明			
学校 教育 課	(10・1・4) GIGAスクール構 想環境運用事業 (教育情報化整備事 業費)	GIGAスクール構想に対 応し、教員用端末を整備	7,348 (-)				自 R4.4.1 至 R4.9.30	(株)北海道日立シス テムズ	教員がGIGAスクール構想に対応した指導 ができるよう、指導用の端末を追加整備した。 ・小学校分47台 (9校) ・中学校分53台 (6校)			
			財 源	国・道支出金	2,250							
			内 訳	地 方 債								
				そ の 他								
教 育 支 援 課	(10・1・4) 生徒指導充実事業	いじめや非行等の問題行動 への対応や未然防止の取組 を実施	4,233 (3,925)				自 R4.4.1 至 R5.3.31	－	市立学校のニーズに応じた支援を実施し、学 級運営の安定を図った。 ・いじめ防止に向けた各種啓発活動 ・Q－Uの実施 (小学校5、6年生及び中学校は コンピュータ診断) ・子ども110番の普及 ・スクールカウンセラー7人 ・カウンセラー1人			
			財 源	国・道支出金								
			内 訳	地 方 債								
				そ の 他								
				一 般 財 源	4,233							
	(10・1・4) 不登校支援事業	不登校児童生徒や保護者へ の支援を実施	19,494 (17,283)				自 R4.4.1 至 R5.3.31	－	不登校児童生徒の早期発見・早期対応や個々 に応じた支援を行うことにより、学校復帰や社 会的自立を図った。 ・ふらっとくらぶの運営 ・スクールソーシャルワーカー3人 ・青少年育成支援アドバイザー3人			
			財 源	国・道支出金	775							
			内 訳	地 方 債								
				そ の 他	50							
				一 般 財 源	18,669							
			31,323 (27,351)							自 R4.4.1 至 R5.3.31	－	教育相談等の実施により、児童生徒の学習上 及び生活上の困難克服と社会的な自立を図っ た。また、教員等への研修等の実施により、特 別支援教育の専門性の向上を図った。 ・特別支援教育相談員2人 ・特別支援教育支援員35人
			財 源	国・道支出金								
			内 訳	地 方 債								
	そ の 他											
	一 般 財 源	31,323										

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明
社会教育課	(10・4・1) 地域学校協働本部事業	学校・家庭・地域が一体となっていて子どもを育てる体制を整備	財源内訳	1,281 (1,426)	国・道支出金	769	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	—	地域ボランティア、文化団体等の支援により地域ぐるみで子どもを育てる体制を整備することで、地域の教育力の向上を図ったほか、放課後の居場所事業として、絵本の読み聞かせや様々な体験活動を行う「あい風寺子屋教室」、小学校体育館において、運動能力向上プログラムを行う「放課後すこやかスポーツ教室」を実施し、児童の健全育成を図った。
	社会教育関係団体運営補助金等 (10・4・3) (PTA連合会補助金)	PTA連合会に運営費の一部を交付	財源内訳	88 (68)	国・道支出金		自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	石狩市PTA連合会	小中学校の単位PTA活動の推進及び単位PTA間の情報交換や連絡調整を通じ、教育活動の振興に寄与した。(新型コロナウイルス感染症拡大防止のため、参加人数の制限や書面会議を実施)
	(10・4・4) (ユネスコ協会補助金)	石狩ユネスコ協会に運営費の一部を交付	財源内訳	80 (80)	国・道支出金		自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	石狩ユネスコ協会	ユネスコ理念に基づく市民の活動の支援、学校での取組や啓発活動を通じて、地域の教育・文化の向上に寄与した。
	(文化協会拠出金)	石狩市文化協会に運営費の一部を交付	財源内訳	5,597 (5,635)	国・道支出金		自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	(特非)石狩市文化協会	多種多様な文化活動を統括して発表・展示の機会を提供し、文化団体間の連携強化と活動の活性化や、地域に根ざした文化の発信に寄与した。
※決算額の()内は前年度の決算額			財源内訳	5,597 (5,635)	国・道支出金				

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額	実施期間	契約相手方	成果の説明
社会教育課	(10・4・4) 情操教育プログラム (文化振興事業費)	情操教育プログラム事業の 実施	1,505 (1,213)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	—	様々な芸術鑑賞プログラムにより、児童生徒 が、美しいものを観たり聴いたりしたときに、 感動できる豊かな心の醸成を図った。 ・The Music (ジャズの鑑賞、演奏体験) : 花 川北中、花川南中の1年生対象 ・あい風コンサート (様々なジャンルの音楽鑑 賞、体験) : 石狩八幡小・生振小・浜益小・厚 田学園 ・おしやべランド (音楽朗読劇) : 小学1年生 対象 ・Kitaraファーストコンサート : 小学6年生対 象 (8校で実施)
	(10・4・4) 芸術文化振興交付金 等 (市民文化祭交付 金)	石狩市民文化祭実行委員会 に開催経費の一部を交付	826 (639)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	石狩市民文化祭実行 委員会	市民文化祭及びクリスマスコンサートが実施 され、芸術文化振興に寄与した。
	(芸術文化振興奨励 事業等補助金)	自主的、主体的な芸術文化 活動を行う団体等に事業費 の一部を交付	200 (520)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	—	芸術文化活動を行う団体を支援し、個性豊か な地域文化の創造に寄与した。 ・小樽山博文学を読む会記念誌発行事業
			財 源 内 訳 国・道支出金 地方債 その他 一般財源			
※決算額の()内は前年度の決算額						

生涯学習部

所 属 課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成 果 の 説 明
社 会 教 育 課	(10・4・4) (地域創造アトリエ 事業交付金)	アートウォームに運営費の 一部を交付	800 (800)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	(特非)アートウォーム	音楽・演劇・展示・映像等の地域文化活動の創造、発表、交流の場を提供するなど、芸術文化の振興に寄与した。
			財 源	国・道支出金	400				
			内 訳	地 方 債					
			そ の 他	400					
			一 般 財 源						
	(10・4・4) アートウォーム20周年記念事業交付金 (地域創造アトリエ 事業交付金)	アートウォーム20周年記念事業費の一部を交付	2,000 (-)				自 R4. 6. 10 至 R5. 3. 31	(特非)アートウォーム	アートウォームの開設20周年を記念し、記念公演や展覧会を開催することで、更なる芸術文化振興を図ったほか、メインホール照明をLED化することで、発表・鑑賞の機会における環境向上に寄与した。
			財 源	国・道支出金	1,000				
			内 訳	地 方 債					
			そ の 他	1,000					
			一 般 財 源						
公 民 館	(10・4・5) 公民館解体準備事業 (公民館管理運営 費)	旧公民館の解体に向けたア スベスト分析調査や不要物 処理を実施	5,984 (-)				自 R4. 4. 1 至 R4. 10. 7	日本データーサービス(株)ほか	学び交流センターに公民館機能を移設するた め、関係施設の不要物処理や調査等を行い、旧 公民館解体に向けての事前準備を行った。 ・アスベスト分析調査 ・旧公民館及び学び交流センターの不要物処理 ほか
			財 源	国・道支出金					
			内 訳	地 方 債					
			そ の 他						
			一 般 財 源	5,984					
	(10・4・5) 旧公民館解体工事 (公民館管理運営 費)	旧公民館の解体・撤去と周 辺樹木等の処理を実施	50,446				自 R4. 8. 30 至 R4. 12. 15	三津橋・伊東特定共同企業体	令和4年3月で閉館となった旧公民館につい て、関連施設の取り壊しや樹木等の処理を行っ た。 ・旧公民館、プレハブ解体工事 ・建物周辺の樹木伐採・伐根
			財 源	国・道支出金					
			内 訳	地 方 債	45,400				
			そ の 他						
			一 般 財 源	5,046					

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明
公民館	(10・4・5) 公民館活性化事業 (公民館管理運営費)	新たな公民館のPRに向けた案内看板の改修と各種イベントを開催	900 (-)	財	国・道支出金	50	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	—	新しく公民館となる学び交流センターの案内看板の改修や各種イベントの実施により、新たな文化芸術活動の拠点として周知を図った。 ・案内看板改修 2か所 ・オープン記念コンサートの実施 ・渋井一夫展示会開催、卓上カレンダーの作成
				源	地方債				
				内	その他	500			
				訳	一般財源	350			
生涯学習講座開催事業	(10・4・5)	各種講座等を開催	497 (425)	財	国・道支出金	50	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	—	市民の学習意欲の高揚と市民参画による新たな学習機会の創造に寄与した。 ・講座実施数72回、延べ2,026人受講（うち「いしかり市民カレッジ」主催講座12回、643人）
				源	地方債				
				内	その他	59			
				訳	一般財源	388			
文化財課	(10・4・7) 文化遺産解説看板補修事業 (文化財保護事業費)	紅葉山33号遺跡解説看板の補修	325	財	国・道支出金		自 R4. 5. 13 至 R4. 6. 10	三和建設(株)	老朽化した遺跡解説看板の補修を行い、文化財に関する情報提供の推進を図った。
				源	地方債				
				内	その他				
				訳	一般財源	325			
学校給食センター	(2・3・7) 新型コロナウイルス感染症対応地方創生推進事業	牛乳パック回収用ごみ袋購入	949 (-)	財	国・道支出金	949	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	ニチドク事務機(株) 石狩営業所	学校給食の牛乳パックリサイクルを行わず、ゴミ袋を用いて回収・廃棄することにより、感染症の感染リスク低減を図った。
				源	地方債				
				内	その他				
				訳	一般財源				

※決算額の（ ）内は前年度の決算額

生涯学習部

所 属 課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成 果 の 説 明
学 校 給 食 セ ン タ ー	(2・3・7) 新型コロナウイルス 感染症対応地方創生 推進事業	公立小中学校給食食材高騰 対策事業	12,500 (-)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	石狩市公務サービス (株)	調理業務委託における賄材料費の物価高騰分の一部を支援することにより、給食の栄養バランスや量の確保及び保護者負担の軽減を図った。
			財 源	国・道支出金	地 方 債	12,500			
			内 訳	そ の 他					
			一 般 財 源						
(10・5・2) 厚田学校給食センター 一施設整備事業 (給食センター管理 運営費)	屋外暗渠排水工事		0				—	—	施設の状態を踏まえ、施工方法を見直す必要が生じたため、工事を実施しなかった。
			財 源	国・道支出金	地 方 債				
			内 訳	そ の 他					
			一 般 財 源						
	給食配送車更新		207 (-)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	北海道自動車リース (株)ほか	厚田学校給食センター給食配送車を更新することにより、厚田区・浜益区の学校へ給食を安定供給した。 ・給食配送車リース ・期間 令和5年3月1日～令和10年2月28日
			財 源	国・道支出金	地 方 債				
			内 訳	そ の 他					
			一 般 財 源	207					
市 民 図 書 館	(2・3・7) 新型コロナウイルス 感染症対応地方創生 推進事業	市民図書館オンライン環境 整備事業	9,287 (-)				自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	ニチドク事務機(株) 石狩営業所ほか	市民図書館における通信環境の充実及び利用者の感染拡大防止を図るため、研修室の改修を含め、音響映像設備等のオンライン対応を推進した。
			財 源	国・道支出金	地 方 債	9,287			
			内 訳	そ の 他					
			一 般 財 源						

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明
市民図書館	(10・1・4) 学校図書館等充実事業	学校図書館の蔵書の充実及び人的体制の整備	財源内訳	29,649 (31,657)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	(株) 図書館流通センター北海道支社(ほか)	学校司書の配置・派遣、蔵書の充実など、学校図書館の機能を充実させることで、学習や読書活動の推進を図った。 ・学校司書の配置・派遣 (小学校) 配置7校、派遣3校 (中学校) 配置1校、掛持配置5校派遣1校 ・図書購入点数：4,545点		
	国・道支出金								
	地方債								
	その他の一般財源	22,700 6,949							
(10・4・9) 図書資料等購入事業 (図書館運営費)	図書、雑誌、視聴覚資料等の購入	財源内訳	14,300 (14,300)	自 R4. 4. 1 至 R5. 3. 31	(株) 図書館流通センター北海道支社(ほか)	新刊図書、雑誌等の継続的な購入により魅力的な蔵書を構築し、市民の生涯学習を促進する環境整備を行った。 ・購入点数：8,307点			
(10・4・9) 図書機能充実事業 (図書館運営費)	市民活動情報センターへの蔵書検索端末の設置	財源内訳	578 (-)	自 R4. 4. 1 至 R4. 5. 27	三菱電機 IT ソリューションズ(株)	令和4年度より運営形態が変わった市民活動情報センター（ばぼらーと）において、市民の利便性向上を図るため、市民図書館の蔵書検索や貸出の予約等を可能にする蔵書検索端末機を1台設置した。			
(10・4・9) 図書館冷暖房等自動制御・中央監視装置改修事業 (図書館運営費)	図書館冷暖房等自動制御・中央監視装置の改修	財源内訳	209 (-)	自 R4. 6. 15 至 R5. 3. 31	三菱電機フィナンシャルソリューションズ(株)北海道支店	老朽化した既設設備を改修し、快適な読書環境と適切な資料管理環境の維持を図った。			

※決算額の()内は前年度の決算額

生涯学習部

所属課	事業名	主な事業内容	(千円) 決算額				実施期間	契約相手方	成果の説明	明
市民図書館	(10・4・9) 図書館改修等事業	図書館防犯カメラの改修	5,137 (-)				自 R5.3.9 至 R5.3.31	ニチドク事務機(株) 石狩営業所	防犯カメラを改修し、安心安全に利用できる よう施設環境の維持を図った。 ・防犯カメラの設置数：屋内16台、屋外10台	
			財源内訳	国・道支出金	地方債	その他				
			一般財源	5,137						
	(10・4・9) 子どもの読書活動推進事業	ブックスタート事業等の実施	545 (547)				自 R4.4.1 至 R5.3.31	—	乳児と保護者を対象としたブックスタート事業に始まり、学齢期には調べる学習コンクールを行うなど、子どもの読書活動の推進を図った。 ・ブックスタートパック配布数：328セット ・調べる学習コンクール応募点数：420点	
			財源内訳	国・道支出金	地方債	その他				
			一般財源	500 45						

※決算額の（ ）内は前年度の決算額

資料2

石狩市教育委員会外部評価委員会設置要綱

(目 的)

第1条 この要綱は、地方教育行政の組織及び運営に関する法律（昭和31年法律第162号）第26条第2項に基づき、石狩市教育委員会（以下「教育委員会」という。）の権限に属する、事務・事業の管理及び執行の状況についての点検及び評価を行うにあたり、教育に関し学識経験を有する者の知見の活用を図るために設置する外部評価委員会（以下「委員会」という。）に関し必要な事項を定めることを目的とする。

(所掌事務)

第2条 委員会は、次に掲げる事務を所掌する。

- (1) 教育委員会が実施する事務、事業の点検・評価。
- (2) その他、委員会が必要を認める事項。

(組 織)

第3条 委員会は、委員3人以内で組織する。

- 2 委員は、教育に関し学識経験を有する者の内から教育長が委嘱する。この場合において、教育長が必要と認めるときは、公募による者を含むことができる。
- 3 委員の任期は3年とする。ただし、再任を妨げない。
- 4 委員に欠員が生じた場合における補欠欠員の任期は、前任者の残任期間とする。

(委員長及び副委員長)

第4条 委員会に委員長及び副委員長を置く。

- 2 委員長は、委員の互選によりこれを定める。
- 3 副委員長は、委員の内から委員長が指名する者をもって充てる。
- 4 委員長は、委員会を代表し会務を総理する。
- 5 副委員長は、委員長を補佐し、委員長に事故があるとき、又は委員長が欠けたときは、その職務を代理する。

(会 議)

第5条 委員会の会議は、委員長が招集し、委員長が会議の議長となる。

- 2 委員会は、委員の過半数が出席しなければ会議を開くことができない。
- 3 委員会の会議の議事は、出席した委員の過半数で決し、可否同数のときは、議長の決するところによる。
- 4 委員会は、必要があると認めるときは、会議の委員以外の者の出席を求め、その説明又は意見を聞くことができる。
- 5 委員会の会議は原則公開できるものとする。ただし、公開することが相当でないと委員会が認めるときはこの限りでない。

(庶 務)

第6条 委員会の庶務は、教育委員会事務局において行う。

(委 任)

第7条 この要綱に定めるもののほか、委員会の運営に関し必要な事項は、委員長が委員会に諮って定める。

附 則

この要綱は、平成21年5月29日から施行する。

附 則

この要綱は、平成27年4月1日から施行する。

石狩市教育委員会外部評価委員会委員名簿

(令和4年度)

職 名	ふりがな 氏 名	任 期	所 属 等
委員長	おお はし しゅう さく 大 橋 修 作	令和3年4月1日から 令和6年3月31日まで	石狩ユネスコ協会 事務局長
副委員長	むかい だ く み 向 田 久 美		一般社団法人アクトスポー ツプロジェクト 代表
委 員	たか しま まさ ゆき 高 嶋 真 之	令和4年4月1日から 令和6年3月31日まで	藤女子大学人間生活学部 人間生活学科 講師

(令和5年度)

職 名	ふりがな 氏 名	任 期	所 属 等
委員長	おお はし しゅう さく 大 橋 修 作	令和3年4月1日から 令和6年3月31日まで	石狩ユネスコ協会 事務局長
副委員長	むかい だ く み 向 田 久 美		一般社団法人アクトスポー ツプロジェクト 代表
委 員	たか しま まさ ゆき 高 嶋 真 之	令和4年4月1日から 令和6年3月31日まで	藤女子大学人間生活学部 人間生活学科 講師

資料3

教育長及び教育委員会委員名簿

(令和4年度)

職 名	ふりがな 氏 名	就任年月日～任期の満了日
教育長	ささき たか や 佐々木 隆 哉	令和4年10月12日～令和7年10月11日【2期目】

職 名	ふりがな 氏 名	就任年月日 (任期の満了日)	職 業
委 員 (教育長職務代理者)	もん ま ふじこ 門 馬 富士子	平成22年12月25日【3期目】 (令和4年12月24日)	無 職
委 員	まつ お たく や 松 尾 拓 也	平成24年10月20日【3期目】 (令和6年10月19日)	会 社 役 員
委 員	ね もと とし お 根 本 壽 夫	令和3年5月31日【1期目】 (令和5年10月19日)	無 職
委 員	つぼ た きよ み 坪 田 清 美	令和3年10月6日【1期目】 (令和7年10月5日)	認定こども園園長

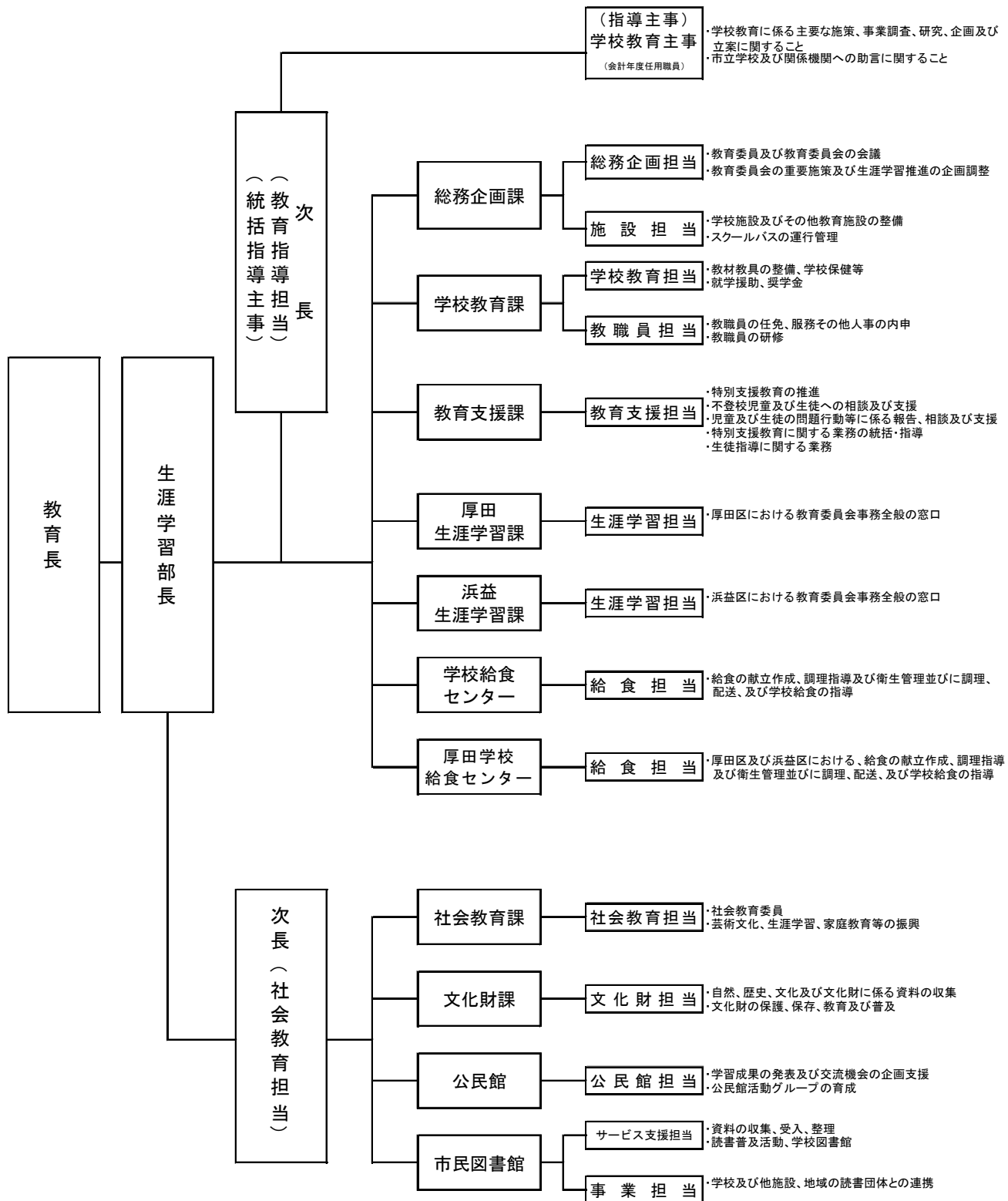
(令和5年度)

職 名	ふりがな 氏 名	就任年月日～任期の満了日
教育長	ささき たか や 佐々木 隆 哉	令和4年10月12日～令和7年10月11日【2期目】

職 名	ふりがな 氏 名	就任年月日 (任期の満了日)	職 業
委 員 (教育長職務代理者)	まつ お たく や 松 尾 拓 也	平成24年10月20日【3期目】 (令和6年10月19日)	会 社 役 員
委 員	ね もと とし お 根 本 壽 夫	令和3年5月31日【2期目】 (令和9年10月19日)	無 職
委 員	つぼ た きよ み 坪 田 清 美	令和3年10月6日【1期目】 (令和7年10月5日)	認定こども園園長
委 員	すず き さと み 鈴 木 里 美	令和4年12月25日【1期目】 (令和8年12月24日)	児 童 館 職 員

教育委員会事務局組織図

(令和4年4月1日～令和5年3月31日現在)



**令和5年度全国学力・学習状況調査
～石狩市における結果の概要～**

石狩市教育委員会

1. 調査の概要

1. 調査の目的

- (1)義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図る。
- (2)上記の取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。
- (3)学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況の改善等に役立てる。

2. 調査の対象学年

全国の小学校第6学年、中学校第3学年

3. 調査の内容

- (1)教科に関する調査【国語、算数・数学、英語（中学校）】
(英語はほぼ3年に1回実施)
- (2)児童・生徒及び学校に対する調査（学習意欲、学習方法、学習環境、生活の諸側面等に関する調査）＊希望する学校はオンライン調査で実施
- (3)学校に対する調査（指導方法に関する取組や人的・物的な教育条件の整備の状況等に関する調査）

4. 調査の方式

平成19年度～21年度：悉皆調査

平成22年度～25年度：抽出調査及び希望利用方式（石狩市は全校が実施）

（但し23年度は東日本大震災のため希望校のみの実施で石狩市は全校が実施）

平成26年度以降：悉皆調査（但し令和2年度は新型コロナウイルス感染症流行のため中止）

※調査問題は、「国立教育政策研究所」のホームページで見ることができます。
（「国立教育政策研究所」を検索後、「全国学力・学習状況調査」をクリック）

5. 調査実施日

令和5年4月18日（火）

＊英語「話すこと」調査は石狩市においては全校4月18日（火）～5月26日（金）の期間にオンライン調査で実施

6. 本市の調査実施学校数及び児童生徒数

小学校5年生及び義務教育学校前期課程6年生：10校で実施 448名

中学校3年生及び義務教育学校後期課程3年生：7校で実施 487名

＊児童生徒数は、回収した解答用紙が最も多かった教科の解答用紙の枚数で算出

7. 調査結果の解釈等に関する留意事項

調査結果が児童・生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつ、調査結果で明らかになった実態や課題の把握し、今後、教育施策や児童生徒への教育指導の充実を図る。

2. 教科に関する調査結果の概要

■ 小学校の教科に関する結果

- 国語～正答率は全国・全道平均との比較では、ともにほぼ同様（上位）の結果でした。
昨年度との比較では、正答率を伸ばし、全国平均を上回りました。
- 算数～正答率は全道平均との比較では同様、全国平均との比較ではほぼ同様（下位）の結果でした。昨年度との比較では、全国平均との差が縮まりました。

■ 中学校の教科に関する結果

- 国語～正答率は全国・全道平均との比較では、ともにやや低い結果でした。
昨年度との比較では、全国平均との差が縮まりました。
- 数学～正答率は全道平均との比較では低く、全国平均との比較では相当低い結果でした。昨年度との比較では、全国平均との差がやや縮まりました。
- 英語～正答率は全道平均との比較では低く、全国平均との比較では、相当低い結果でした。前回（平成 31 年度）との比較では、全国平均との差がやや広がりました。

■ 国語、算数・数学の2教科平均の結果

- 小学校～2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、10校中4校でした。
- 中学校～2教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、7校中2校でした。

■ 国語、数学、英語の3教科平均の結果

- 中学校～3教科平均の正答率が全国平均を上回る学校数は、7校中1校でした。

3. 児童・生徒質問紙調査結果の概要

■ 改善傾向

- ①自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「自分には、よいところがある」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生は全国・全道平均とほぼ同様であり、昨年と比べて増加傾向にあります。
- ②自己肯定感・規範意識に関わる項目のうち「人が困っているとき、進んで助けていますか」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は全国・全道平均を上回り、昨年と比べて増加傾向にあります。
- ③基本的生活習慣等に関わる項目のうち「朝食摂取」で、「毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小中学生ともに全国・全道平均を下回るものの、昨年と比べて増加傾向にあります。

■ 課題傾向

- ①自己肯定感・規範意識等に関わる項目のうち「将来の夢や目標を持っている」では、「当てはまる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は全国・全道平均よりやや低く、昨年に比べて減少傾向にあります。
- ②学習習慣等に関わる項目で、「学校の授業時間以外に、普段、1日当たり1時間以上学習している」割合は、小中学生は約6割で小学生は全国平均とほぼ同様ですが、中学生は昨年度より増えているものの全国平均を下回っています。
- ③ICT機器を活用した学習状況に関わる項目で、「昨年度、授業でPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用している」割合は、小学生で昨年度より増加傾向ですが、中学生で全国・全道平均を大きく下回っています。

4. 学校質問紙調査結果の概要

多くの項目で小学校・中学校ともに肯定的な回答であり、全国・全道平均を上回る結果でした。ただ、学習指導・授業改善に関する取り組みでは、ICT機器を活用した個別最適な学び・協働的な学びへの授業改善が必要であることが分かりました。また、全国学力・学習状況調査結果を積極的に活用して、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善していると回答する学校の割合が多いことが分かりました。

5. 調査結果から明らかになった課題

- ①全道では、平均正答率が全国平均には達していないものの、その差が、全ての教科で2.0ポイント以内となるなど、改善の傾向が見られました。一方、本市においては小学校の国語の平均正答率が全国平均を上回り、算数でも全道平均と同等となったものの、中学校の国語・数学・英語において全国平均との差が大きい状況です。
- ②中学校の国語の全領域について、前年度より正答率の上昇が見られるものの、全国平均との差が大きい結果でした。
- ③算数・数学では、「データの活用」領域及び「記述式」の問題において、全国平均との差が大きくなっています。
- ④伸びしろ層（平均正答率約30%を下回る層）の割合が多い傾向が見られます（小学校の国語以外）。
- ⑤問題から提示される多くの情報（文章やグラフ等の資料）から必要な情報を読み取ったり、活用したり、条件に適切に答えたりすることが不得手である傾向が見られます。
- ⑥小学6年生・中学3年生は、平日（月～金）1時間以上家庭学習している割合はともに約6割で、小学6年生では全国平均とほぼ同様ですが、中学3年生は昨年度より増えているものの全国平均を下回っています。

- ⑦平日（月～金）30分以上読書する割合は、小学6年生では約3割で、全国・全道平均より低く、中学3年生は3割以下で、全国・全道平均を下回っています。

6. 今後の改善方策

石狩市教育委員会は、調査結果が児童・生徒の身に付けるべき学力の特定の一部であることや学校における教育活動の一側面であることを踏まえつつも、全国平均に届いていない教科もあることや調査結果で明らかになった課題を受け止め、今後、各校と連携しながら以下のように改善方策に取り組んでまいります。

■「授業改革」のさらなる推進

- (1) 1人1台端末を有効に活用した「個別最適な学び」と「対話的な学び」の一体化を図った授業改革
- (2) 思考力・判断力・表現力を育成する「対話を重視」した学習活動の充実（特に、算数・数学）
- (3) 伸びしろ層・中間層・定着層の各層が伸びる学習指導の充実（少人数指導含む）
- (4) 国語科「読むこと領域」における「系統的な学習内容」の指導と適切な「言語活動」の設定

■「積み残しを生まない」学力保障のさらなる推進

- (5) 1単位時間における振り返り・適用問題による習熟場面の確保
- (6) 算数・数学における「わかる・できる」少人数指導の改善
- (7) AIドリルを活用した補充学習の充実（家庭学習、朝学習、放課後学習）
- (8) 「チャレンジテスト」の有効活用

■望ましい生活習慣の定着に向けた「学校・家庭・地域」のさらなる連携

- (1) 読書活動を工夫し、読書環境の充実
- (2) 基本的な生活習慣と家庭学習の習慣化に向け、根気強い指導と啓発
（生活リズムチェックシート等の活用を含みます）

子どもたちの学力向上のためには、市民の皆様と成果と課題を共有し、コミュニティ・スクール（学校運営協議会制度）の活用と共に、学校・家庭・地域が一体となって取り組むことも重要であると考えます。今後とも、市民の皆様のご理解・ご協力をお願い申し上げます。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 国語】

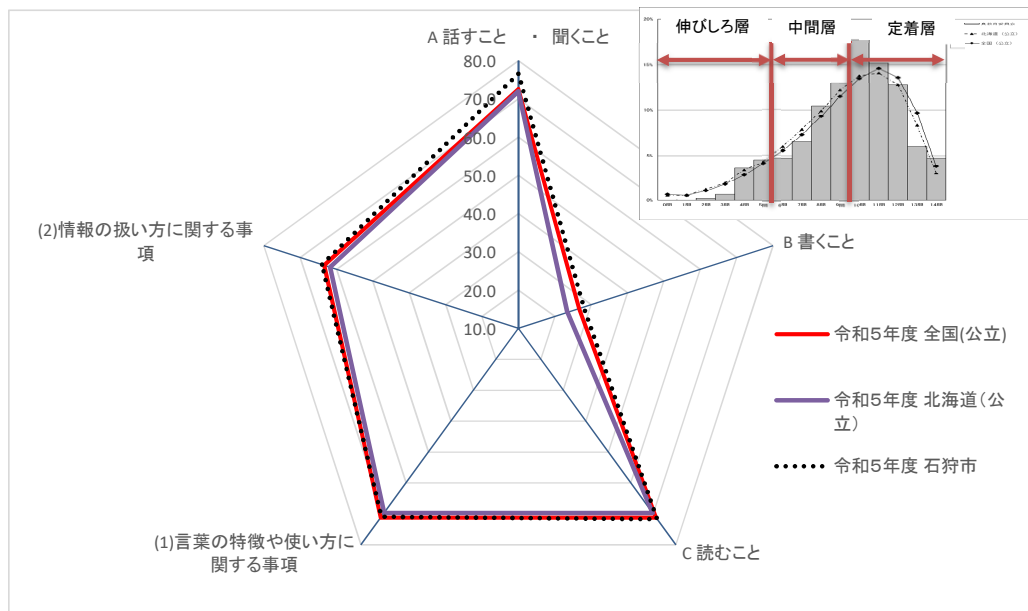
□ 正答率の状況 □

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	9.4問/14問	67.2%
全 道(公立)	9.2問/14問	65.8%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆				○ ☆					

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同 様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 国語 領域等の平均正答率の状況 □



□ 国語科の概要 □

- ◇ 国語の正答率は全国・全道平均との比較では、ともにほぼ同様（上位）の結果でした。令和4年度との比較では、正答率を伸ばし、全国平均を上回りました。
- ◇ 領域別では、「話すこと・聞くこと」は全道・全国よりやや高い結果でした。「書くこと」は全道よりやや高く、全国とほぼ同様（上位）であり、「読むこと」は全道とほぼ同様（上位）全国と同様の結果でした。また、「言葉の特徴や使い方にに関する事項」と「情報の扱いに関する事項」では、全道とほぼ同様（上位）、全国と同様の結果でした。
- ◇ 問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国と同様の結果でした。「短答式」は全道よりやや高く、全国とほぼ同様（上位）の結果でした。また、「記述式」は全道より相当高く、全国より高い結果になりました。

国語

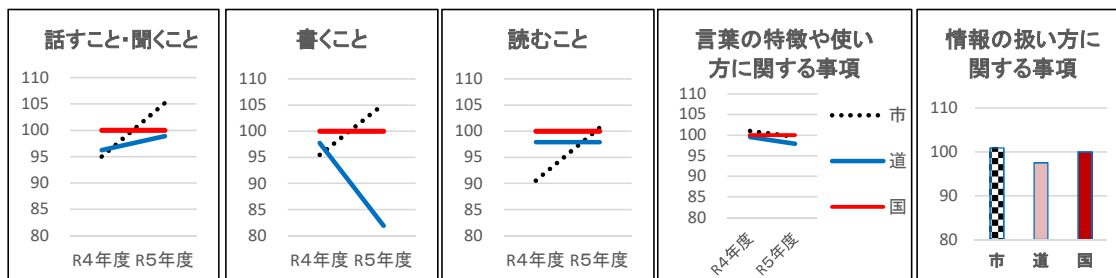
○調査問題の内容

学習指導要領に示されている〔知識及び技能〕，〔思考力，判断力，表現力等〕の内容に基づき，全体を視野に入れながら中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお，小学校第5学年までの内容となっています。

(例)

- 学校ボランティアの人たちにインタビューをして分かったことをまとめて書く。
- グラフを用いて，学校の米作りの問題点と解決方法について書く。
- 資料を読み，運動と食事について分かったことを基に，自分ができそうなことをまとめて書く。
- 資料の情報をどのように整理しているかについて説明したものとして適切なものを選択する。
- 設問数は14問です。

【各領域の傾向】 グラフは全国を100とした前回の調査との比較（但し，情報の扱い方に関する事項は本年度のみ）



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は，全道・全国より高い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は，全道より相当高く，全国より高い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は，全道とほぼ同様（上位），全国と同様の傾向を示しています。
- ・「言葉の特徴や使い方に関する事項」は，全道とほぼ同様（上位），全国と同様の傾向を示しています。
- ・「情報の扱い方に関する事項」は，全道とほぼ同様（上位），全国と同様の傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1三 (2)イ	【川村さんの文章】の下線部イを，送り仮名に気を付けて書き直したものとして適切なものを選択する（くらべて）	送り仮名に注意して，漢字を文の中で正しく使うことができるかを見る	言葉の特徴や使い方に関する事項	90.8%	92.7%	92.1%
2一	【資料1】と【資料2】に書かれている内容として適切なものを選択する	目的を意識して，中心となる話や文を見つけて要約することができるかを見る	話すこと・聞くこと	90.4%	88.9%	90.0%
3二	時田さんと山本さんが，どのような思いでボランティアを続けているのかについて，分かったことをまとめて書く	目的や意図に応じ，話の内容を捉え，話し手の考えと比較しながら，自分の考えをまとめることができるかどうかを見る	言葉の特徴や使い方に関する事項	83.7%	70.2%	70.2%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1二	【川村さんの文章】の空欄に学校の米作りの問題点と解決方法を書く	図表やグラフなどを用いて，自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫することができるかを見る	書くこと	28.0%	23.5%	26.7%
1三 (1)ア	【川村さんの文章】の下線部アを，漢字を使って書き直す（いがい）	学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使うことができるかを見る	言葉の特徴や使い方に関する事項	54.8%	51.6%	52.8%
3三	敬語の使い方をまとめた【谷さんのノートの一部】の空欄に入る内容として適切なものを選択する	日常よく使われる敬語を理解しているかどうかを見る	言葉の特徴や使い方に関する事項	55.9%	55.7%	57.6%

【指導の改善にあたって】

【問題番号1二 書くこと】

- 図表やグラフなどを用いて、自分の考えが伝わるように書き表し方を工夫する指導の充実を図ることが大切です。
- ・自分の考えを分かりやすく伝えるためには、図表やグラフなどを用いて、書き表し方を工夫することが大切です。必要に応じて、教師が、図表やグラフなどを用いたモデルとなる文章を提示することで、図表やグラフなどを用いると自分にとっても考えを深めやすく、相手にとってもよく理解できるものになることを実感できるように指導すると効果的です。

【問題番号1三（1）ア 言葉の特徴や使い方に関する事項】

- 学年別漢字配当表に示されている漢字を文の中で正しく使えるよう指導の充実を図ることが大切です。
- ・「いがい」の「いがい」を「外」として文の中で正しく使うことはできていますが、「意」を文の中で正しく使うことができていないと考えられます。同じ読み方をする「以」と解答している児童が見られたことから、同音異義語に注意して書くことに課題があると考えられます。
- 同じ読み方をする漢字を注意して使うことができるよう指導の充実を図ることが大切です。
- ・漢字を書くことについては、当該学年の前の学年に配当されている漢字を書き、文や文章の中で使おうとする習慣を身に付けるようにするとともに、当該学年に配当されている漢字を漸次書き、文や文章の中で使うように指導することが重要です。

【問題番号3三 言葉の特徴や使い方に関する事項】

- 日常よく使われる敬語を理解し使い慣れる指導の充実を図ることが大切です。
- ・日常生活の中で相手や場面に応じて適切に敬語を使うことに慣れるようにすることが大切です。話したり聞いたりする活動を通して、敬語の使い方について理解できるようにしたり、学校行事や来客があったときに敬語の使い方を確認したりするなどして指導すると効果的です。

【教科（国語）に関する意識（児童質問紙項目43～46、国1より）】

(43)	「国語の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の62.1％、全国の61.5％に対して石狩市は61.8％で、全道より0.3ポイント低く、全国より0.3ポイント高くなっています。
(44)	「国語の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の95.2％、全国の94.2％に対して石狩市は96.6％で、全道より1.4ポイント、全国より2.4ポイント高くなっています。
(45)	「国語の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の86.0％、全国の85.7％に対して石狩市は87.9％で、全道より1.9ポイント、全国より2.2ポイント高くなっています。
(46)	「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.4％、全国の92.8％に対して石狩市は95.1％で、全道より1.7ポイント、全国より2.3ポイント高くなっています。
(国1)	「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の81.3％・全国の80.7％に対して石狩市は93.4％で全道より12.1ポイント、全国より12.7ポイント高くなっています。関連して、3問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の10.4％、全国の10.0％に対して石狩市は3.0％で、全道より7.4ポイント、全国より7.0ポイント低くなっています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【小学校 算数】

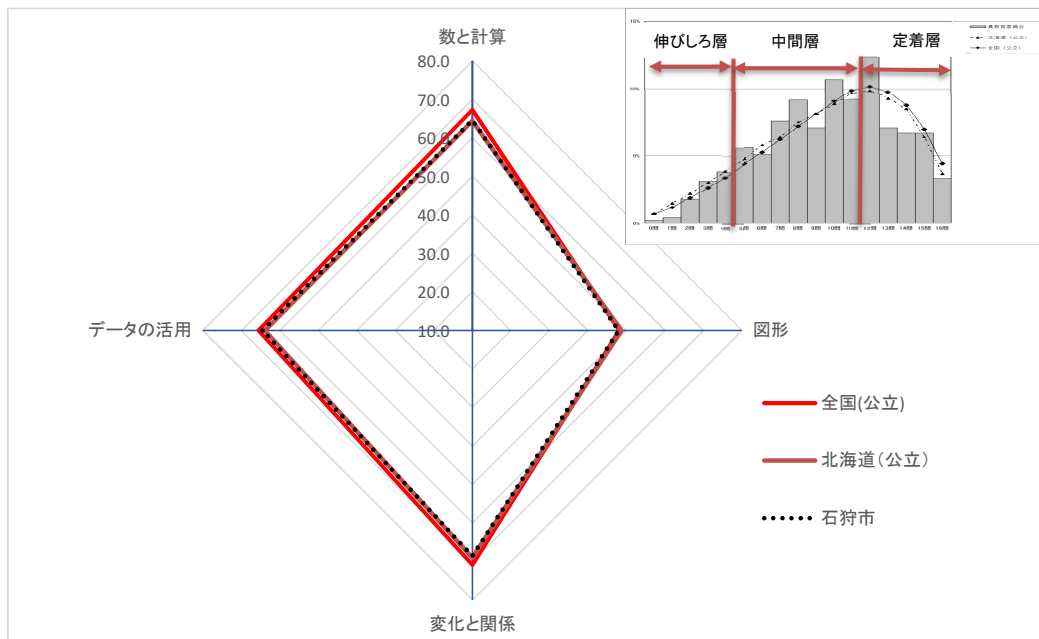
□ 正答率の状況 □

	算数	
	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	10.0問/16問	62.5%
全 道(公立)	9.8問/16問	61.0%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○				★	○				
全 国 : ☆									

相当高い … 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位) … -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高 い … 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い … -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い … 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低 い … -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位) … 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い … -7ポイント以下の範囲
同 様 … ±1ポイント未満の範囲内	

□ 算数 領域等の平均正答率の状況 □



□ 算数科の概要 □

- ◇算数の平均正答率は、全道と同様、全国とほぼ同様（下位）の結果でした。令和4年度との比較では、全国との差が縮まりました。
- ◇領域別では、「数と計算」では全道と同様で全国とほぼ同様（下位）, 「図形」では全道・全国と同様の結果でした。また, 「変化と関係」と「データの活用」では、ともに全道と同様で全国とほぼ同様（下位）の結果でした。
- ◇問題形式の正答率では, 「選択式」で全道・全国とほぼ同様（下位）, 「短答式」は全道とほぼ同様（上位）, 全国と同様の結果でした。また, 「記述式」は全道とほぼ同様（下位）, 全国よりやや低い結果でした。

算数

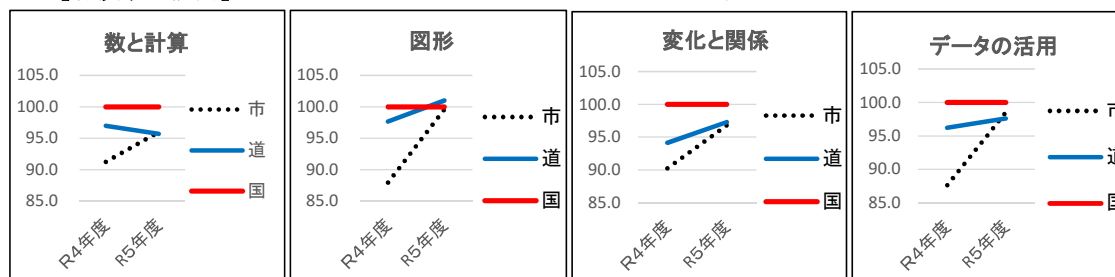
○調査問題の内容

学習指導要領における「数と計算」、「図形」、「測定」、「変化と関係」、「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお、小学校第5学年までの内容となっています。

(例)

- 3種類のファイル23人分を全部並べた長さの求め方と答えを記述し、全部のファイルを棚に入れることができるかどうかを判断する。
- 切って開いた三角形を正三角形にするために、開く前の三角形の角の大きさを書く。
- 椅子の数が2倍になっても、椅子を重ねた高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く。
- 二つのグラフから、30分以上の運動をした日数が「1日」と答えた人数に着目して、分かることを書く。
- 設問数は16問です。

【各領域の傾向】 グラフは全国を100とした前回の調査との比較（但し、測定は本年度の出題なし）



- ・「数と計算」の領域は、全道と同様で、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は、全道・全国と同様の傾向にあります。
- ・「変化と関係」の領域は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は、全道と同様で、全国とほぼ同様（下位）の傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	5脚の椅子を重ねたときの高さを求める	伴って変わる二つの数量について、表から変化の特徴を読み取り、表の中の知りたい数を求めることができるかどうかをみる	変化と関係	94.9%	92.5%	93.5%
1 (2)	椅子の数が2倍になっても、高さは2倍になっていないことについて、表の数を使って書く	伴って変わる二つの数量の関係が、比例の関係ではないことを説明するために、表の中の適切な数の組を用いることができるかどうかをみる	変化と関係	90.8%	87.7%	88.5%
2 (2)	テープを折ったり切ったりしてできた四角形の名前を書く	正方形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	図形	89.1%	86.9%	87.2%

【課題の見られる設問例】

設問番号	設問の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2 (4)	テープを直線で切ってできた二つの三角形の面積の大小について分かることを選び、選んだわけを書く	高さが等しい三角形について、底辺と面積の関係を基に面積の大小を判断し、その理由を言葉や数を用いて記述できるかどうかをみる	図形	19.4%	25.5%	20.8%
2 (3)	切って開いた三角形を正三角形にするために、テープを切るときのAの角の大きさを書く	正三角形の意味や性質について理解しているかどうかをみる	図形	21.2%	21.7%	21.9%

4 (1)	示された基準量と比較量から、割合が30%になるものを選ぶ	百分率で表された割合について理解しているかどうかをみる	変化と関係	39.7%	45.1%	46.0%
1 (3)	椅子4脚の重さが7kgであることを基に、48脚の重さの求め方と答えを書く	伴って変わる二つの数量が比例の関係にあることを用いて、知りたい数量の大きさの求め方と答えを式や言葉を用いて記述できるかどうかをみる	変化と関係	49.1%	50.8%	55.5%

【指導の改善にあたって】

【問題番号2 (3), (4) 図形】

- 目的の図形をつくるための操作の見通しを立てることができるようになる指導の充実を図ることが大切です。
- ・ 目的の図形をつくるために、どのような操作をすればよいか、図形の意味や性質を基に、見通しを立てることが大切です。
- 底辺と高さの関係に着目し、図形の面積の求め方から面積の大小を判断できるようにする指導の充実を図ることが大切です。
- ・ 三角形の面積を求めるために必要な底辺と高さの関係に着目し、三角形の底辺や高さとの面積の関係を基に面積の大小を判断できるようにすることが重要です。その際、平行な直線にはさまれた底辺が等しい、二つの平行四辺形や、二つの三角形の面積を比べることで、底辺と高さの関係について理解できるようにすることが大切です。

【問題番号1 (3), 4 (1) 変化と関係】

- 伴って変わる二つの数量について、変化の規則性を基に筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにする指導の充実を図ることが大切です。
- ・ 伴って変わる二つの数量について、比例の関係にあることを用いて、筋道を立てて考え、知りたい数量の大きさを求めることができるようにすることが重要です。
- 百分率で表された割合について理解できるようにする指導の充実を図ることが大切です。
- ・ 日常生活の場面において百分率で表された割合について、具体的な数量の関係に基づいて理解できるようにすることが重要です。

【教科（算数）に関する意識（児童質問紙項目51～54、算1より）】

(51)	「算数の勉強は好きですか」に対する肯定的な回答は、全道の58.5%、全国の61.4%に対して石狩市は、64.9%で、全道より6.4ポイント、全国より3.5ポイント高くなっています。
(52)	「算数の勉強は大切だと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の94.4%、全国の94.2%に対して石狩市は96.4%で、全道より2.0ポイント、全国より2.2ポイント高くなっています。
(53)	「算数の授業の内容はよくわかりますか」に対する肯定的な回答は、全道の79.2%、全国の81.2%に対して石狩市は84.6%で、全道より5.4ポイント、全国より3.4ポイント高くなっています。
(54)	「算数の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」に対する肯定的な回答は、全道の93.6%、全国の93.3%に対して石狩市は95.1%で、全道より1.5ポイント、全国より1.8ポイント高くなっています。
(算1)	「今回の算数の問題について、言葉や数、式を使って、わけや求め方などを書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について「最後まで努力した」との回答は、全道の80.0%、全国の80.3%に対して石狩市は90.5%で、全道より10.5ポイント、全国より10.2ポイント高くなっています。関連して、4問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の7.0%、全国の6.3%に対して石狩市は1.8%で、全道より5.2ポイント、全国より4.5ポイント低い結果でした。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 国語】

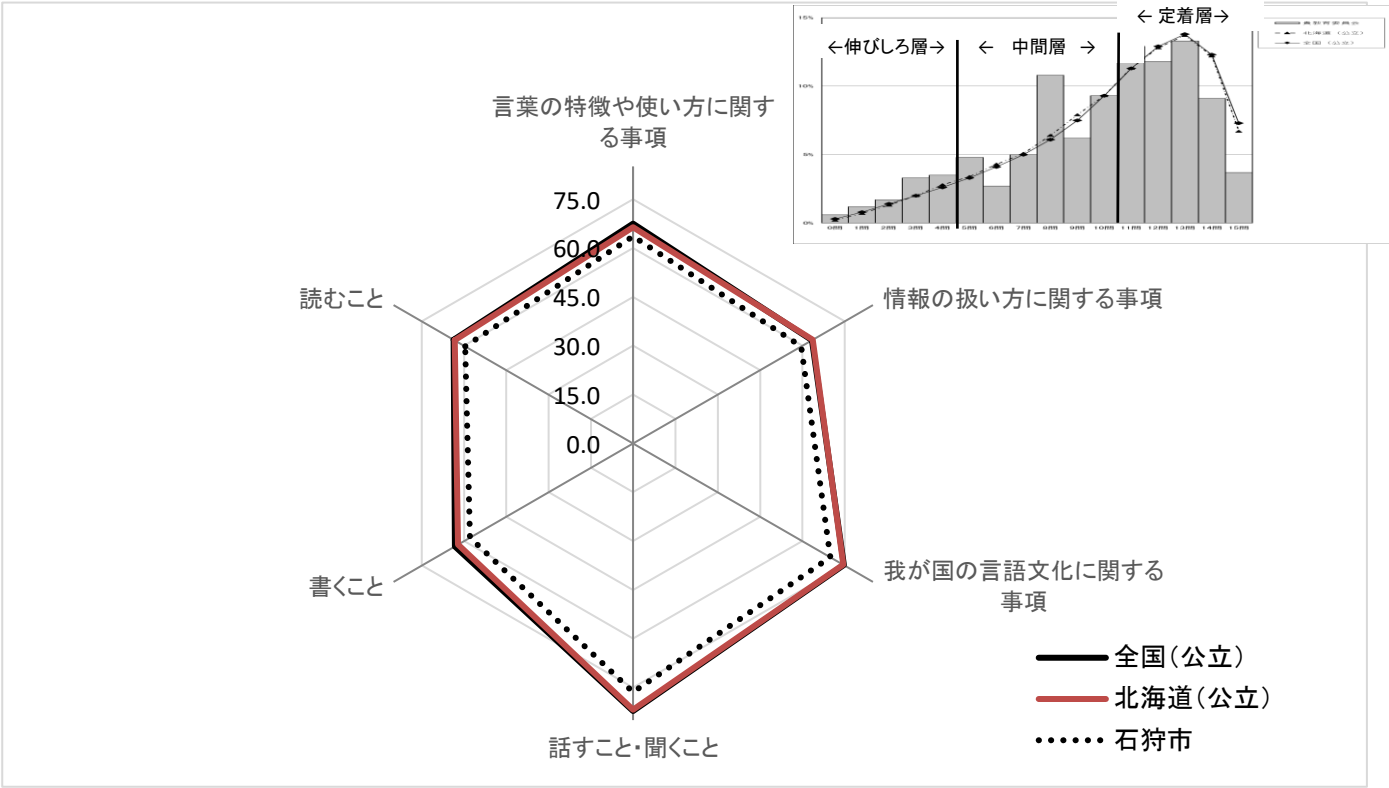
正答率の状況

	国語	
	平均正答数	平均正答率
全 国(公立)	10.5問/15問	69.8%
全 道(公立)	10.4問/15問	69.4%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	(ほぼ同様)(上位)	同様	(ほぼ同様)(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全 国 : ☆					☆		○		

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

国語 領域等の平均正答率の状況



国語科の概要

- ◇国語の正答率は全道・全国より、やや低い結果となりました。令和4年度との比較では、全国との差は縮まる結果になりました。
- ◇領域別では、「読むこと」の領域は全道・全国よりもやや低い結果でした。「話すこと・聞くこと」領域は全道・全国より低い結果でした。「書くこと」領域は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。
- ◇問題形式別の正答率では、「選択式」は全道・全国よりもやや低く、「短答式」「記述式」は全道よりやや低く、全国より低い結果となりました。

国語

○調査問題の内容

学習指導要領に示されている次の内容に基づいて、その全体を視野に入れながら、中心的に取り上げるものを精選して出題されています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

〔知識及び技能〕

(1) 言葉の特徴や使い方に関する事項

(2) 情報の扱い方に関する事項

(3) 我が国の言語文化に関する事項

〔思考力、判断力、表現力等〕

A 話すこと・聞くこと

B 書くこと

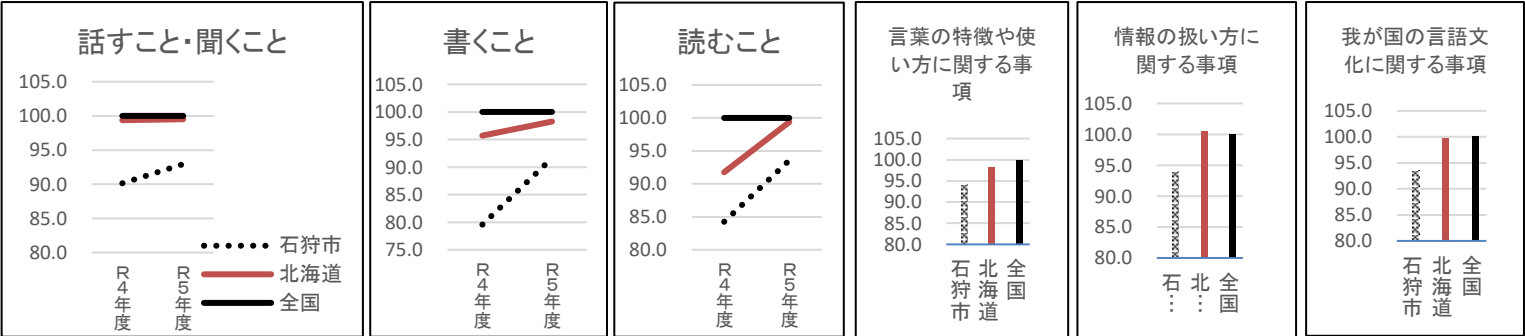
C 読むこと

(例)

- ・インタビューのまとめとしてどのようなことを述べるのか、自分の考えを書く。
- ・読書に関する二つの文章を参考にして、これからどのように本を読んでいきたいかについて考え、読書に関する知識や経験に触れながら自分の考えを書く。
- ・「判じ絵」についてまとめているレポートの「『判じ絵』の解説の面白さ」と見出しを付けた部分に示す具体例を選択し、その解説の仕方の説明を書く。
- ・古典の原文の中の語句に対応する言葉を、現代語で書かれた文章から抜き出す。

・問題数は15問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較（但し、言葉の特徴や使い方に関する事項、情報の扱い方に関する事項、我が国の言語文化に関する事項は、本年度のみ）



- ・「話すこと・聞くこと」の領域は、全道・全国より低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・言葉の特徴や使い方に関する事項は、全道とほぼ同様（下位）、全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・情報の扱い方に関する事項は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。
- ・我が国の言語文化に関する事項は、全道・全国よりやや低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1一	インタビューの前に準備したメモについて説明したものとして適切なものを選択する	目的や場面に応じて質問する内容を検討することができるかどうかをみる	話すこと・聞くこと	85.5%	87.6%	87.5%
2一	「落胆する」の意味として適切なものを選択する	事象や行為、心情を表す語句について理解しているかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	90.5%	91.8%	91.1%
4一	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直す（いひける）	歴史的仮名遣いを現代仮名遣いに直して読むことができるかどうかをみる	我が国の言語文化に関する事項	80.9%	82.5%	82.5%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3二	漢字を書く（おし量って）	文脈に即して漢字を正しく書くことができるかどうかをみる	言葉の特徴や使い方に関する事項	36.7%	41.1%	43.9%
4三	現代語で書かれた「竹取物語」のどこがどのように工夫されているかについて、古典と比較して書く	文章の構成や展開、表現の効果について、根拠を明確にして考えることができるかどうかをみる	読むこと	44.8%	50.1%	50.0%

【指導の改善にあたって】

【問題番号 3 二 言葉の特徴や使い方に関する事項】

漢字の指導においては、字体、字形、音訓、意味や用法などの知識を習得し、文脈に即して漢字を読んだり、書いたりすることができるように指導することが大切です。文章の中ばかりではなく、「話すこと・聞くこと」の学習の中や、他教科等の学習や日常の会話の中でも漢字の書きについて意識できるように指導することが大切です。

【問題番号 4 三 読むこと】

生徒が古典との距離を縮め、古典の世界に親しむためには、古典の現代語訳や古典について解説した文章などを教材として適切に取り上げ、生徒自身が古典の楽しみ方を見いだすことができるように指導することが大切です。教科書に掲載されている現代語訳だけでなく、中学生などが楽しめるような現代語訳などを取り上げ、文章の構成や展開、表現の効果などに着目して工夫されているところを考える学習活動も大切です。

【教科（国語）に関する意識（生徒質問紙項目47～54，国語 1 より）】

(47) 「国語の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の61.4%，全国の63.2% に対して石狩市は、65.3% で全道より2.1ポイント，全国より3.9ポイント高くなっています。

(48) 「国語の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の92.7%，全国の92.4% に対して石狩市は93.8% で、全道より1.1ポイント，全国より1.4ポイント高くなっています。

(49) 「国語の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の81.4%，全国の80.0% に対して石狩市は79.7% と、全道より1.7ポイント，全国より0.3ポイント低くなっています。

(50) 「国語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は全道の88.9%，全国の88.7% に対して石狩市は89.7% で、全道より0.8ポイント，全国より1.0ポイント高くなっています。

(51) 「行書の基礎的な書き方を理解していますか」についての肯定的な回答は全道の66.4%，全国の67.2% に対して石狩市は65.8% で、全道より0.6ポイント，全国より1.4ポイント低くなっています。

(52) 「国語の授業で、自分の考えを分かりやすく伝えるために、聞き手の立場に立って効果的な話し方を工夫していますか」についての肯定的な回答は全道の65.2%，全国の65.9% に対して石狩市は63.8% で、全道より1.4ポイント，全国より2.1ポイント低くなっています。

(53) 「国語の授業で、自分の考えが伝わるように、根拠を明確にするために必要な情報を資料から引用して書いていますか」についての肯定的な回答は全道の64.7%，全国の63.9% に対して石狩市は64.8% で、全道より0.1ポイント，全国より0.9ポイント高くなっています。

(54) 「国語の授業で、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基にとらえていますか」についての肯定的な回答は全道の77.3%，全国の77.2% に対して石狩市は77.8% で、全道より0.5ポイント，全国より0.6ポイント高くなっています。

(国1) 「今回の国語の問題について、解答を文章で書く問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の73.5%，全国の74.3% に対して石狩市は70.5% と、全道より3.0ポイント，全国より3.8ポイント低くなっています。関連して、4問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の12.7%，全国の11.4%に対して石狩市は16.9%で、全道より4.2ポイント，全国より5.5ポイント高くなっています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 数学】

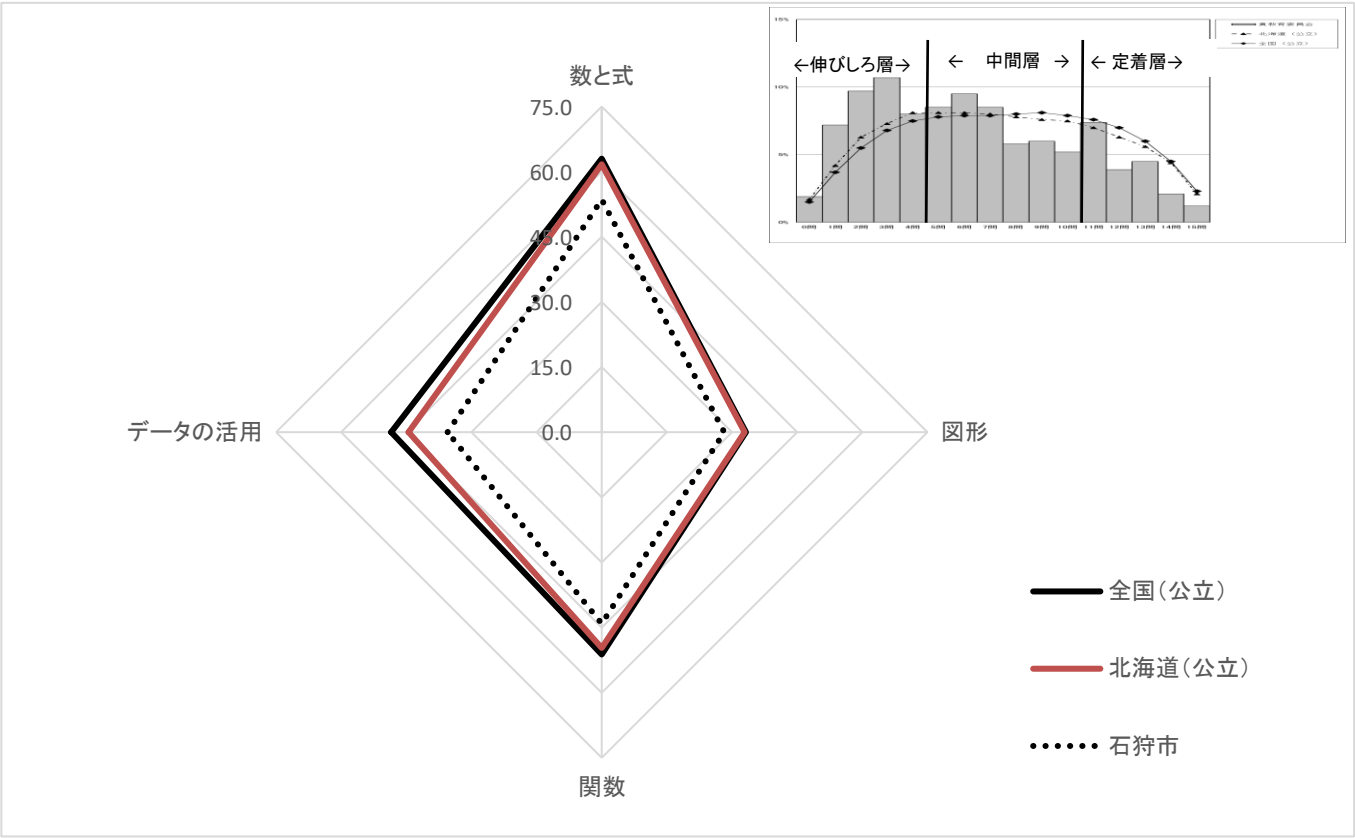
正答率の状況

	数学	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	7.6問/15問	51.0%
全道(公立)	7.4問/15問	49.3%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆				○	

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

数学 領域等の平均正答率の状況



数学科の概要

- ◇数学の平均正答率は、全道より低く、全国より相当低い結果でした。令和4年度との比較では、全国との差は縮まる結果になりました。
- ◇領域別では、「数と式」「データの活用」は全道・全国より相当低い結果でした。「図形」は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。「関数」は全道より低く、全国より相当低い結果でした。
- ◇問題形式別では、「選択式」「短答式」は全道・全国より相当低い結果でした。「記述式」は全道よりやや低く、全国より相当低い結果でした。

数学

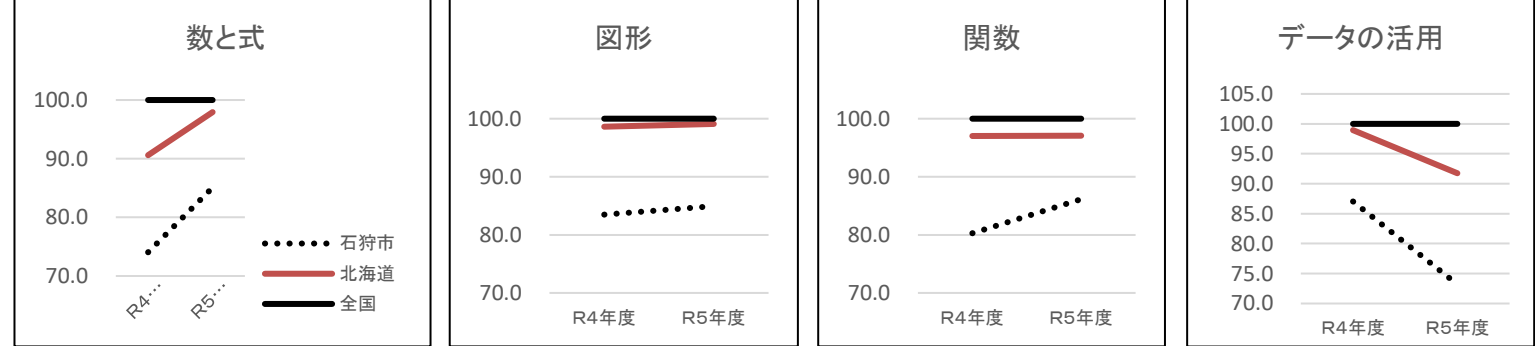
○調査問題の内容

学習指導要領における、「数と式」，「図形」，「関数」，「データの活用」の各領域に示された指導内容をバランスよく出題しています。なお，中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- ・－5，0，3，4，7，9の中から自然数を全て選ぶ。
- ・二つの直線が平行になることを，三角形の合同を基にして証明する。
- ・駅伝で，後からスタートした新緑大学の選手が晴天大学の選手に追いつく地点を求める方法を，グラフや式を用いて説明する。
- ・2006年～2020年の黄葉日は，1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にあると主張することができる理由を，二つの箱ひげ図の箱に着目して説明する。
- ・問題数は15問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「数と式」の領域は，全道・全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「図形」の領域は，全道よりやや低く，全国より低い傾向を示しています。
- ・「関数」の領域は，全道より低く，全国より相当低い傾向を示しています。
- ・「データの活用」の領域は，全道・全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
2	12 (x / 4 + y / 6) を計算する	数と整式の乗法の計算ができるかどうかをみる	数と式	69.5%	79.7%	80.5%
6 (1)	はじめの数が11のとき，はじめの数にかけられる数が2，たす数が3のときの計算結果を求める	問題場面における考察の対象を明確に捉えることができるかどうかをみる	数と式	84.9%	88.1%	88.9%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
3	空間における平面が1つに決まる場合について，正しい記述を選ぶ	空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解しているかどうかをみる	数と式	24.3%	30.6%	30.4%
5	女子50m自由形の記録の，最小の階級から29.00秒以上30.00秒未満の階級までの累積度数を求める	累積度数の意味を理解しているかどうかをみる	データの活用	28.5%	39.4%	46.1%
7 (2)	「2006年～2020年の黄葉日は，1991年～2005年の黄葉日より遅くなっている傾向にある」と主張することができる理由を，箱ひげ図の箱に着目して説明する	複数の集団のデータの分布の傾向を比較して捉え，判断の理由を数学的な表現を用いて説明することができるかどうかをみる	データの活用	23.7%	31.5%	33.6%

【無解答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全 道		全 国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
6 (3)	はじめの数にかけるといくつ、たす数でいくつであれば、計算結果はいくつでも4の倍数になるかを説明する	結論が成り立つための前提を、問題解決の過程や結果を振り返って考え、成り立つ事柄を見だし、説明することができるかどうかをみる	数と式	33.4%	37.3%	37.5%	28.1%	40.9%	24.7%

【指導の改善にあたって】

【問題番号3 数と式】 図形の性質を考察する場面では、空間における直線や平面の位置関係を捉えることが大切です。この設問では、空間における平面が同一直線上にない3点で決定されることを理解できるように指導することが大切です。
【問題番号5 データの活用】 不確定な事象についてデータに基づいて考察する場面では、度数分布表やヒストグラムを作成し、データの特徴や分布の傾向を読み取り、批判的に考察し判断できるように指導することが大切です。累積度数は、度数分布表やヒストグラムを用いてデータの傾向を読み取る際に必要であることを指導することが大切です。
【問題番号6 (3) 数と式】 数に関する事象を考察する場面では、成り立ちそうな事柄を予想し、予想を確かめ、事柄が成り立つ理由について筋道を立てて考え説明すること、さらに、問題解決の過程や結果を振り返り、事象の特徴を的確に捉えることができるように指導することが大切です。
【問題番号7 (2) データの活用】 日常生活や社会の事象を考察する場面では、表やグラフなどからデータの傾向を適切に読み取り、批判的に考察し判断することが求められる場合がある。その際、判断の理由を数学的に説明することができるように指導することが大切です。この設問では、データを表や箱ひげ図に整理して分析し、それらから傾向を読み取ることができるように指導することが大切です。

【教科（数学）に関する意識（生徒質問紙項目55～58，数学1より）】

(55)	「数学の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の54.3%，全国の56.7% に対して石狩市は、51.9% で全道より2.4ポイント，全国より4.8ポイント低くなっています。
(56)	「数学の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の84.2%，全国の85.0% に対して石狩市は84.1% で、全道より0.1ポイント，全国より0.9ポイント低くなっています。
(57)	「数学の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の71.3%，全国の73.3% に対して石狩市は62.7% と、全道より8.6ポイント，全国より10.6ポイント低くなっています。
(58)	「数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の74.7%，全国の75.8% に対して石狩市は72.2% で、全道より2.5ポイント，全国より3.6ポイント低くなっています。
(数1)	「今回の数学の問題について、解答を言葉や数、式を使って説明する問題がありましたが、どのように解答しましたか」について、「最後まで努力した」との回答は、全道の54.4%，全国の57.1% に対して石狩市は46.8%と、全道より7.6ポイント，全国より10.3ポイント低くなっています。関連して、5問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の21.7%，全国の19.2%に対して石狩市は29.4%で、全道より7.8ポイント，全国より10.2ポイント高くなっています。

令和5年度 全国学力・学習状況調査の結果分析

【中学校 英語】

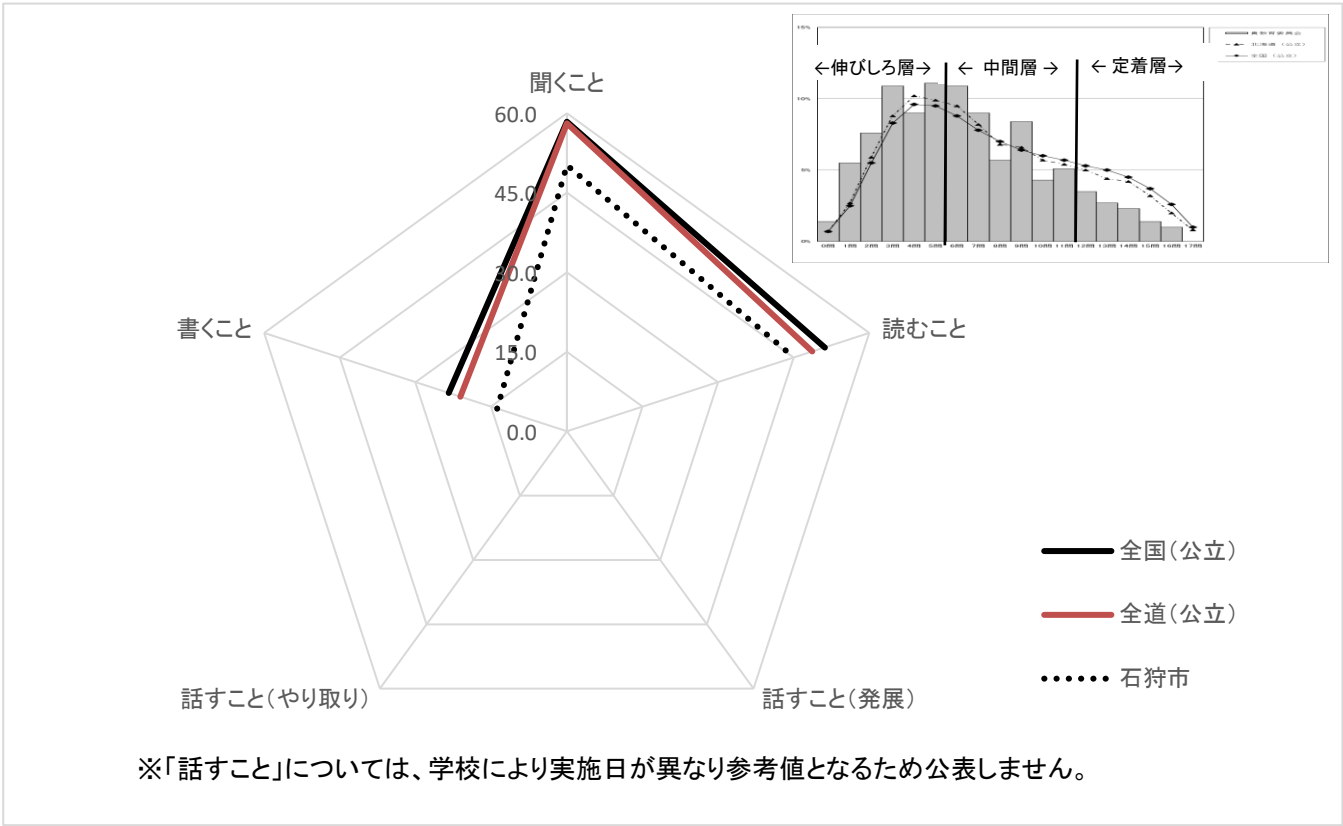
正答率の状況

	英語	
	平均正答数	平均正答率
全国(公立)	7.7問/17問	45.6%
全道(公立)	7.5問/17問	43.9%

全道との比較	相当高い	高い	やや高い	ほぼ同様(上位)	同様	ほぼ同様(下位)	やや低い	低い	相当低い
石狩市 : ○ 全国 : ☆				☆				○	

相当高い	… 7ポイント以上の範囲	ほぼ同様(下位)	… -1ポイント以下-3ポイント未満の範囲内
高い	… 5ポイント以上7ポイント未満の範囲内	やや低い	… -3ポイント以下-5ポイント未満の範囲内
やや高い	… 3ポイント以上5ポイント未満の範囲内	低い	… -5ポイント以下-7ポイント未満の範囲内
ほぼ同様(上位)	… 1ポイント以上3ポイント未満の範囲内	相当低い	… -7ポイント以下の範囲
同様	… ±1ポイント未満の範囲内		

英語 領域等の平均正答率の状況



英語の概要

- ◇英語の平均正答率は、全道より低く、全国より相当低い結果でした。平成31年度との比較では、全国との差は広がる結果になりました。
- ◇領域別では、「聞くこと」の領域は全道・全国より相当低い結果でした。「読むこと」の領域は全道よりやや低く、全国よりは低い結果でした。「書くこと」の領域は全国・全国より相当低い結果でした。
- ◇問題形式別では、「選択式」は全道より低く、全国より相当低い結果でした。「短答式」は全道・全国より相当低く、「記述式」は全道よりやや低く、全国より低い結果でした。

英語

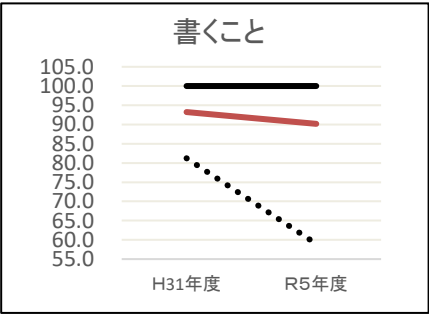
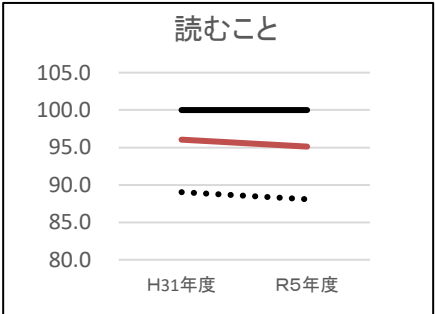
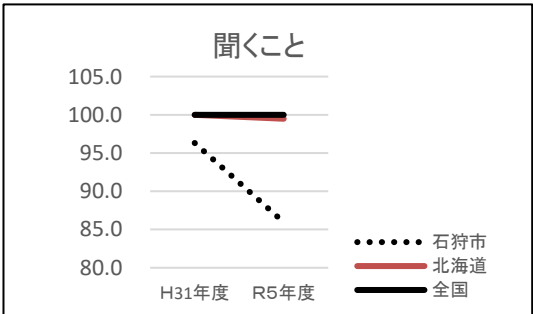
○調査問題の内容

学習指導要領に示されている5つの領域（「聞くこと」、「読むこと」、「話すこと[やり取り]」、「話すこと[発表]」、「書くこと」）別の目標及び内容に基づき、全ての領域からバランスよく出題しています。なお、中学校第2学年までの内容となっています。

(例)

- ・自分の置かれた状況などから判断して、必要な情報を聞き取る
- ・文と文との関係を正確に読み取り、短い文章の概要を捉える
- ・短い文章の要点を捉えて、考えとその理由を書く
- ・即興で伝え合うとともに、考えとその理由を述べ合う
- ・説明を聞いて、考えとその理由を話す
- ・問題数は17問です。

【各領域の傾向】 ◎グラフは全国を100とした前回調査との比較



- ・「聞くこと」の領域は、全道・全国より相当低いを示しています。
- ・「読むこと」の領域は、全道よりやや低く、全国より低い傾向を示しています。
- ・「書くこと」の領域は、全道・全国より相当低い傾向を示しています。

【成果の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
1 (1)	ある状況を描写する英語を聞き、その内容を最も適切に表している絵を選択する	情報を正確に聞き取ることができるかどうかをみる	聞くこと	63.7%	77.6%	79.0%
7 (1)	図書館について書かれた英文を読み、文中の空所に入る適切な語句を選択する	文と文との関係を正確に読み取ることができるかどうかをみる	読むこと	64.7%	58.2%	59.8%

【課題の見られる問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市正答率	全道正答率	全国正答率
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	書くこと	11.7%	17.2%	19.5%
9 (1) ②	与えられた英語を適切な形に変えたり、不足している語を補ったりして、会話が成り立つように英文を完成させる	疑問詞を用いた一般動詞の2人称単数過去形の疑問文を正確に書くことができるかどうかをみる	書くこと	9.4%	15.6%	20.9%
10	学校生活（行事や部活動など）の中から紹介したいものを1つ取り上げ、それを説明するまとまりのある文章を書く	日常的な話題について、事実や自分の考えなどを整理し、まとまりのある文章を書くことができるかどうかをみる	書くこと	2.3%	6.3%	7.4%

【無解答率の高い問題例】

問題番号	問題の概要	出題の趣旨	領域	石狩市		全 道		全 国	
				正答率	無解答率	正答率	無解答率	正答率	無解答率
8 (2)	ロボットについて書かれた英文を読み、書き手の意見に対する自分の考えとその理由を書く	社会的な話題に関して読んだことについて、考えとその理由を書くことができるかどうかをみる	書くこと	11.7%	41.9%	17.2%	33.1%	19.5%	29.3%

【指導の改善にあたって】

【問題番号8 (2) 書くこと】 読んだことを基に自分の考えとその理由を書く際には、読み手として主体的に考えたり、判断したりしながら理解したことを基に、コミュニケーションを行う目的や場面、状況等に応じて表現することが大切です。指導に当たっては、教科書に取り上げられている話題に関する自分の意見や感想などを、スピーチの形式や新聞やホームページなどへの投稿文の形式で書く活動が考えられます。 【問題番号9 (1) 書くこと】 疑問文を実際のコミュニケーションにおいて正しく活用できるまでには、教師が用意した質問で言語活動を始めるのではなく、生徒自身が教師や外国語指導助手（ALT）に質問する場面や生徒同士で質問し合う場面を設定したり、自分が質問したことを書き出して正しく書くことができているか確認したりするなど、適宜正確さを高める指導することが大切です。 【問題番号10 書くこと】 テーマについてまとまりのある文章を書くためには、テーマについて事実や考えを整理し、どのように書けばよりよく読み手に伝わるのかを考えながら書くことが大切です。指導に当たっては、学校生活や家庭生活における出来事について、電子メールや手紙、日記、レポート、スピーチ原稿などの形式により、事実を伝えたり、出来事を描写したりする文章を書く活動が考えられます。
--

【教科（英語）に関する意識（生徒質問紙項目59～72，英1，話1より）】

(59)	「英語の勉強は好きですか」についての肯定的な回答は、全道の49.6%，全国の51.9% に対して石狩市は、49.6%で全道と同様で、全国より2.3ポイント低くなっています。
(60)	「英語の勉強は大切だと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の85.2%，全国の88.0% に対して石狩市は83.3% で、全道より1.9ポイント、全国より4.7ポイント低くなっています。
(61)	「英語の授業内容はよく分かりますか」についての肯定的な回答は、全道の60.8%，全国の63.9% に対して石狩市は55.7% と、全道より5.1ポイント、全国より8.2ポイント低くなっています。
(62)	「英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の85.0%，全国の87.5% に対して石狩市は82.5% で、全道より2.5ポイント低く、全国より5.0ポイント低くなっています。
(63)	「将来、積極的に英語を使うような生活をしたり職業に就いたりしたいと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の33.6%，全国の36.7% に対して石狩市は31.1% で、全道より2.5ポイント、全国より5.6ポイント低くなっています。
(64)	「これまで、学校の授業やそのための学習以外で、日常的に英語を使う機会が十分にありましたか」についての肯定的な回答は、全道の26.1%，全国の30.0% に対して石狩市は21.8%と、全道より4.3ポイント、全国より8.2ポイント低くなっています。
(65)	「家庭学習の課題（宿題）として、どの程度PC・タブレットなどのICT機器を使用して、英語の音声を聞いたり英語を話す練習をしたりしていますか」についての週1回以上という回答は、全道の22.3%，全国の22.9% に対して石狩市は15.8%と、全道より6.5ポイント、全国より7.1ポイント低くなっています。
(66)	「1・2年生のときに受けた授業では、英語を聞いて（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」についての肯定的な回答は、全道の77.9%，全国の78.2% に対して石狩市は76.3%と、全道より1.6ポイント、全国より1.9ポイント低くなっています。
(67)	「1・2年生のときに受けた授業では、英語を読んで（一文一文ではなく全体の）概要や要点をとらえる活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答は、全道の80.0%，全国の80.3% に対して石狩市は78.8%と、全道より1.2ポイント、全国より1.5ポイント低くなっています。

(68)	「１・２年生のときに受けた授業では、原稿などの準備をすることなく、自分の考えや気持ちをなどを英語で伝え合う活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答は、全道の60.3%、全国の63.8% に対して石狩市は49.3%と、全道より11.0ポイント、全国より14.5ポイント低くなっています。
(69)	「１・２年生のときに受けた授業では、スピーチやプレゼンテーションなど、まとめた内容を英語で発表する活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答は、全道の74.3%、全国の78.7% に対して石狩市は69.1%と、全道より5.2ポイント、全国より9.6ポイント低くなっています。
(70)	「１・２年生のときに受けた授業では、自分の考えや気持ちなどを英語で書く活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答は、全道の80.8%、全国の82.8% に対して石狩市は77.8%と、全道より3.0ポイント、全国より5.0ポイント低くなっています。
(71)	「１・２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、生徒同士で英語で問答したり意見を述べ合ったりする活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答は、全道の78.9%、全国の80.7% に対して石狩市は72.2%と、全道より6.7ポイント、全国より8.5ポイント低くなっています。
(72)	「１・２年生のときに受けた授業では、聞いたり読んだりしたことについて、その内容を英語で書いてまとめたり自分の考えを英語で書いたりする活動が行われていたと思いますか」について、肯定的な回答は、全道の76.9%、全国の79.3% に対して石狩市は74.0%と、全道より2.9ポイント、全国より5.3ポイント低くなっています。
英(1)	「今回の英語の問題では、まとまりのある文章を書く問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか」について、「書く内容もその内容を表現する英語も思い浮かんだ」との回答は、全道の19.2%、全国の22.2% に対して石狩市は17.2%と、全道より2.0ポイント、全国より5.0ポイント低くなっています。関連して、２問あった記述式問題の無解答率の平均は、全道の29.5%、全国の25.4%に対して石狩市は36.6%で、全道より7.1ポイント、全国より11.2ポイント高くなっています。
話(1)	「今回の英語の問題では、聞いたことについてまとまりのある内容を話す問題がありました。その問題について、どのように解答しましたか」について、「聞いたことを理解し、話す内容もその内容を表現する英語も思い浮かんだ」との回答は、全道の4.6%、全国の6.0% に対して石狩市は3.1%と、全道より1.5ポイント、全国より2.9ポイント低くなっています。

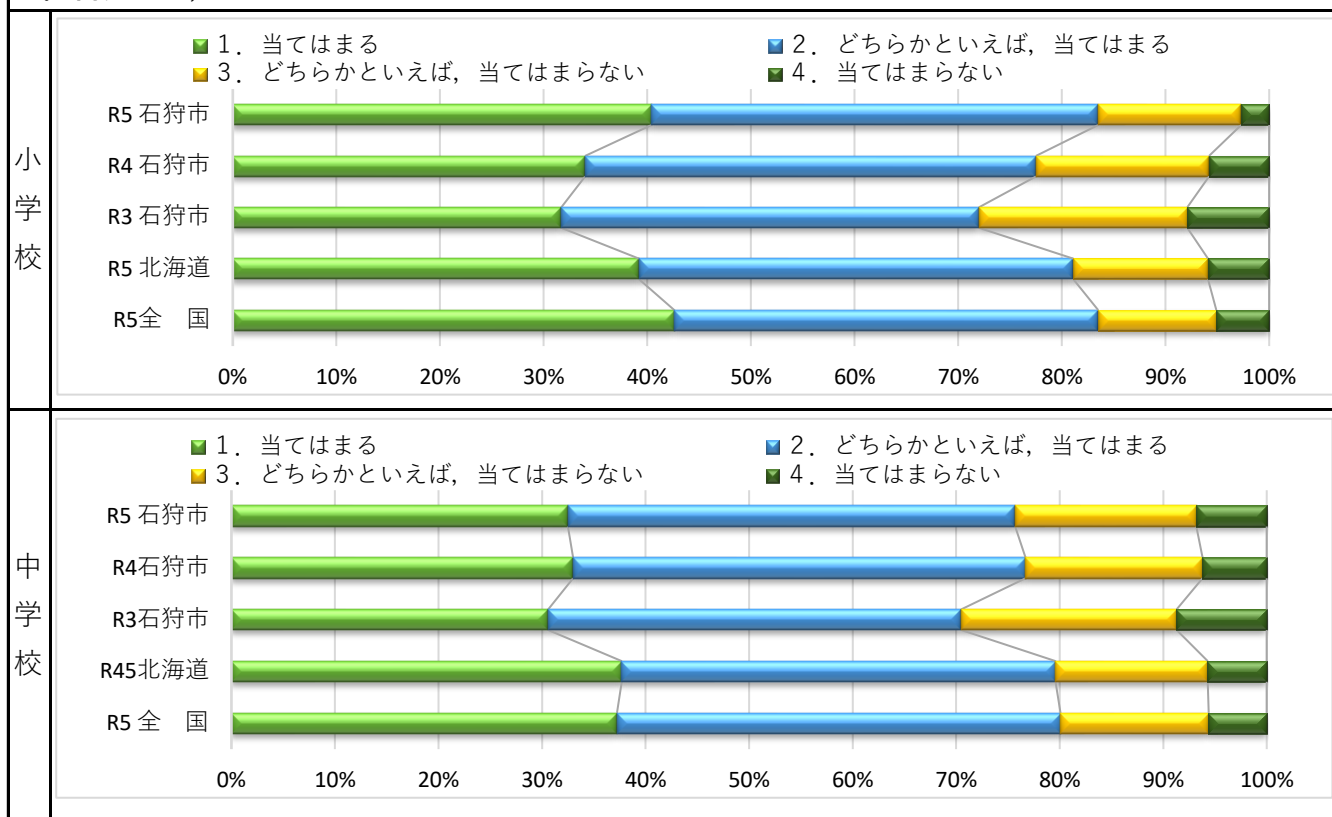
令和5年度 学習状況調査〔児童・生徒質問紙〕より

I 自己肯定感・有用感・思いやり・公平公正

自己肯定感・有用感は、小学生で上昇傾向、一方、中学生では下降傾向

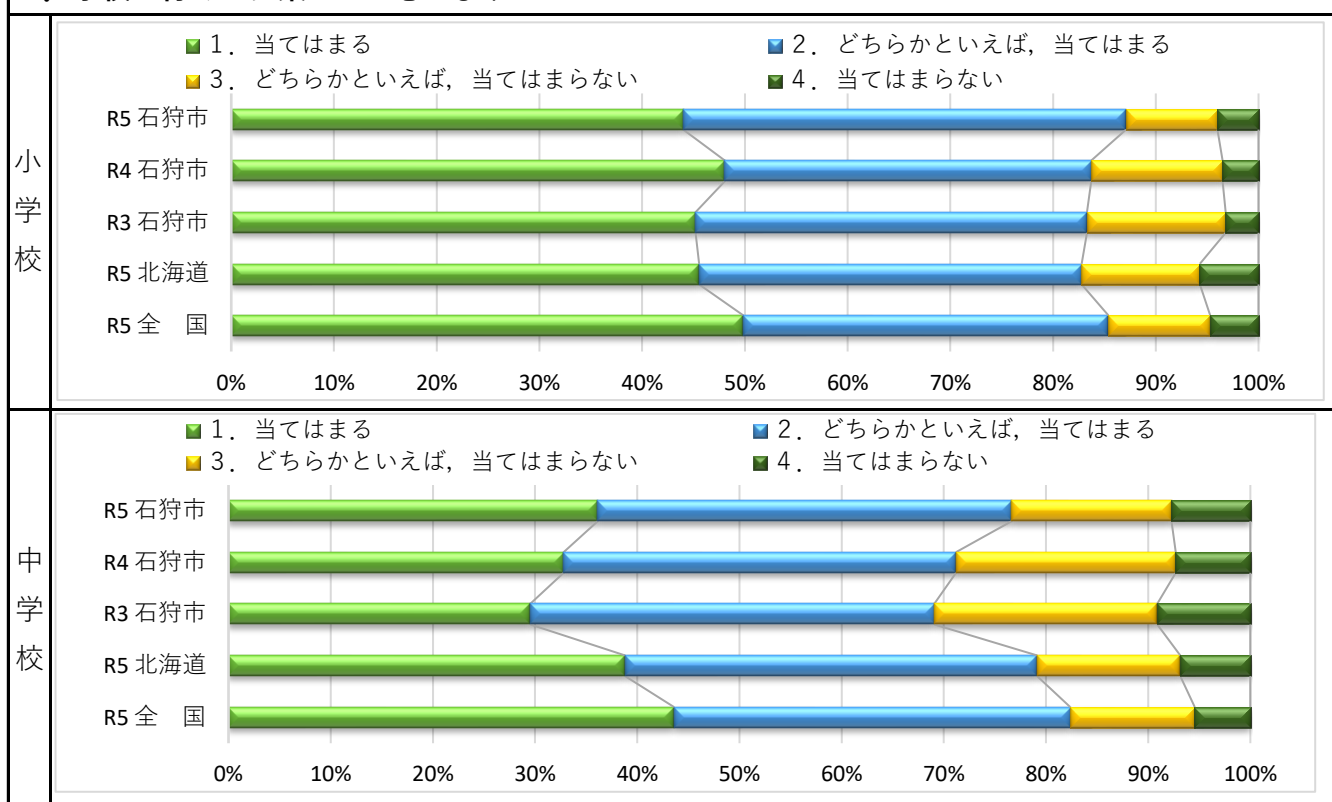
・「自分には、よいところがあると思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で83.5%(全国比±0ポイント、全道比+2.4ポイント)で、中学生では75.7%(全国比-4.3ポイント、全道比-3.9ポイント)でした。

1. 自分には、よいところがあると思いますか



・「学校に行くのが楽しいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で87.1%(全国比+1.8ポイント、全道比+4.4ポイント)で中学生では75.5%(全国比-6.3ポイント、全道比-3.0ポイント)でした。

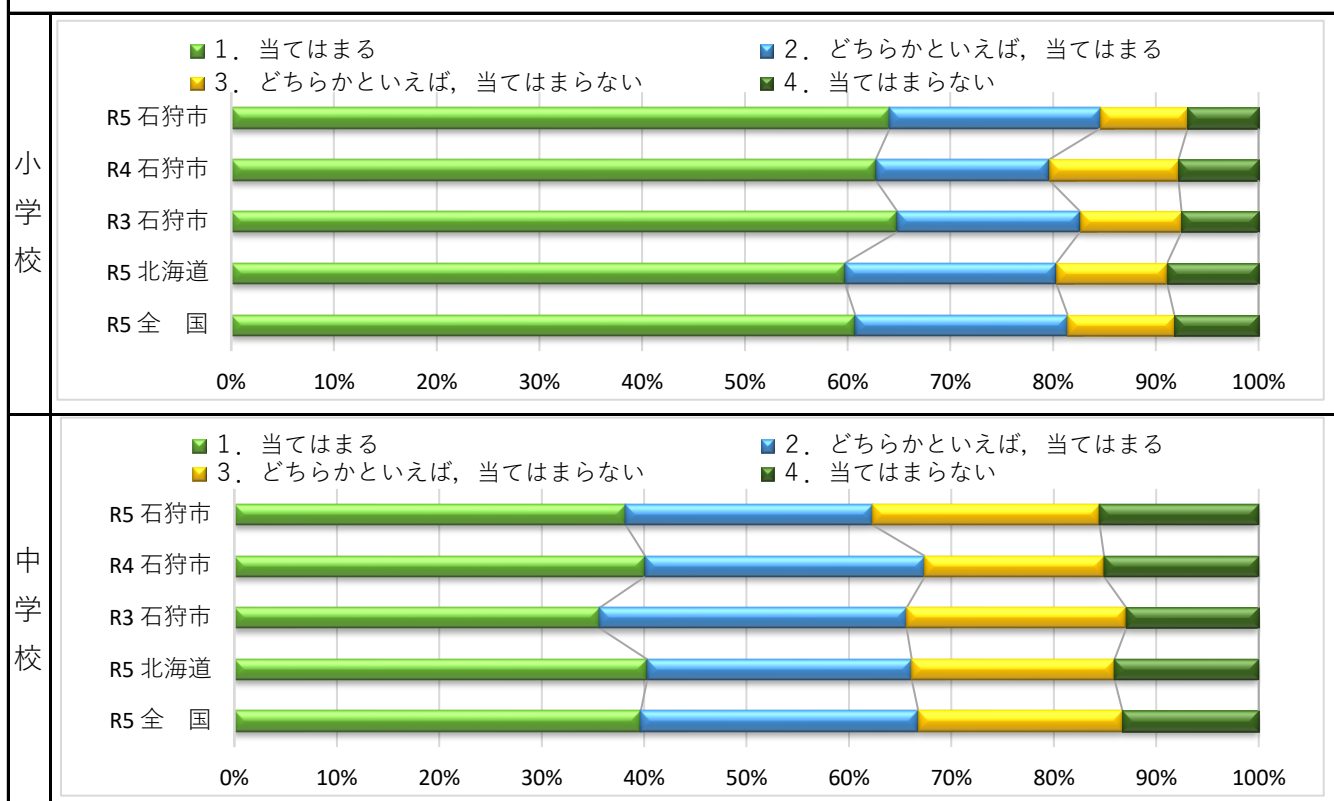
2. 学校に行くのは楽しいと思いますか



将来に関する意識は、小学生で上昇傾向、一方、中学生は下降傾向

・「将来の夢や目標を持っている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で84.6%(全国比+3.1ポイント、全道比+4.2ポイント)で中学生では61.8%(全国比-4.5ポイント、全道比-4.0ポイント)でした。

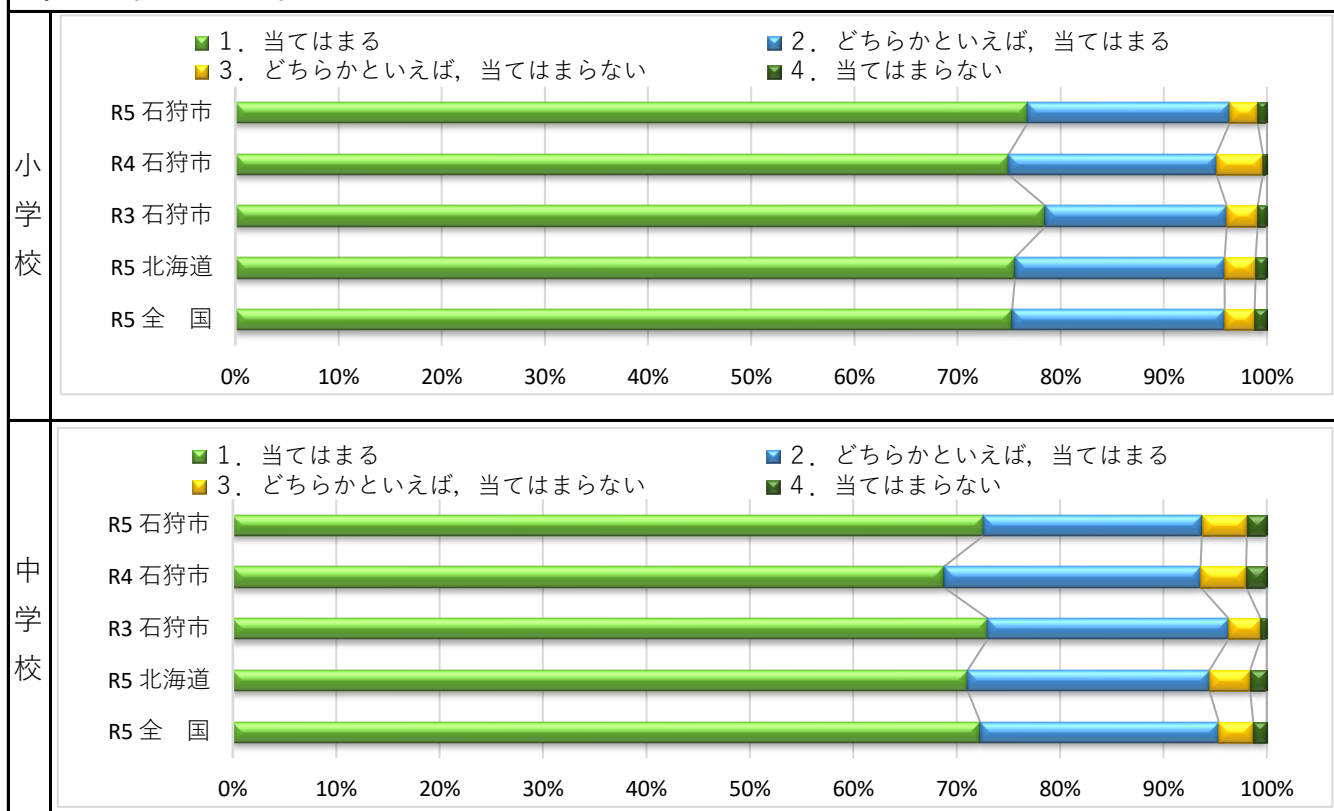
3. 将来の夢や目標を持っていますか



人の役に立ちたいと思う小学生・中学生は、9割超で全道・全国平均とほぼ同様

・「人の役に立つ人間になりたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で96.4%(全国比+0.5ポイント、全道比+0.6ポイント)で、中学生では92.4%(全国比-2.2ポイント、全道比-1.3ポイント)でした。

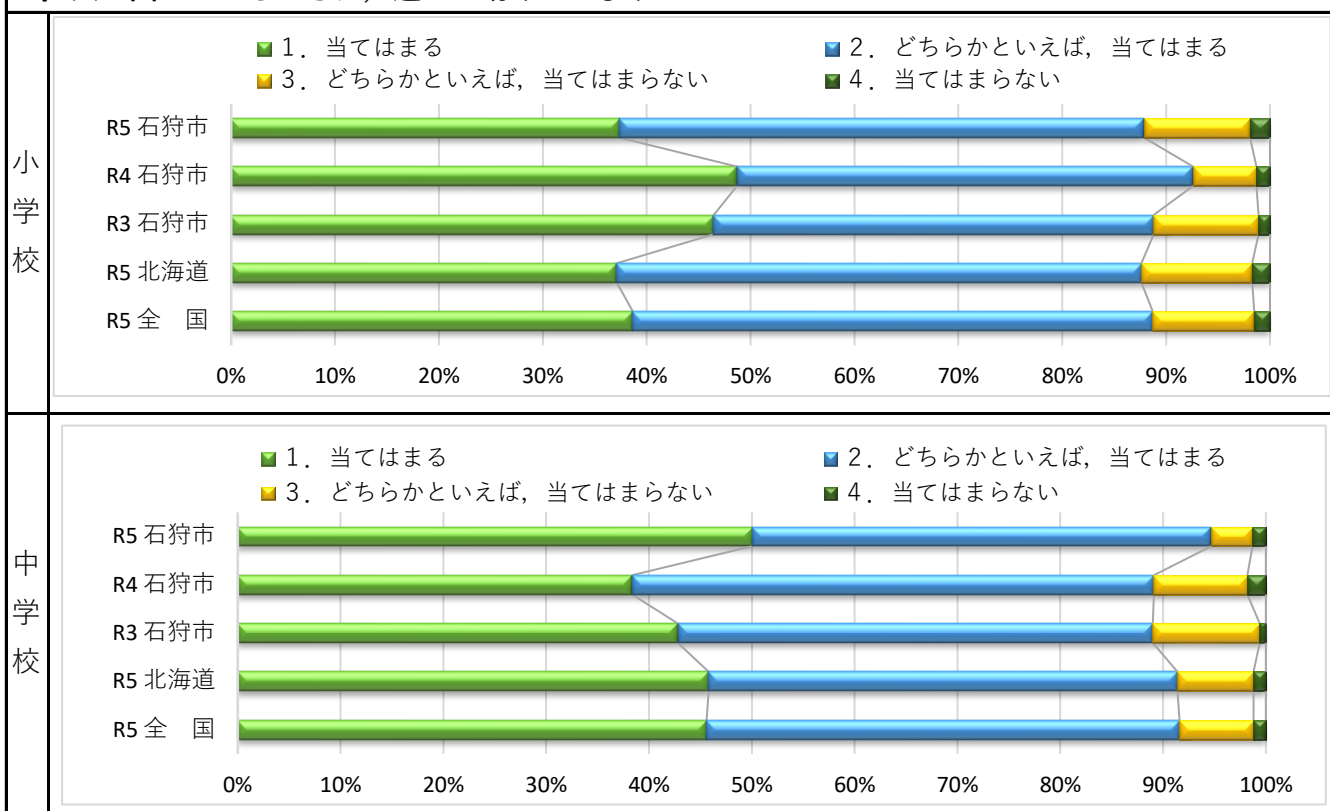
4. 人の役に立つ人間になりたいと思いますか



思いやりのある行動をとる小中学生は約9割で、中学生は全道・全国平均以上

・「人が困っているときは、進んで助けている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で87.0%(全国比-1.1ポイント、全道比-0.1ポイント)で中学生では94.6%(全国比+3.0ポイント、全道比+3.2ポイント)でした。

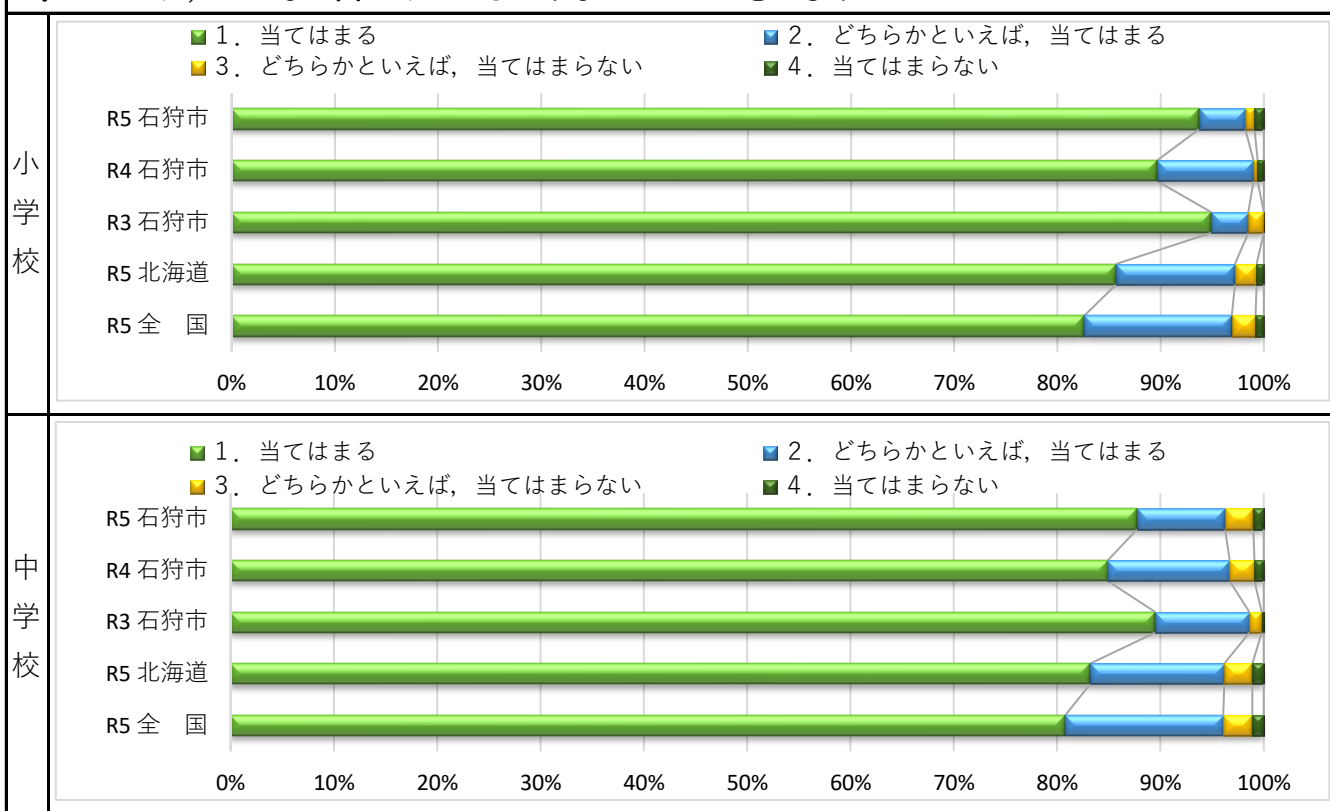
5. 人が困っているときは、進んで助けていますか



いじめに対する意識は相当高いが、なお継続して取り組むべき課題

・「いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で98.3%(全国比+1.4ポイント、全道比+1.2ポイント)、中学生は95.0%(全国比-0.5ポイント、全道比-0.5ポイント)でした。

6. いじめは、どんな理由があってもいけないことだと思いますか

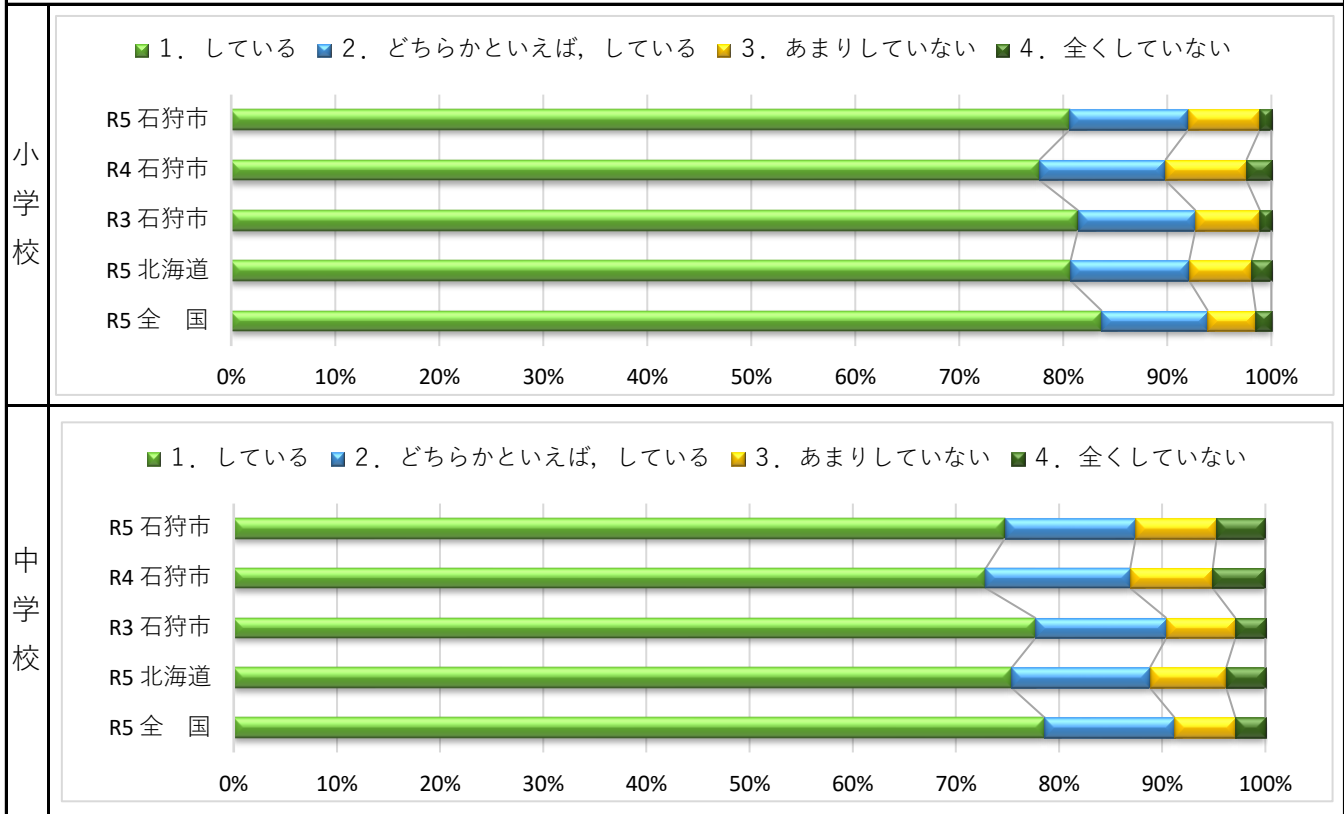


II 基本的な生活習慣

朝食摂取習慣は全道・全国平均との差が縮まる傾向であるが、中学生は全国平均よりやや低い

- ・「朝食を毎日食べている・どちらかといえば食べている」割合は、小学生で92.0%(全国比-1.9ポイント、全道比-0.1ポイント)で、中学生では、86.9%(全国比-4.3ポイント、全道比-1.9ポイント)でした。

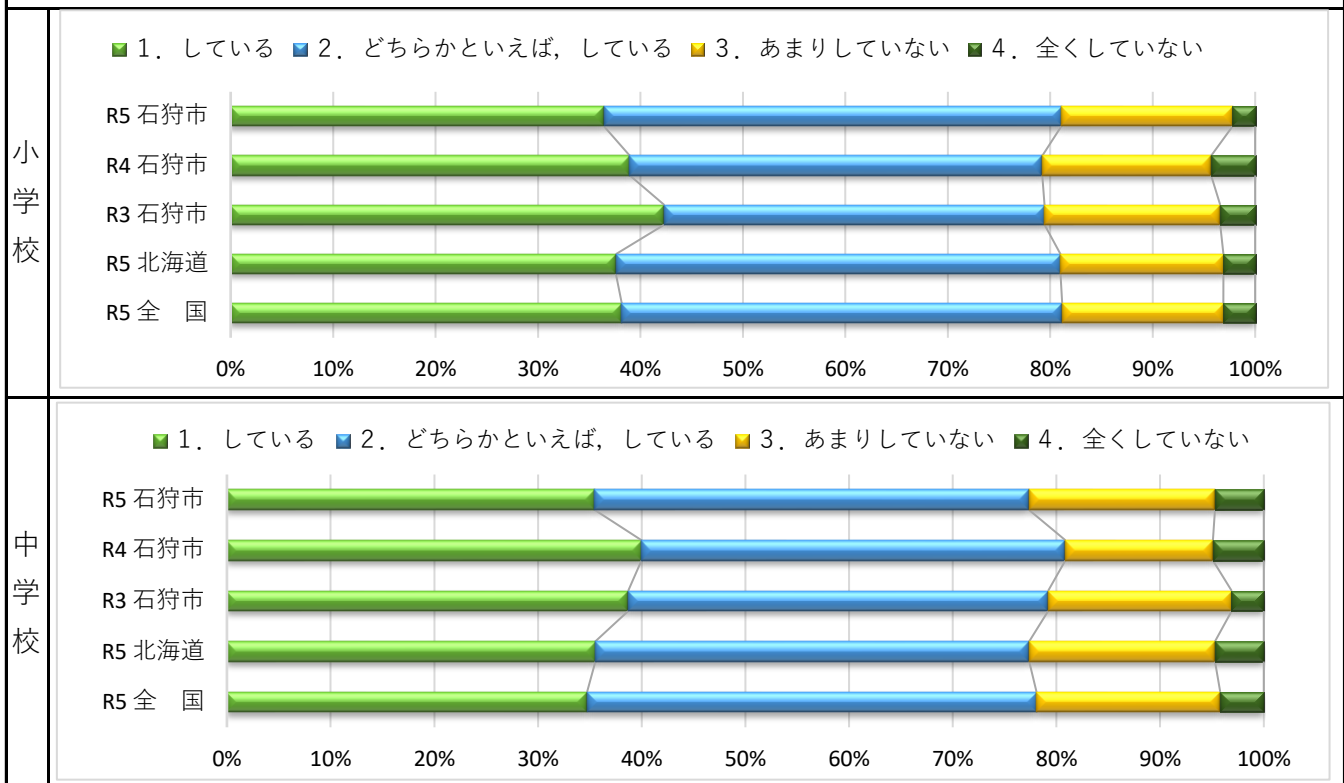
7. 朝食を毎日食べていますか



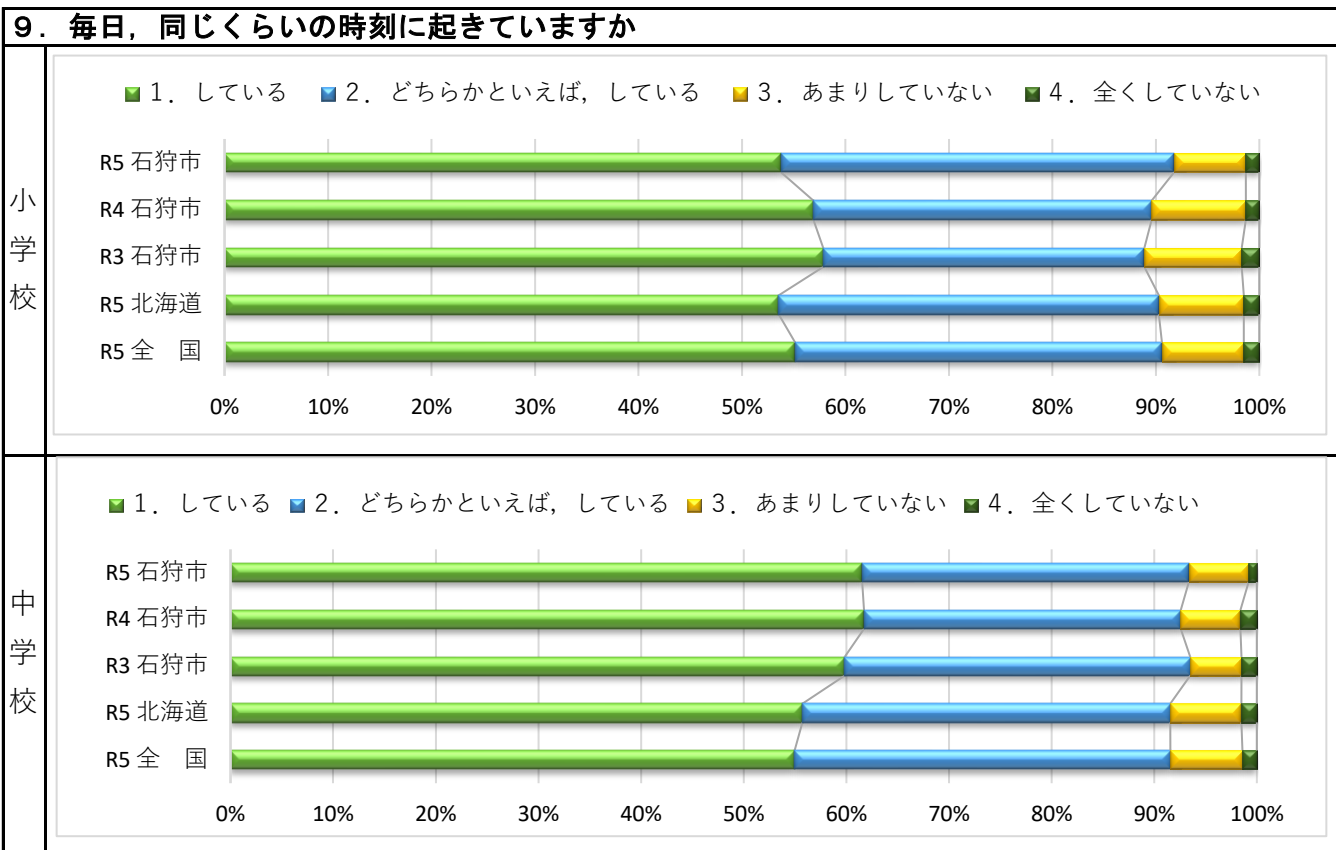
就寝・起床時刻等の生活リズムの定着は小学生・中学生ともに全国平均と同様

- ・「毎日、同じくらいの時刻に寝ている・どちらかといえば寝ている」割合は、小学生で81.0%(全国比・全道比±0ポイント)で、中学生では、77.2%(全国比-0.8ポイント、全道比-0.1ポイント)でした。

8. 毎日、同じくらいの時刻に寝ていますか



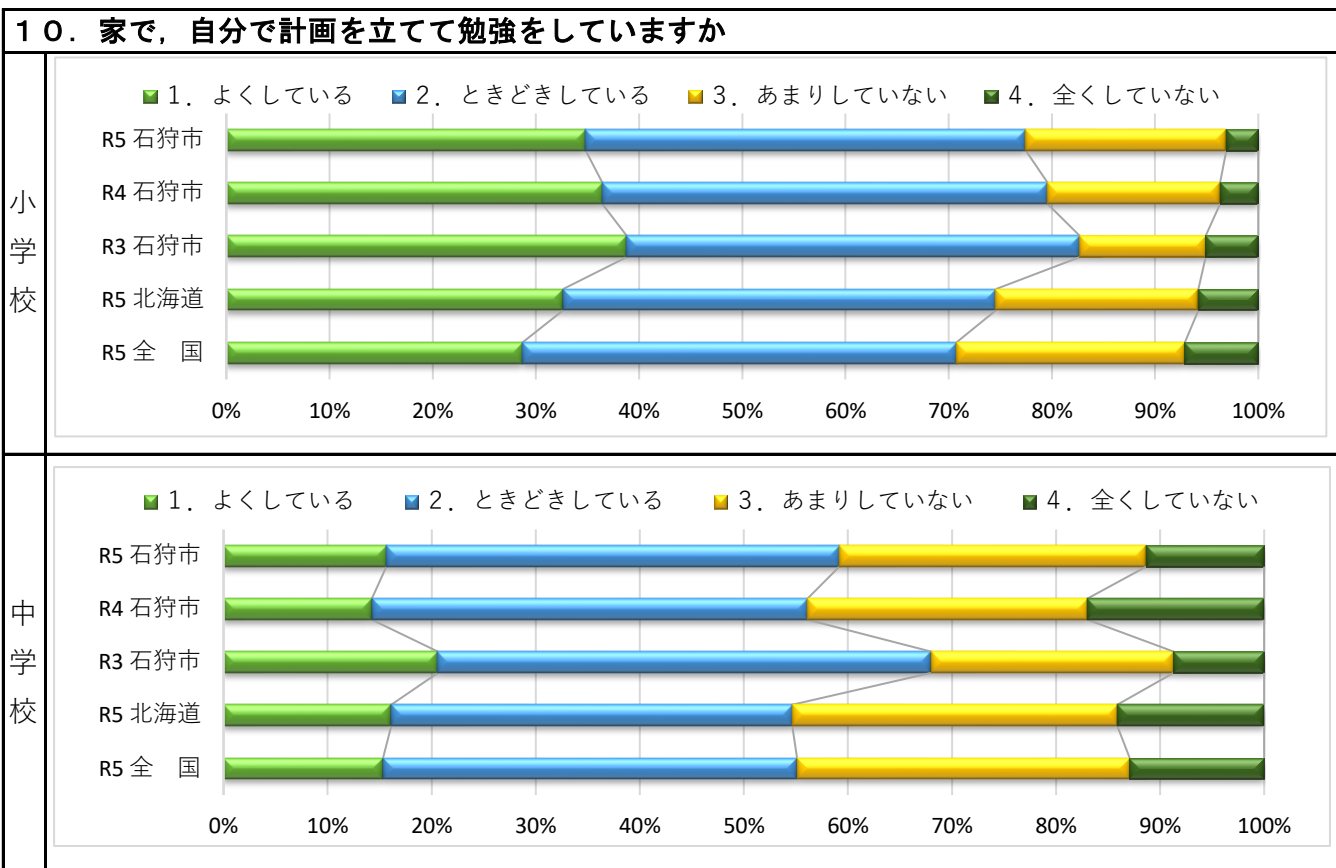
・「毎日、同じくらいの時刻に起きている・どちらかといえば起きている」割合は、小学生で91.5%(全国比+1.0ポイント、全道比+1.3ポイント)で、中学生では、93.0%(全国比+1.7ポイント、全道比+1.8ポイント)でした。



Ⅲ 学習習慣・読書習慣

計画的な家庭学習は、小学生・中学生ともに全道・全国平均を上回る

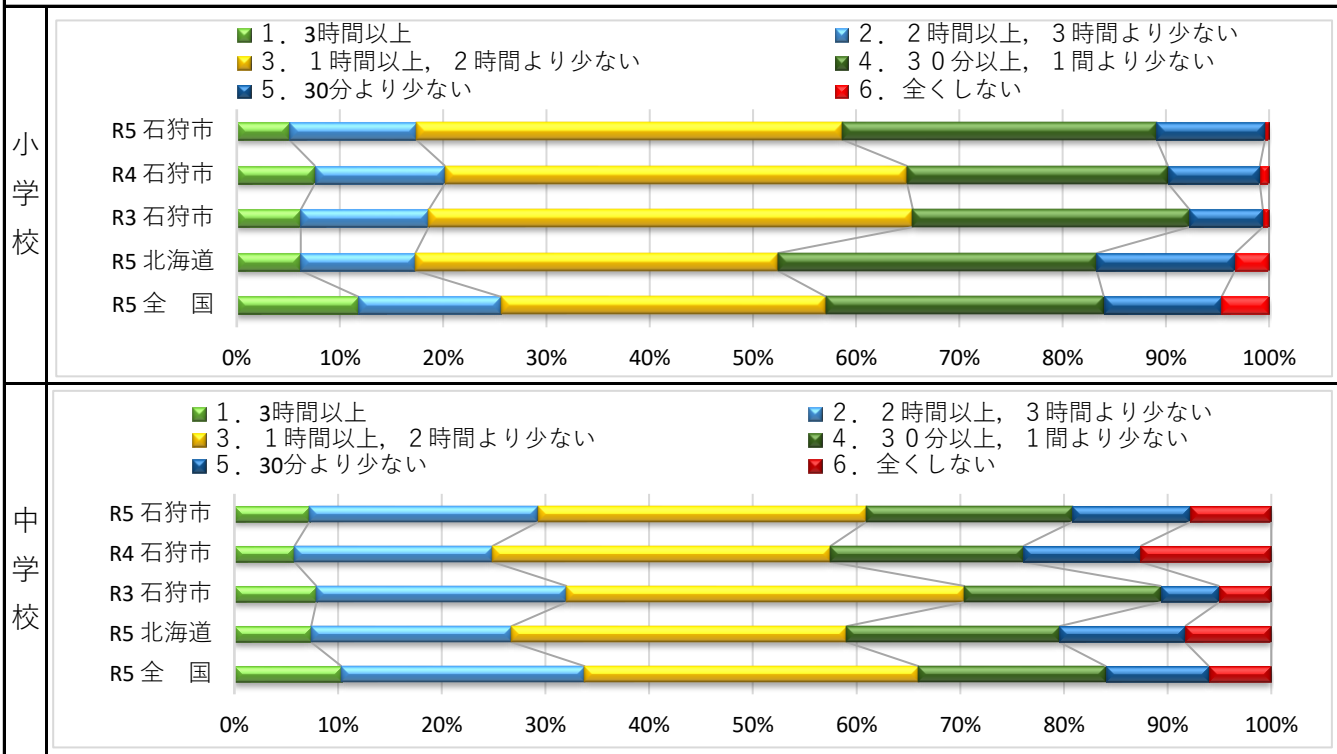
・「家で、自分で計画を立てて勉強をしている・ときどきしている」割合は、小学生で77.4%(全国比+6.7ポイント、全道比+2.9ポイント)で、中学生では59.0%(全国比+4.0ポイント、全道比+4.4ポイント)でした。



平日、家庭学習を1時間以上する小学生の割合は全道平均を上回るものの全国平均とほぼ同様、中学生は全道平均とほぼ同様であるが、全国平均を下回る

・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり「1時間以上勉強する」と回答している小学生の割合は、58.7%(全国比+1.6ポイント、全道比+6.3ポイント)で、中学生の割合は60.7%(全国比-5.1ポイント、全道比+1.7ポイント)でした。

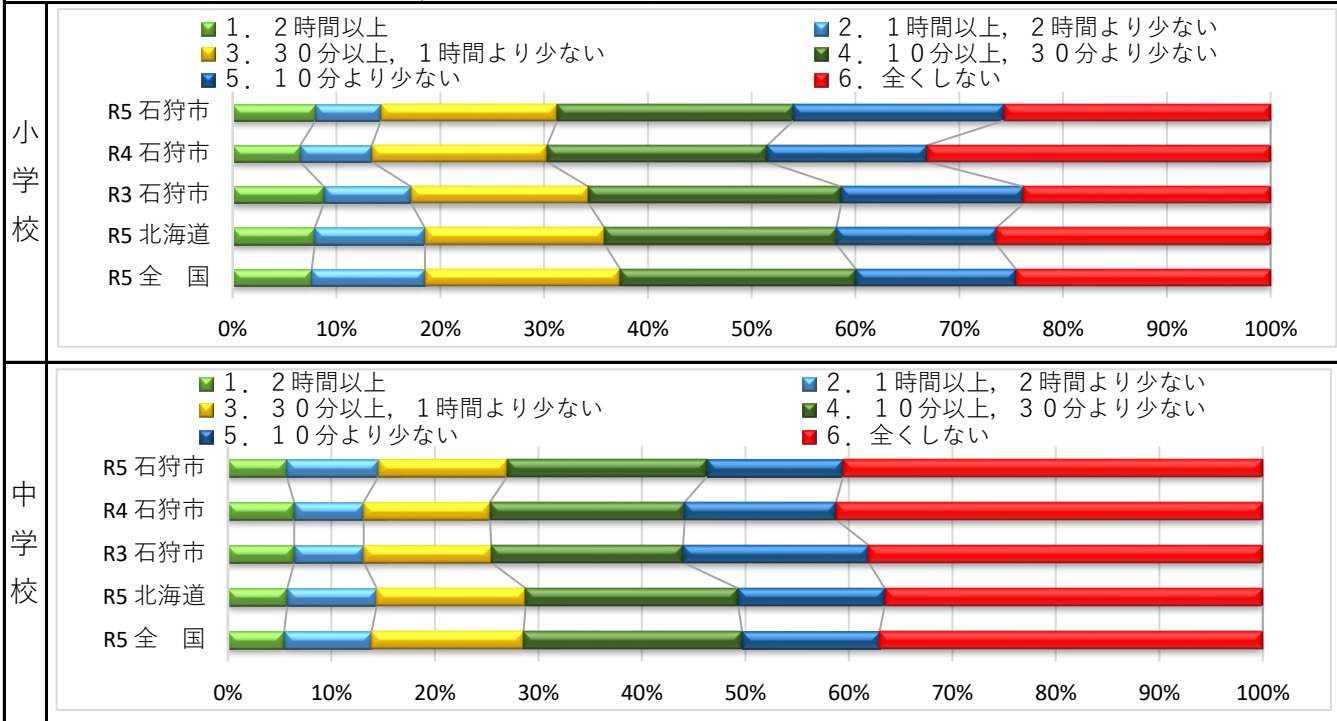
1 1. 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、勉強をしますか（学習塾で勉強している時間や家庭教師に教わっている時間も含む）



30分以上読書する小学生は約3割で全道・全国平均より低く、中学生は3割以下で全道・全国平均とほぼ同様（下位）であり、依然として課題

・学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たり「30分以上読書をする」割合は、小学生で31.3%(全国比-6.0ポイント、全道比-4.5ポイント)で、中学生は、26.7%(全国比-1.7ポイント、全道比-1.9ポイント)でした。

1 2. 学校の授業時間以外に、普段（月～金曜日）、1日当たりどれくらいの時間、読書をしますか（教科書や参考書、漫画や雑誌除く）

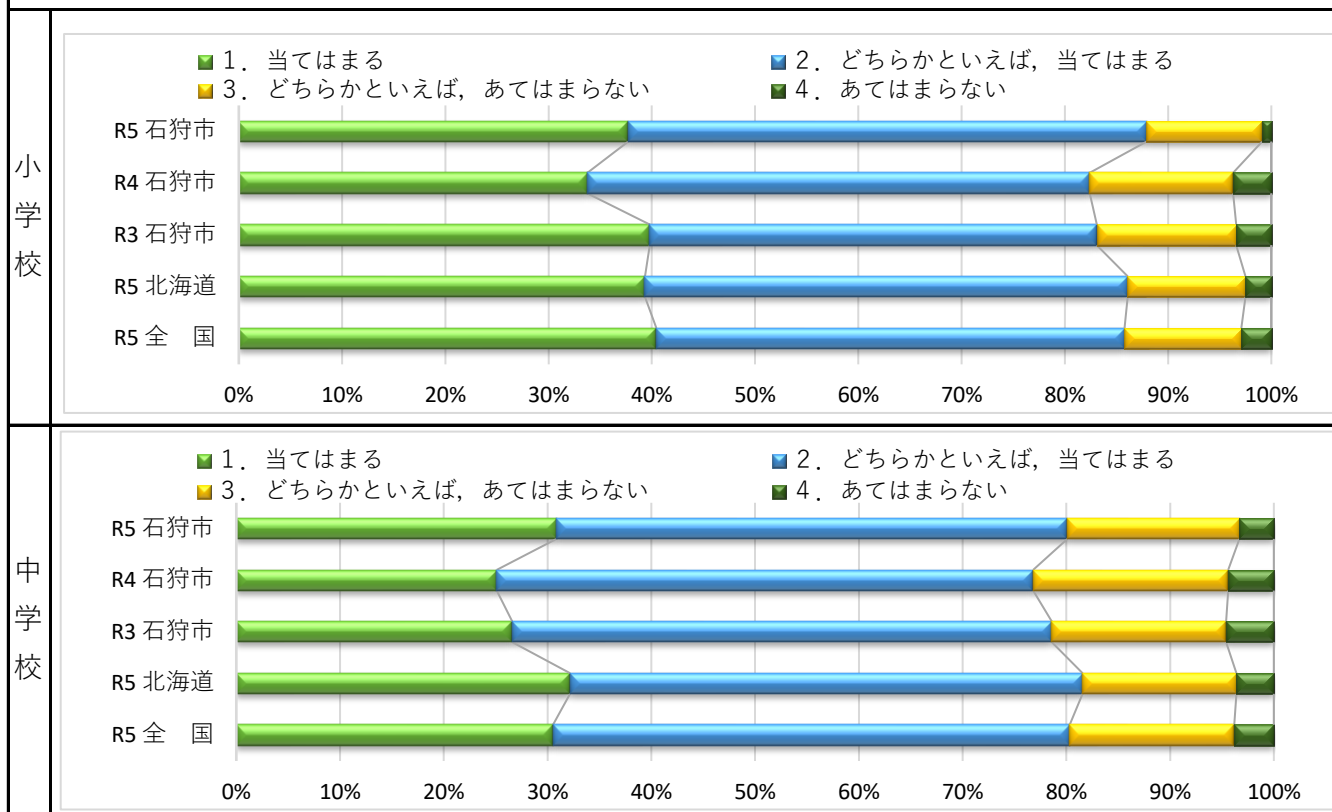


IV 学習に対する興味・関心や理解度等

「国語の授業内容が分かる」小中学生は、ともに全道・全国平均とほぼ同様

・「国語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で87.9%(全国比+2.2ポイント、全道比+1.9ポイント)で、中学生では79.7%(全国比-0.3ポイント、全道比-1.7ポイント)でした。

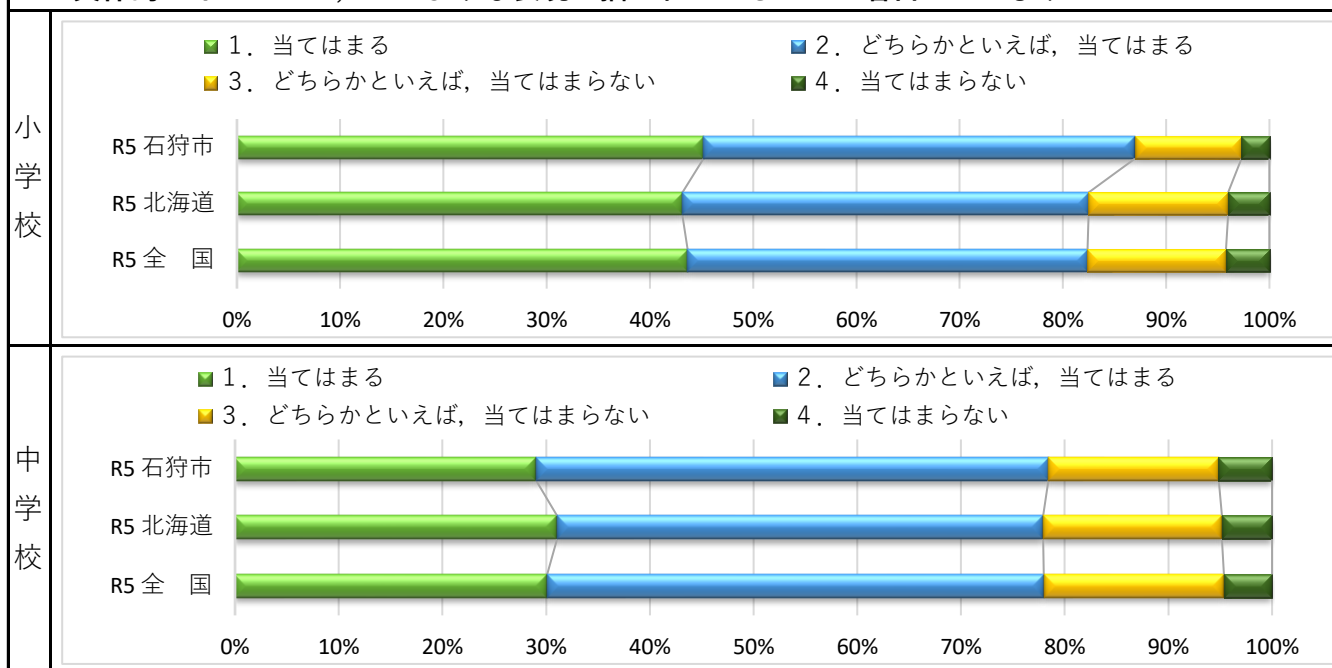
1 3. 国語の授業の内容はよく分かりますか



「国語の物語教材で、登場人物等を具体的に想像し、描写を捉えることができた」 と思う小学生は約9割で全道・全国平均を上回り、中学生は約8割で全道・全国平均と同様

・「国語の物語教材で、登場人物を具体的に想像し、描写を捉えることができると思う」割合は、小学生で86.8%(全国比+4.5ポイント、全道比+4.4ポイント)で、中学生では77.8%(全国比+0.6ポイント、全道比+0.5ポイント)でした。

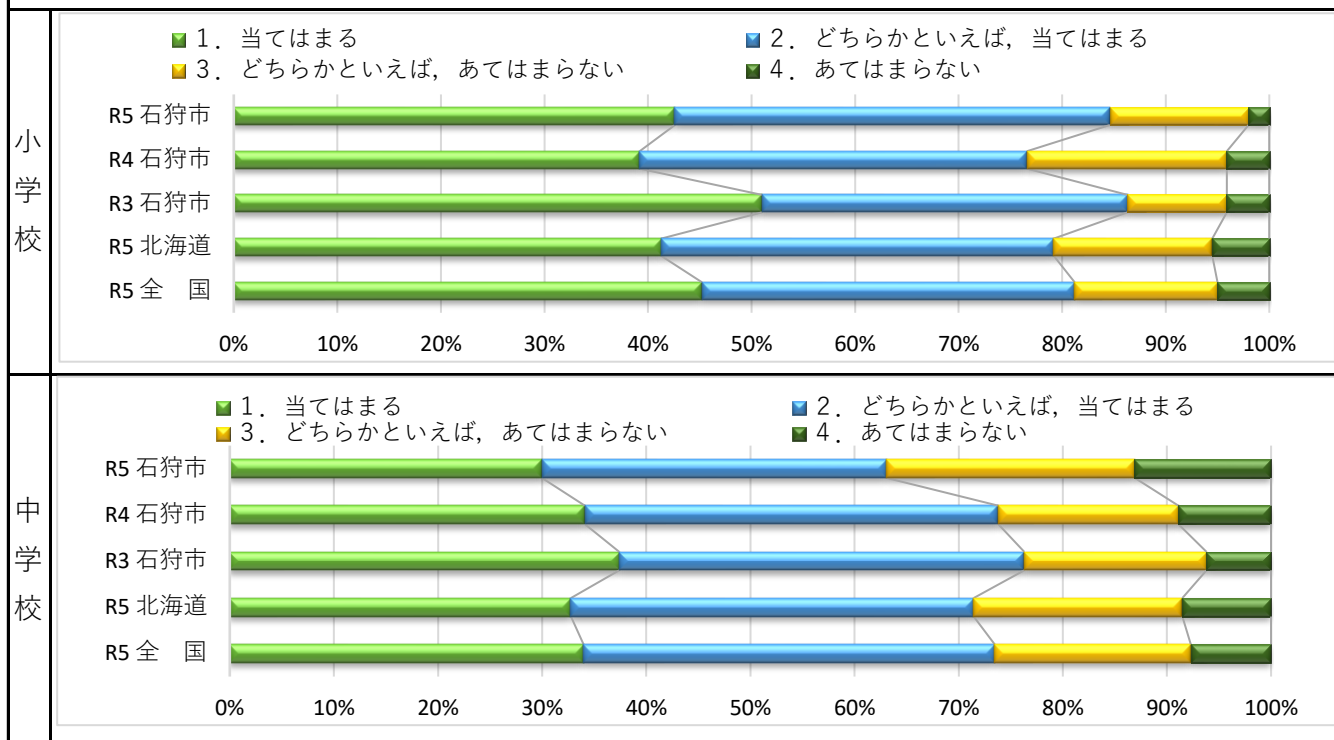
1 4. 国語の授業で、物語を読むときに、登場人物の性格や特徴、物語全体や展開を具体的にイメージし、どのような表現で描かれているのかに着目していますか



「算数・数学の授業内容が分かる」小学生は全道・全国平均を上回るが、中学生は全道・全国平均を大きく下回る

・「算数・数学の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で84.6%(全国比+3.4ポイント、全道比+5.4ポイント)で、中学生では62.7%(全国比-10.6ポイント、全道比-8.6ポイント)でした。

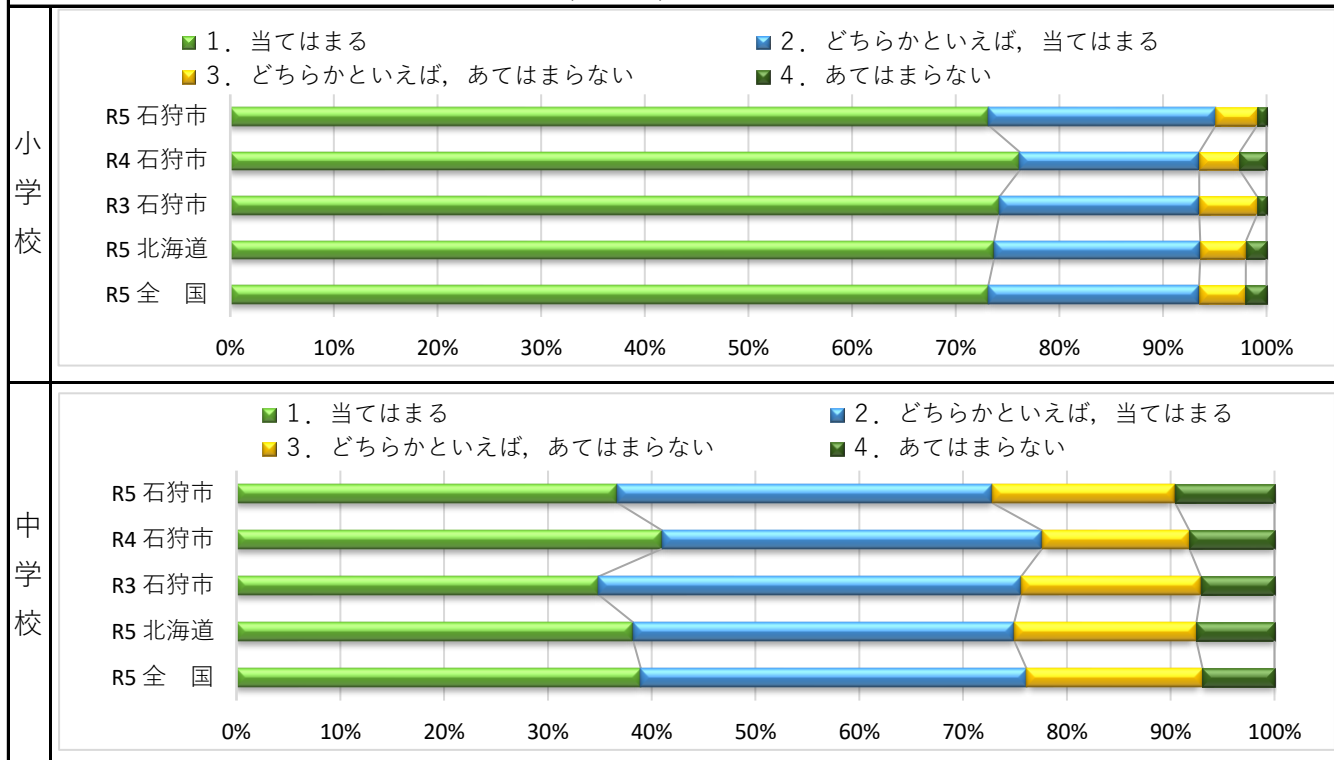
1 5. 算数・数学の授業の内容はよく分かりますか



「算数・数学の学習は将来、役に立つ」と思う小学生は全道・全国平均とほぼ同様、中学生は全道・全国平均をやや下回る

・「算数・数学の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で95.1%(全国比+1.8ポイント、全道比+1.5ポイント)で、中学生では72.2%(全国比-3.6ポイント、全道比-2.5ポイント)でした。

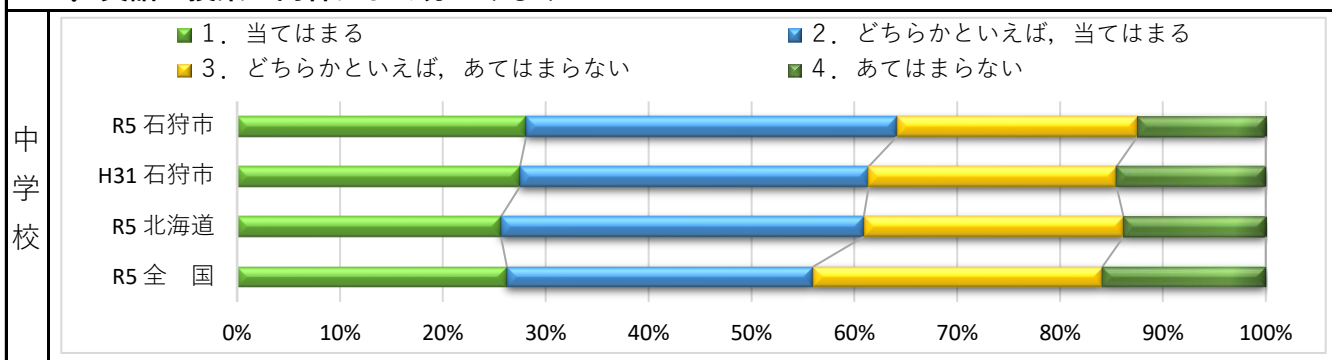
1 6. 算数・数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか



「英語の授業の内容がよく分かる」と回答した中学生は約6割、全道・全国平均を上回る

・「英語の授業の内容がよく分かる・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は63.9%（全国比+8.2ポイント、全道比+3.1ポイント）でした。

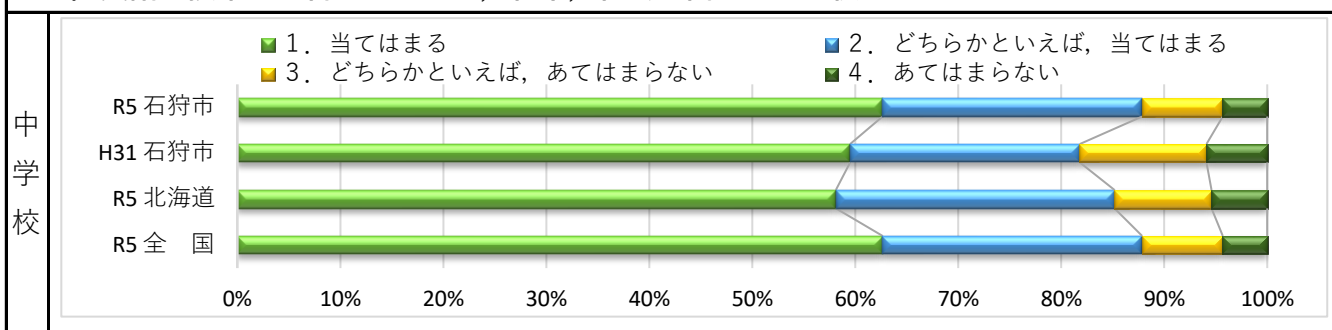
17. 英語の授業の内容はよく分かりますか



「英語の学習は将来、役に立つ」と思う中学生は全国平均とほぼ同様

・「英語の授業で学習したことは将来、社会に出たときに役に立つ・どちらかといえば当てはまる」割合は、中学生は87.5%（全国比±0ポイント、全道比+2.5ポイント）でした。

18. 英語の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと思いますか

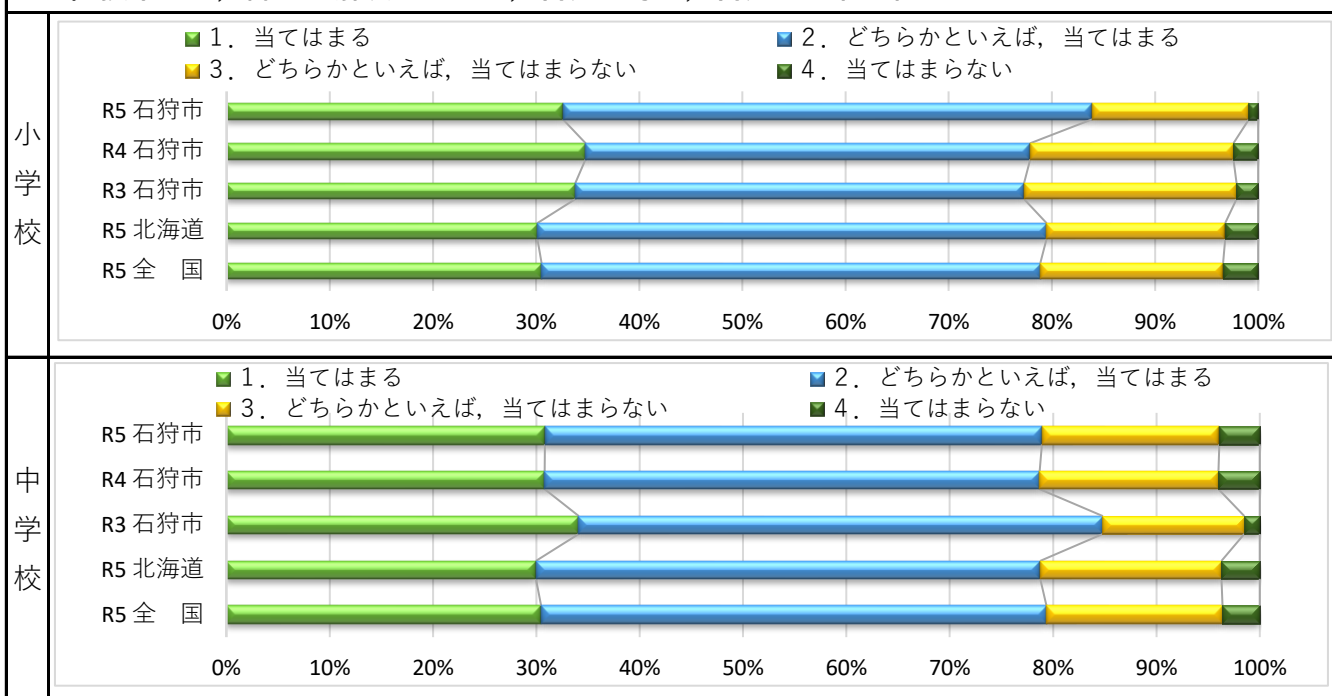


V 主体的・対話的で深い学びの視点からの授業改善

課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組む小中学生は、約8割

・「前年度までに受けた授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思う・どちらかといえばそう思う」割合は、小学生で83.9%（全国比+5.1ポイント、全道比+4.5ポイント）で、中学生では78.6%（全国比-0.6ポイント、全道比±0ポイント）でした。

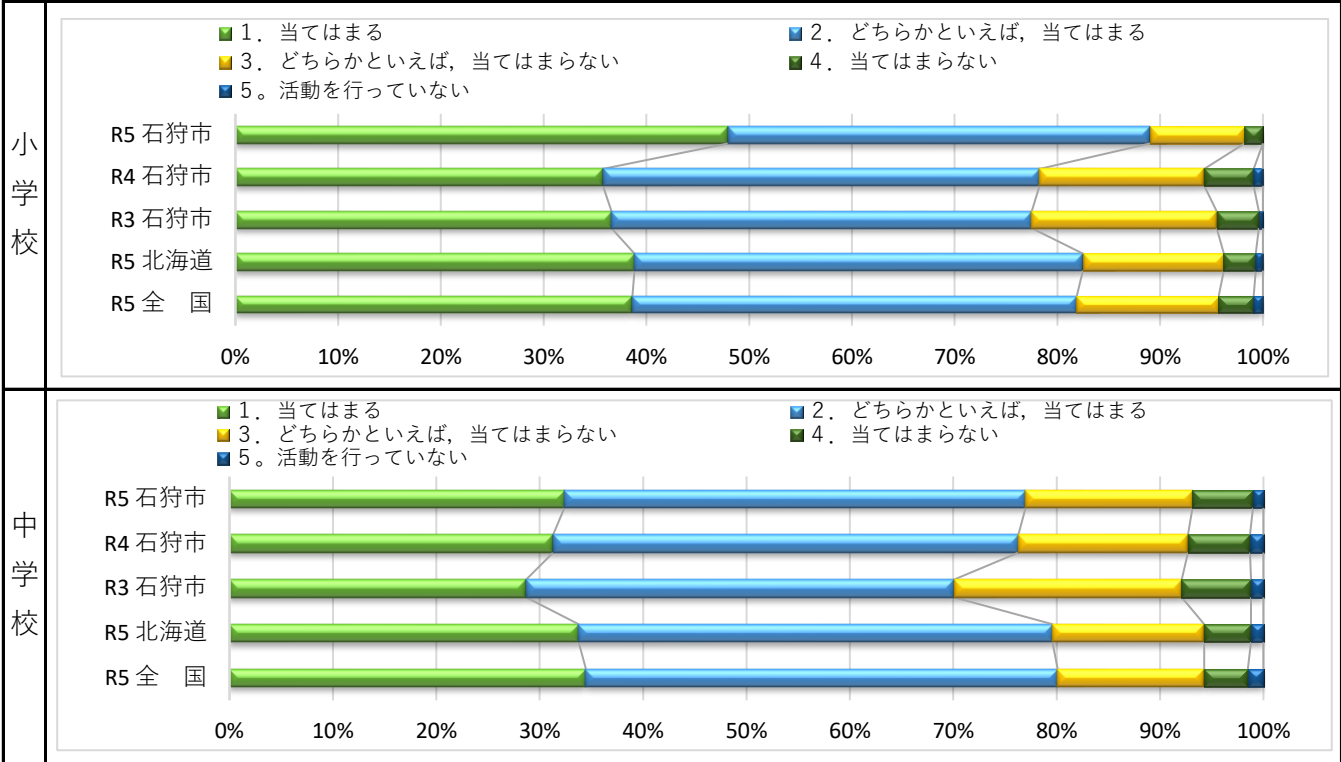
19. 授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組んでいたと思いますか



話し合いを通じて考えを深めたり、広げたりする授業は小学生が全道・全国平均を上回り、中学生は全道・全国平均よりやや低い

・「話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができている・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で89.1%(全国比+7.3ポイント、全道比+6.7ポイント)で、中学生では76.3%(全国比-3.4ポイント、全道比-2.9ポイント)でした。

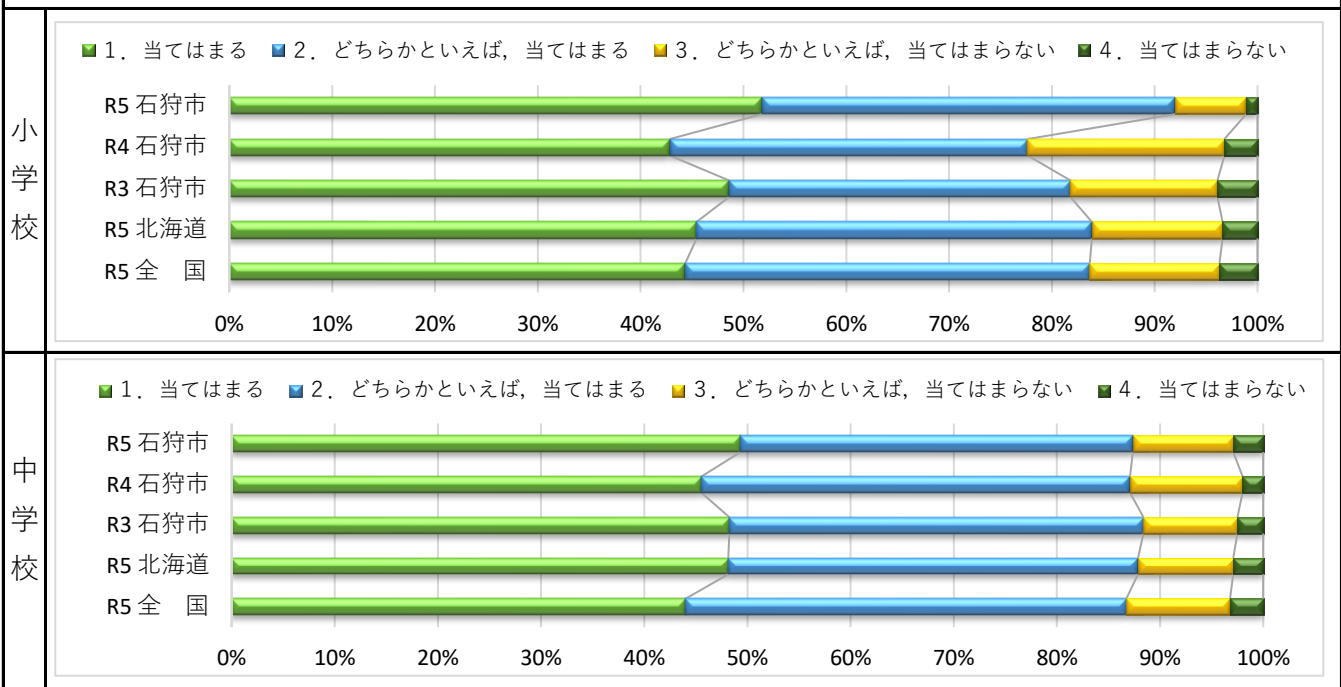
20. 学級の仲間との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



道徳の授業で自分の考えを深めたり、話し合ったりする活動は小学生が9割を超え、全道・全国平均より相当高く、中学生では9割弱で全道・全国平均とほぼ同様

・「道徳の授業では自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいる・どちらかといえば当てはまる」割合は、小学生で92.0%(全国比+8.4ポイント、全道比+8.2ポイント)で、中学生では87.1%(全国比+0.8ポイント、全道比-0.5ポイント)でした。

21. 道徳の授業では、自分の考えを深めたり、学級やグループで話し合ったりする活動に取り組んでいると思いますか

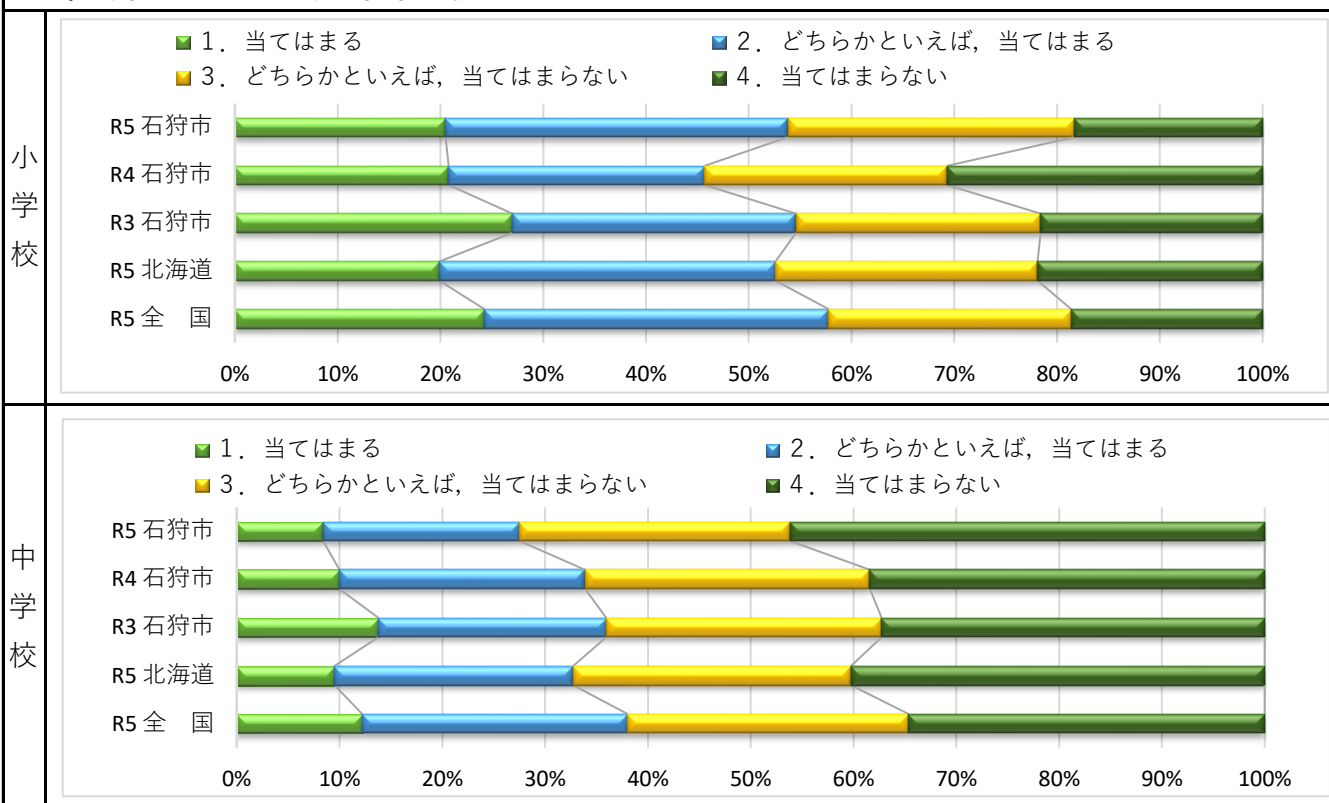


VI 地域や社会への関心

地域行事への参加は、小学生・中学生ともに全道・全国平均より低い傾向、地域や社会への関心は、小学生が全道・全国平均を上回るが、中学生は下回る

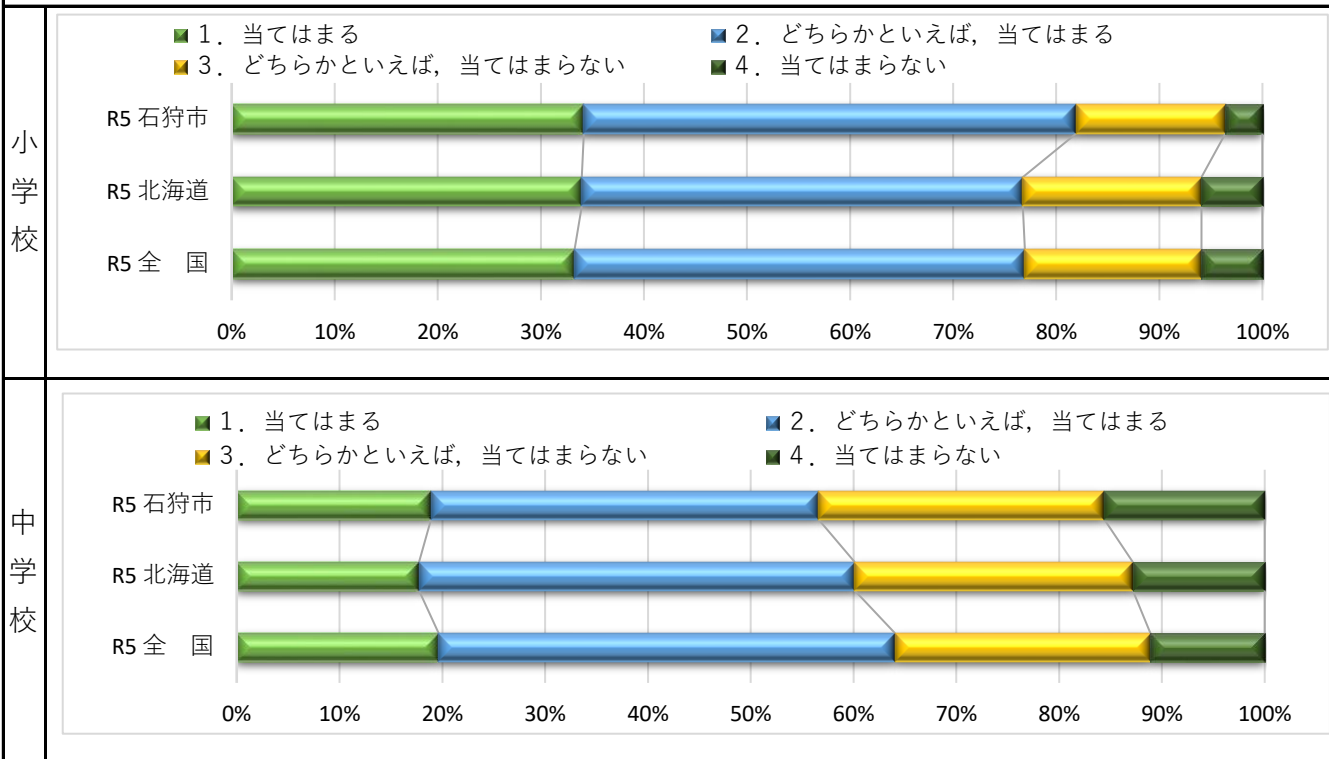
- ・「今住んでいる地域の行事に参加したことがある・どちらかといえば当てはまる」割合は小学生で53.8% (全国比-4.0ポイント, 全道比+1.2ポイント)で, 中学生では27.5%(全国比-10.5ポイント, 全道比-5.2ポイント)でした。

2.2. 今住んでいる地域の行事に参加していますか



- ・「地域や社会をよくするために何かしたいと思う・どちらかといえば当てはまる」割合は小学生で82.0% (全国比+5.2ポイント, 全道比+5.4ポイント)で, 中学生では56.6%(全国比-7.3ポイント, 全道比-3.4ポイント)でした。

2.3. 地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか

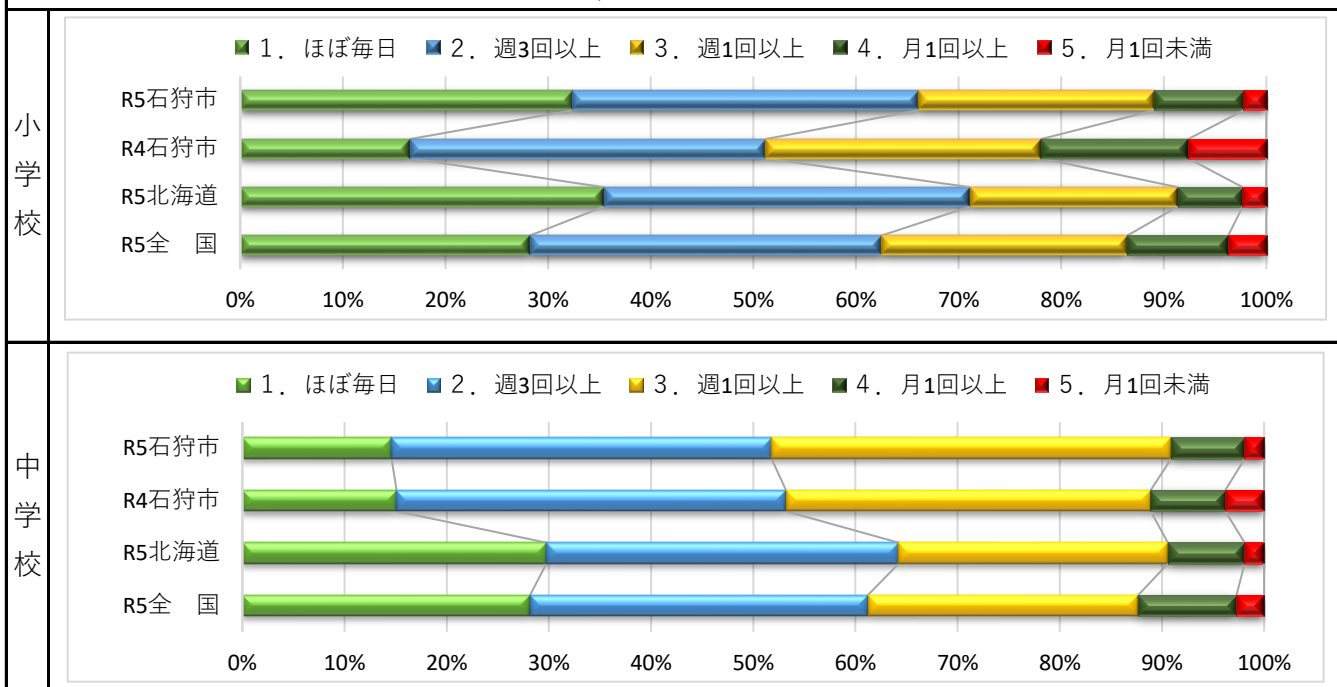


VII ICT機器を活用した学習状況について

PC・タブレットなどのICT機器の活用状況は小学生では昨年度より増加傾向、一方、中学生は全道・全国平均より相当低い

- ・「前年度までに受けた授業でPC・タブレットなどのICT機器を、ほぼ毎日使用している」と回答している小学生の割合は32.4%(全国比+4.2ポイント、全道比-3.0ポイント)で、中学生の割合は14.6%(全国比-13.5ポイント、全道比-15.1ポイント)でした。

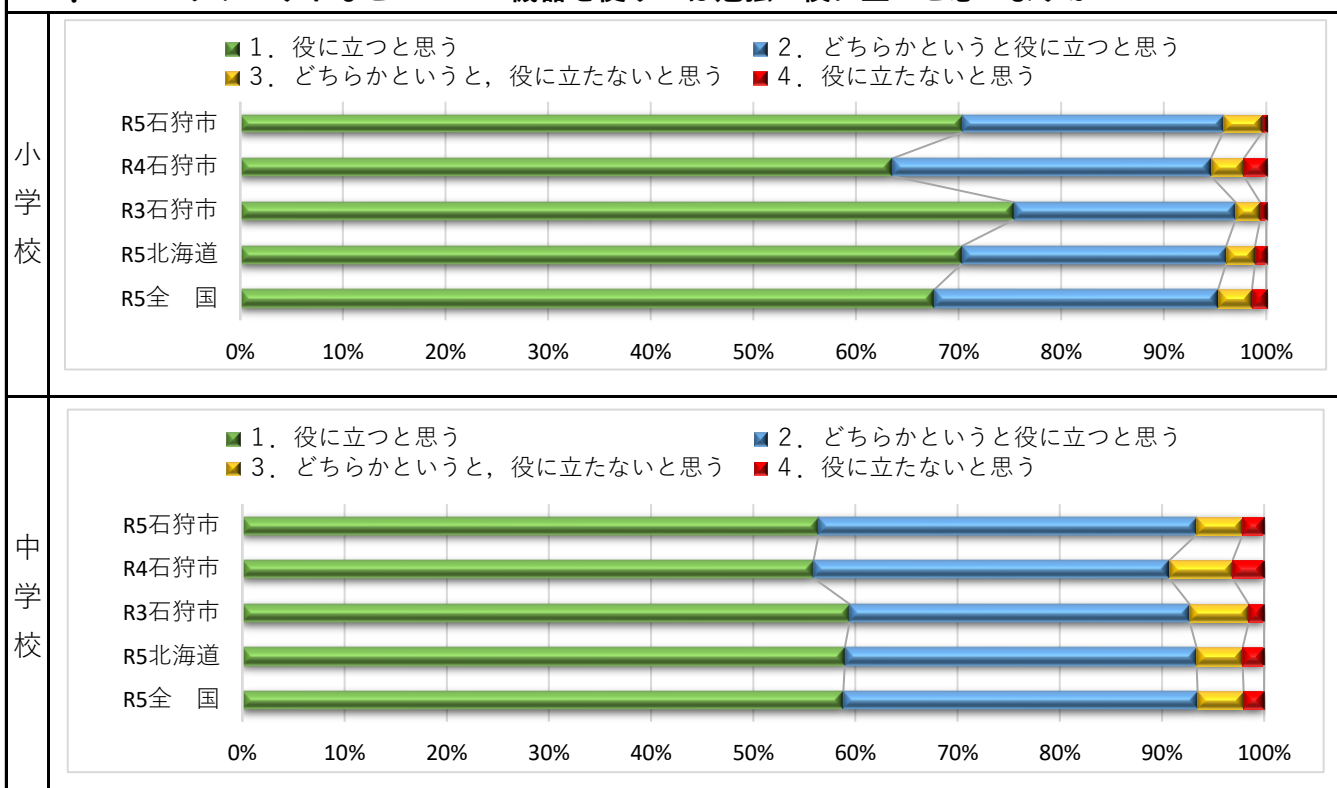
24. PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか



PC・タブレットなどのICT機器の使用は勉強の役に立つと思う小中学生は、9割強で全道・全国平均と同様

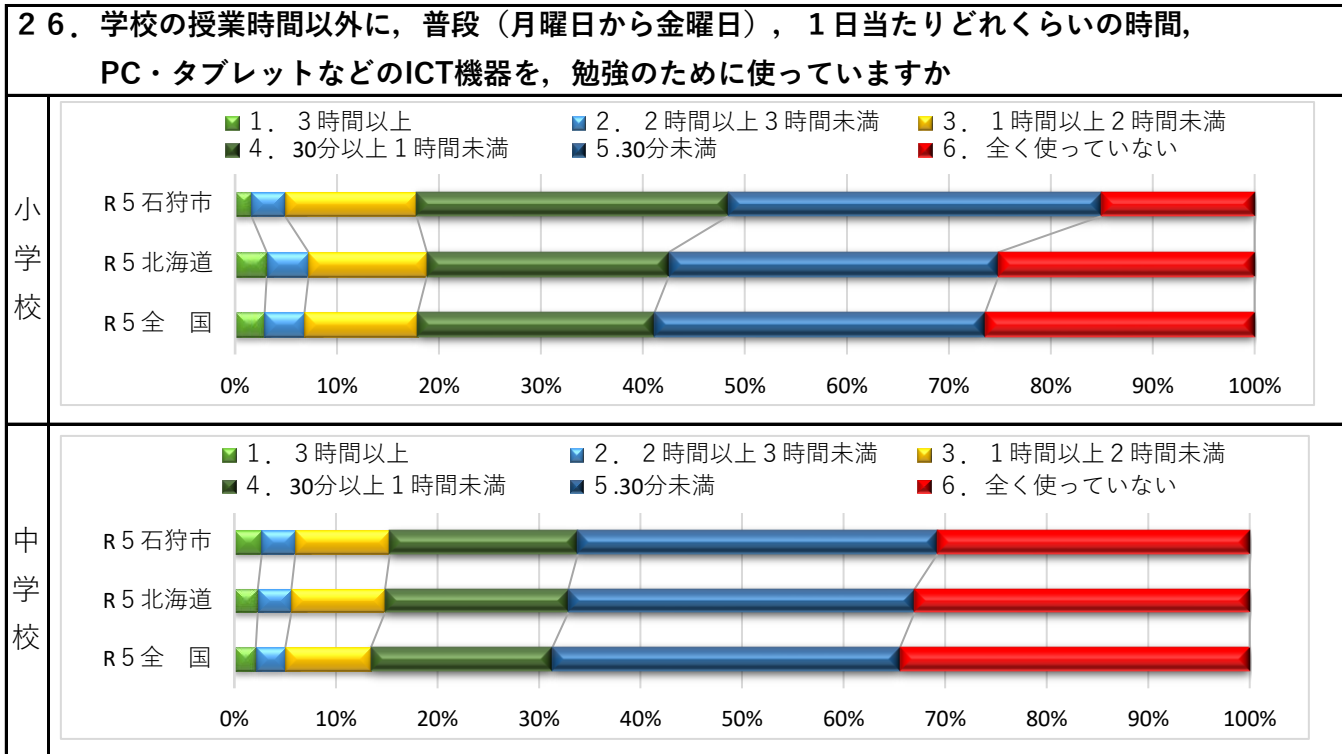
- ・「学習の中でPC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思う、どちらかという役に立つと思う」と回答している小学生の割合は95.7%(全国比+0.6ポイント、全道比-0.2ポイント)で、中学生の割合は93.4%(全国比+0.1ポイント、全道比+0.1ポイント)でした。

25. PC・タブレットなどのICT機器を使うのは勉強の役に立つと思いますか



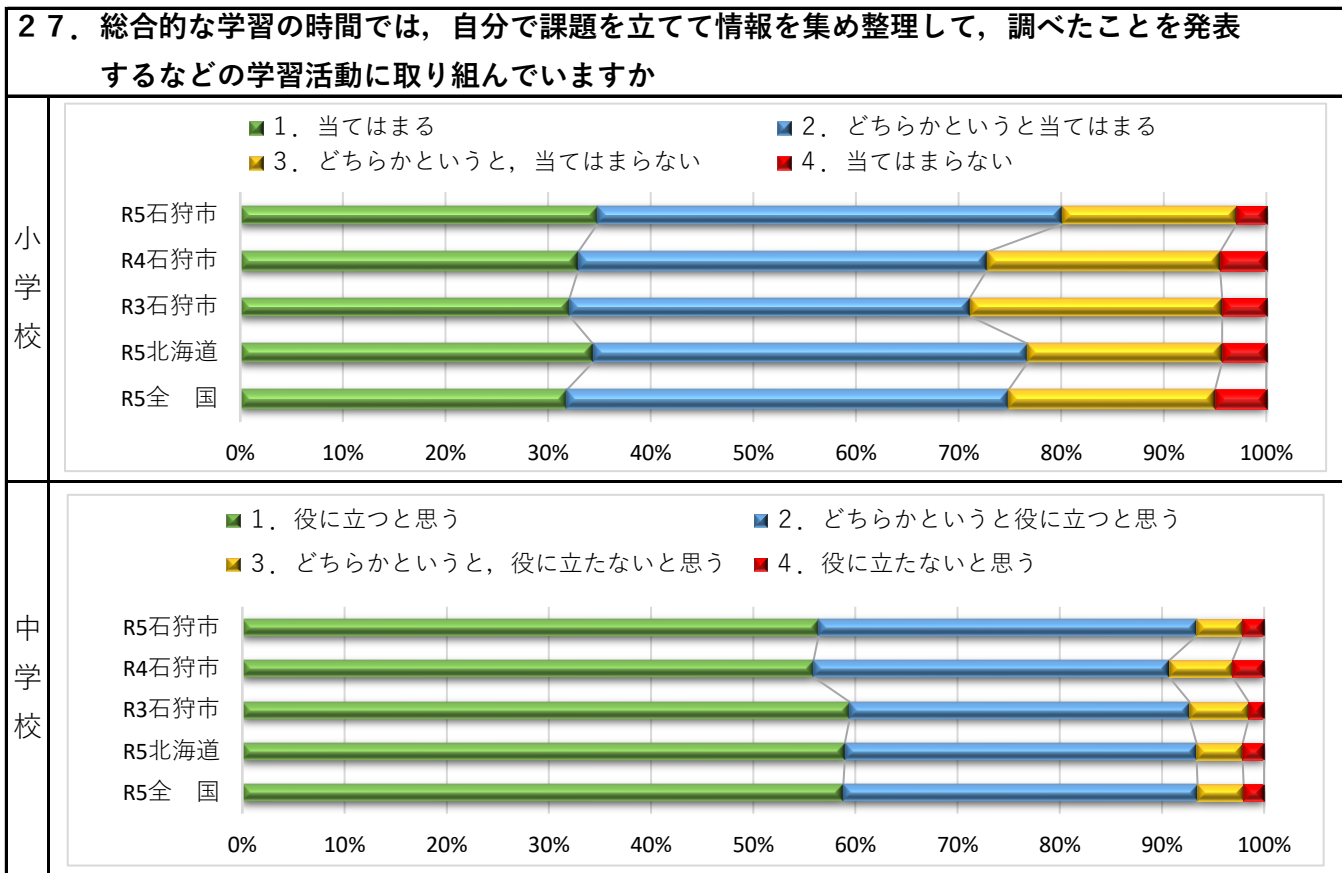
PC・タブレットなどのICT機器を、普段、勉強のために1時間以上使用しているは、小中学生とも全道・全国平均とほぼ同様

・「学校の授業以外に、PC・タブレットなどのICT機器を、勉強のために1時間以上使用している」と回答した小学生の割合は17.8%(全国比-0.1ポイント、全道比-1.0ポイント)で、中学生の割合は15.3%(全国比+1.9ポイント、全道比+0.5ポイント)でした。



総合的な学習の時間では、課題解決的な学習活動に取り組んでいると思う小学生は約8割で全道・全国平均を上回り、中学生は約7割で、全道・全国平均を下回る

・「総合的な学習では、自分で課題を立て調べたことを発表するなどの学習活動に取り組んでいると思う・どちらかという当てはまる」と回答している小学生の割合は80.1%(全国比+5.3ポイント、全道比+3.5ポイント)で、中学生の割合は71.8%(全国比-1.0ポイント、全道比-5.1ポイント)でした。

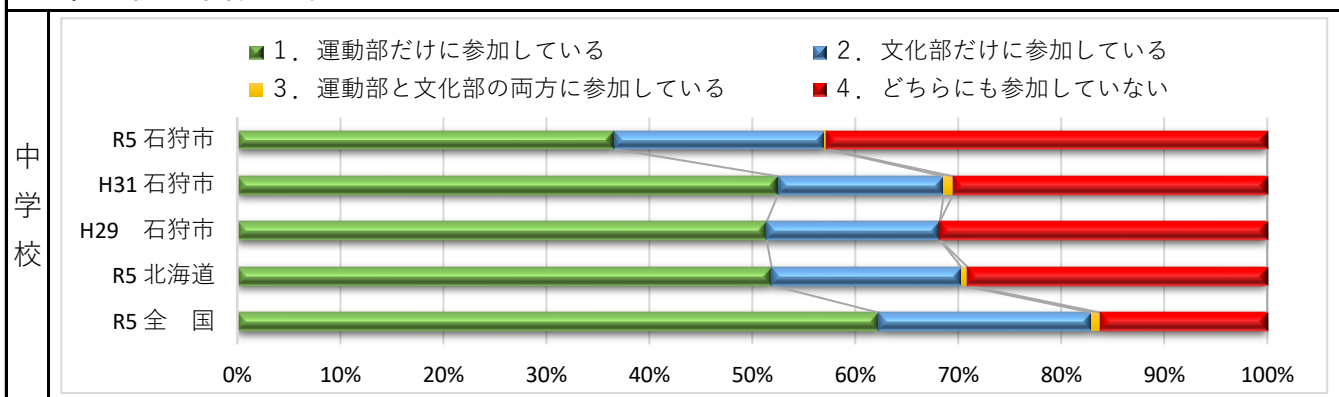


VIII 部活動の状況について

「学校の部活動（運動部または文化部）に参加している」と回答した中学生は5割強で、全道・全国平均より相当低い

- ・「学校の部活動（運動部または文化部）に参加している」割合は、中学生が55.2%（全国比-26.6ポイント，全道比-14.2ポイント）でした。

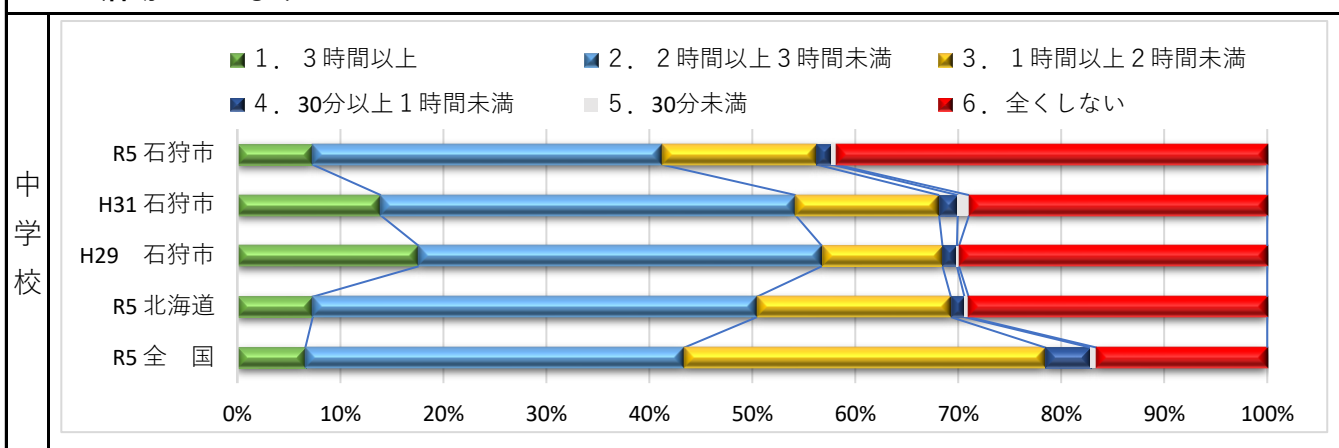
28. 学校の部活動に参加していますか



「学校の部活動に、普段1時間以上活動している」と回答した中学生は5割強で、全道・全国平均より相当低い

- ・「普段の部活動の平均時間は1時間以上」と回答している割合は、中学生は53.9%（全国比-23.3ポイント，全道比-14.2ポイント）でした。

29. 学校の部活動で、普段（月曜日から金曜日）活動を行った日は、平均してどれくらいの時間活動していますか



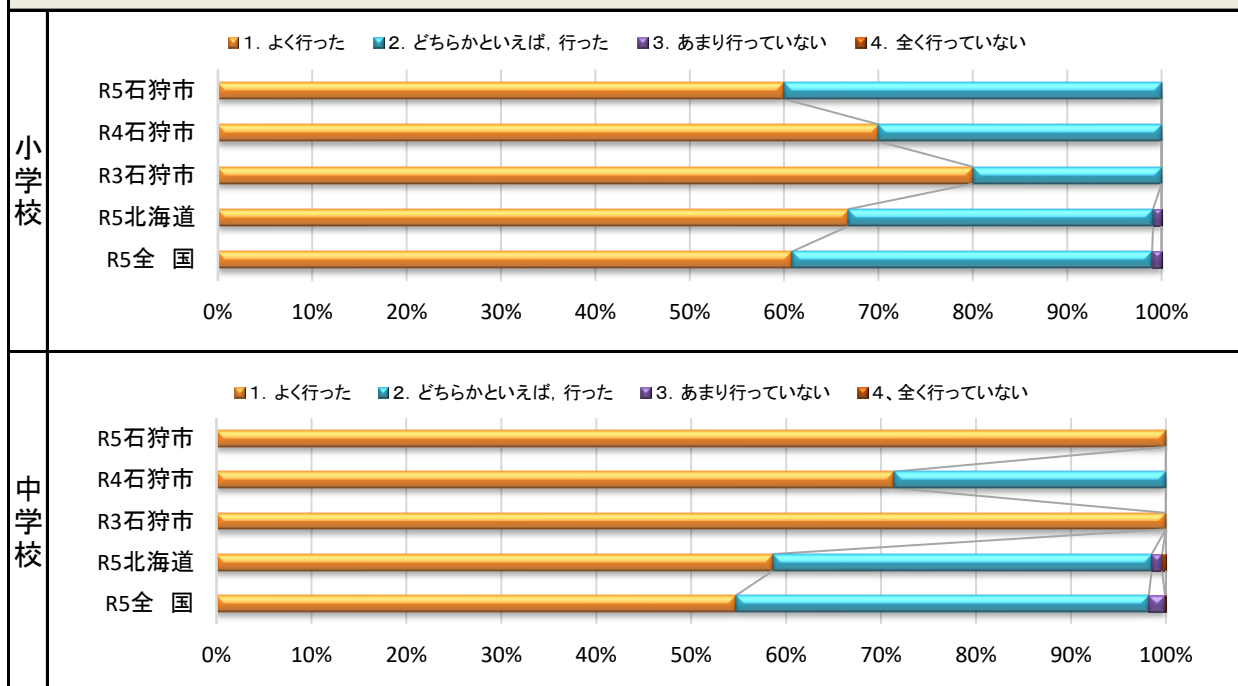
令和5年度 学習状況調査〔学校質問紙〕より

I 生徒指導等

○おおむね落ち着いた学習態度であるが、児童・生徒のよい点や可能性を評価（褒めるなど）や自己肯定感・自己有用感を育成する指導等の継続が大切

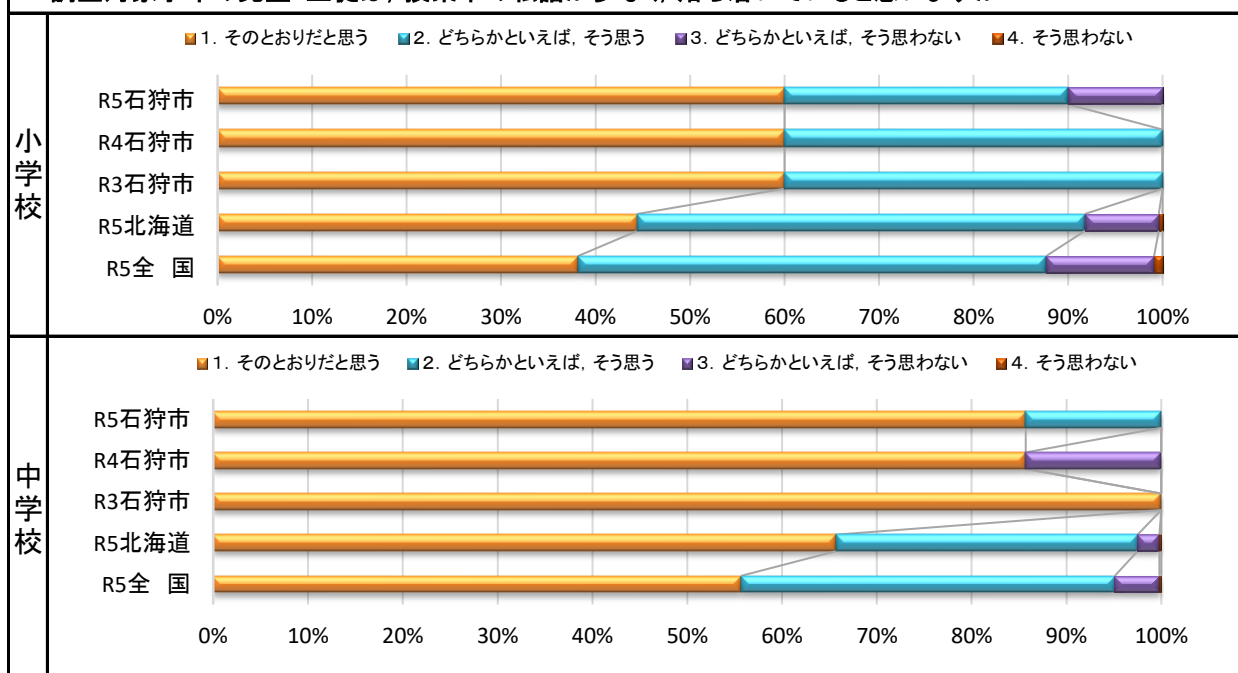
・「学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する取組をよく行った」割合は、小学校で60.0%(全国比-0.8ポイント, 全道比-6.7ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+45.2ポイント, 全道比+41.3ポイント)でした。

1. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学校生活の中で、児童・生徒一人一人のよい点や可能性を見つけ評価する（褒めるなど）取組を行いましたか



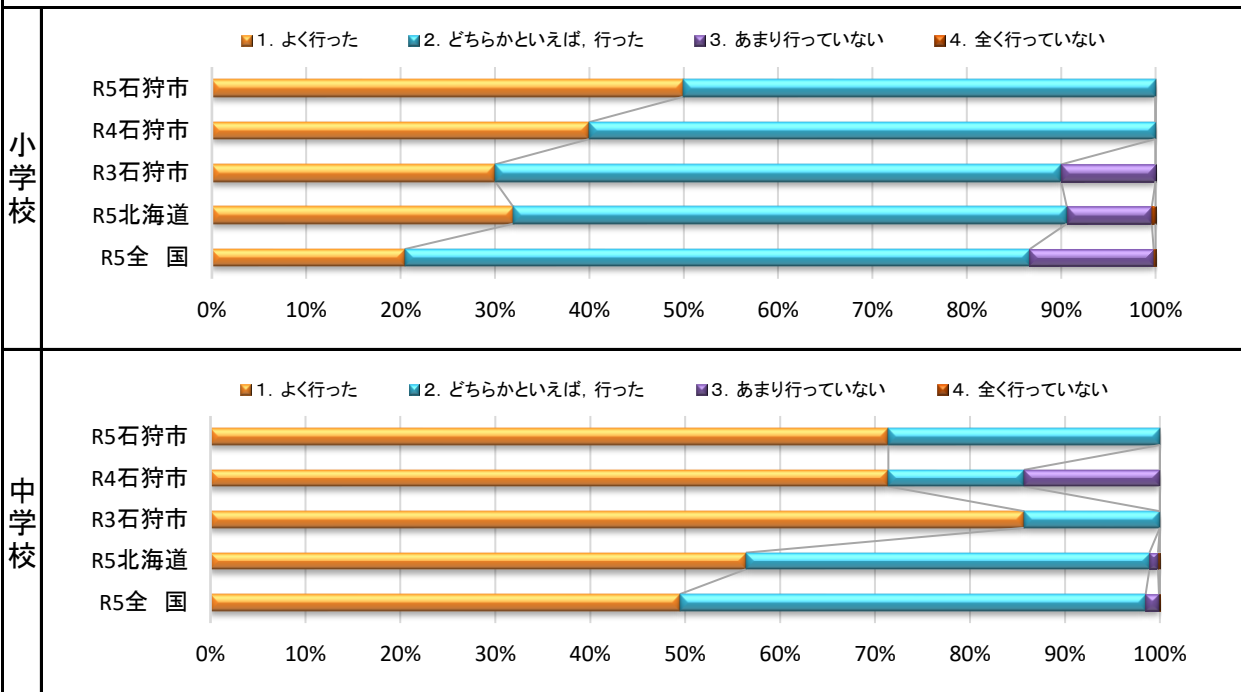
・「私語がなく落ち着いていると思う」割合は、小学校で60.0%(全国比+21.9ポイント, 全道比+15.6ポイント)で、中学校では85.7%(全国比+30.0ポイント, 全道比+20.0ポイント)でした。

2. 調査対象学年の児童・生徒は、授業中の私語が少なく、落ち着いていると思いますか



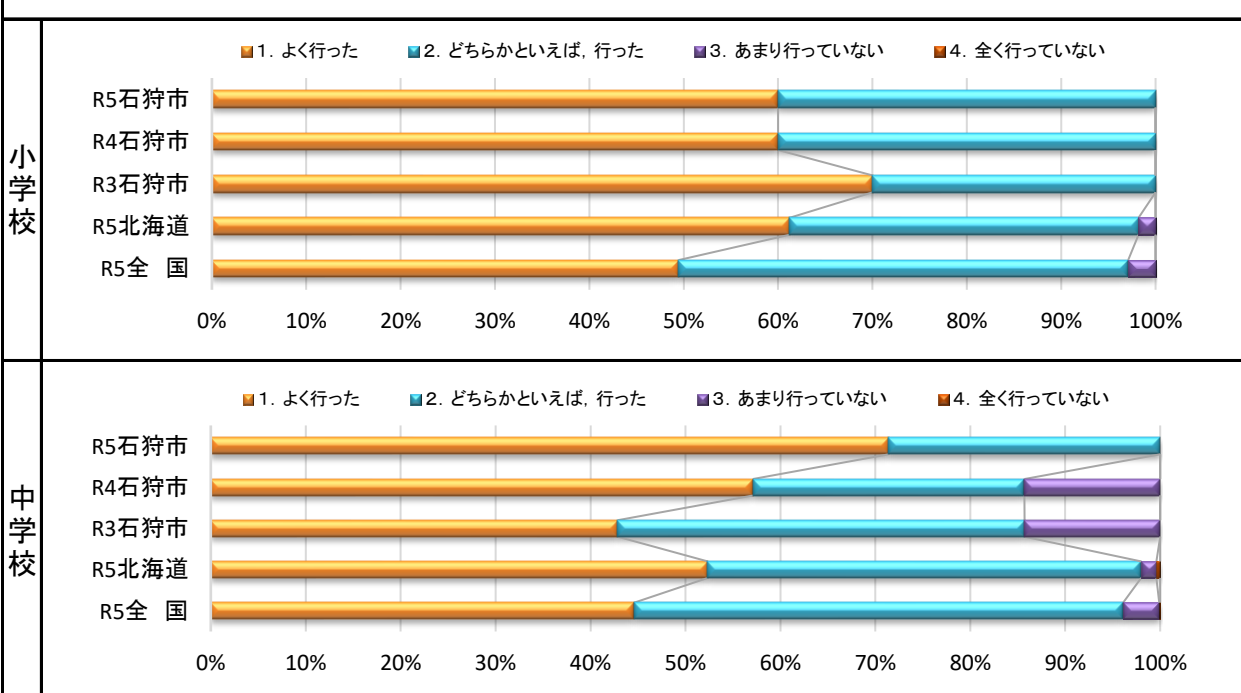
・「将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導をよく行っている」割合は、小学校で50.0%(全国比+29.6ポイント、全道比+18.1ポイント)で、中学校では71.4%(全国比+21.9ポイント、全道比+15.0ポイント)でした。

3. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を行いましたか



・「学級全員で取り組む課題やテーマを与える取組をよく行った」の割合は、小学校で60.0%(全国比+10.6ポイント、全道比+1.1ポイント)で、中学校では71.4%(全国比+26.8ポイント、全道比+19.0ポイント)でした。

4. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、学級全員で取り組んだり挑戦したりする課題やテーマを与えましたか

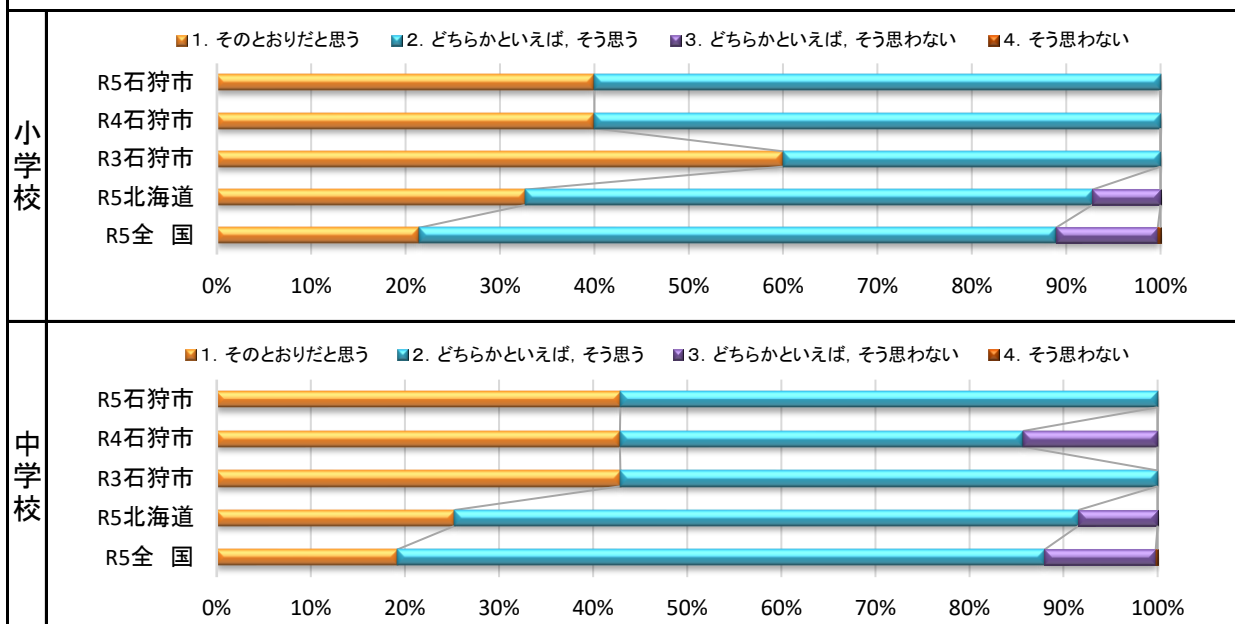


Ⅱ 学習指導・授業改善の取組

○主体的・対話的で深い学びの視点から、授業改善に関する取組の継続が大切
○ICTを活用した個別最適な学び・協働的な学びへの授業改善が必要

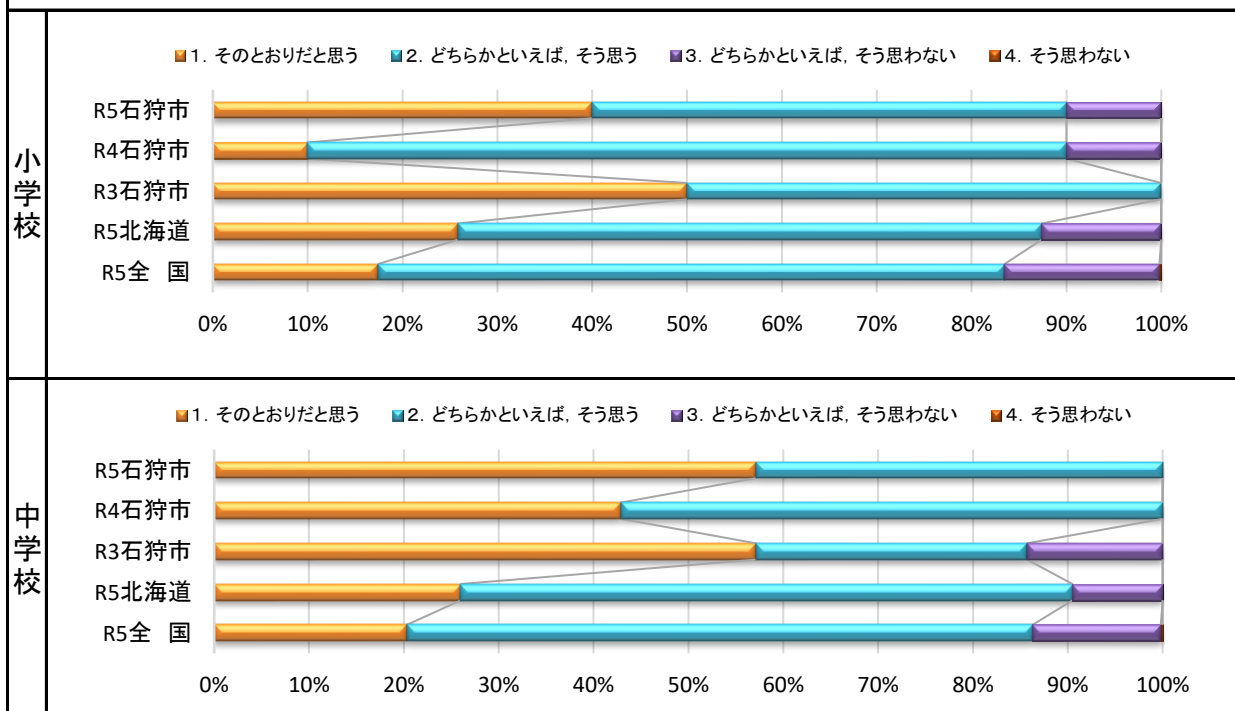
・「課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思う」割合は、小学校で40.0%(全国比+18.6ポイント、全道比+7.3ポイント)で、中学校では42.9%(全国比+23.7ポイント、全道比+17.6ポイント)でした。

5. 調査対象学年の児童・生徒は、授業では、課題の解決に向けて、自分で考え、自分から取り組むことができていると思いますか



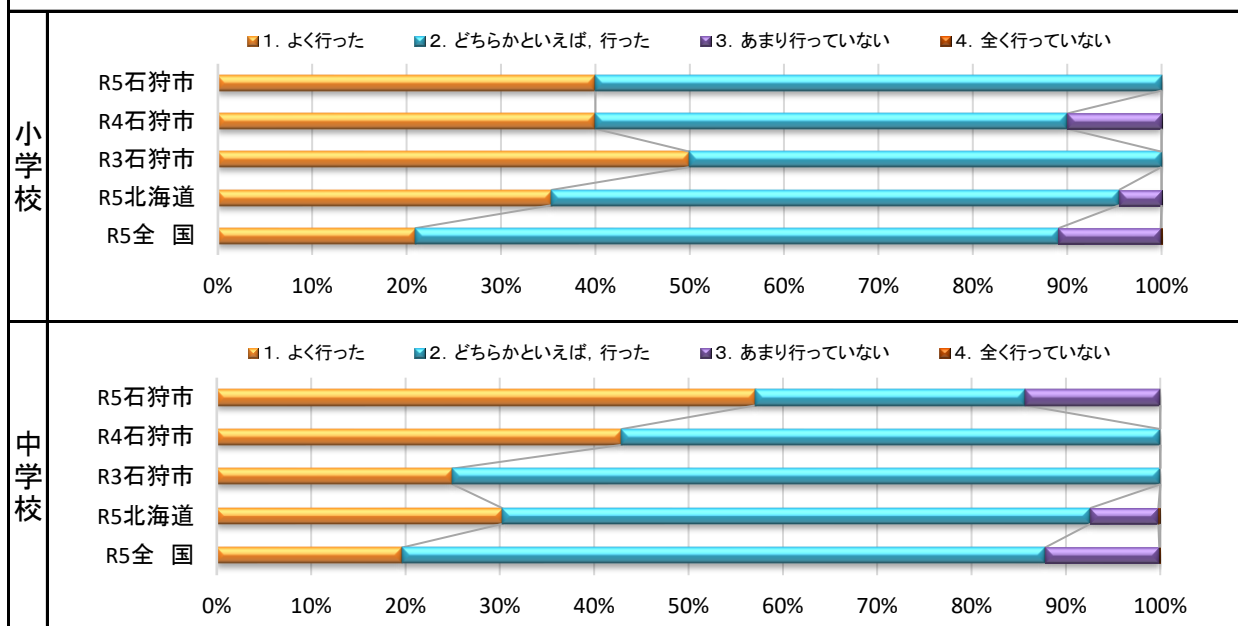
・「学級やグループでの話し合い活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思う」割合は、小学校で40.0%(全国比+22.6ポイント、全道比+14.2ポイント)で、中学校では57.1%(全国比+36.8ポイント、全道比+31.1ポイント)でした。

6. 調査対象学年の児童・生徒は、学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを深めたり、広げたりすることができていると思いますか



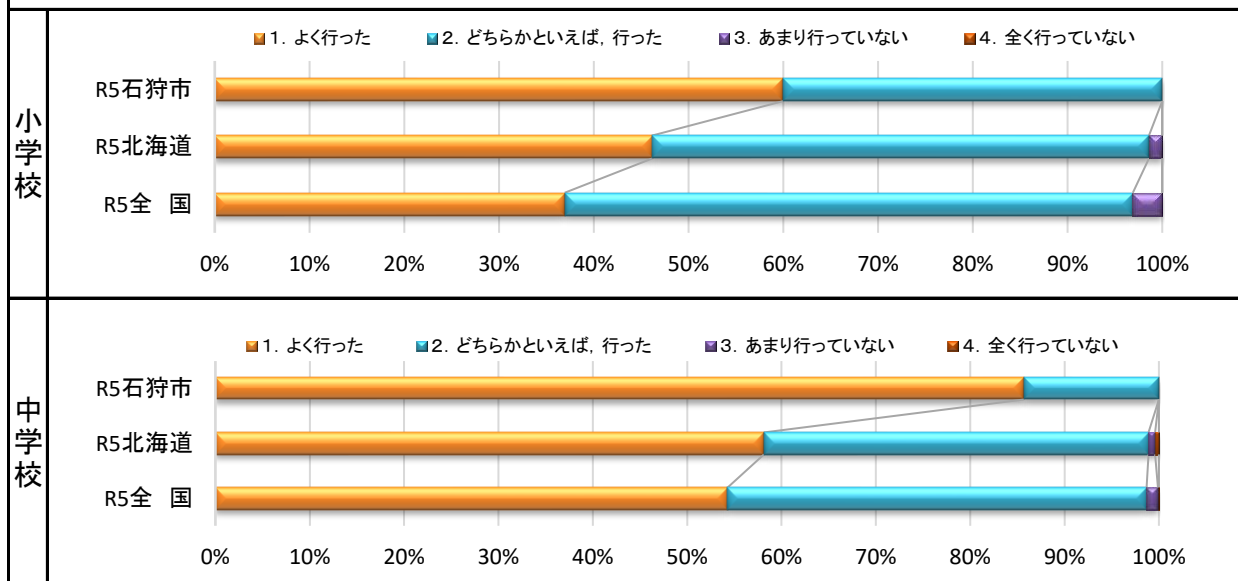
・「習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をよく行った」割合は、小学校で40.0% (全国比+19.1ポイント, 全道比+4.7ポイント) で、中学校では57.1% (全国比+37.5ポイント, 全道比+26.9ポイント) でした。

7. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、習得・活用及び探究の学習過程を見通した指導方法の改善及び工夫をしましたか



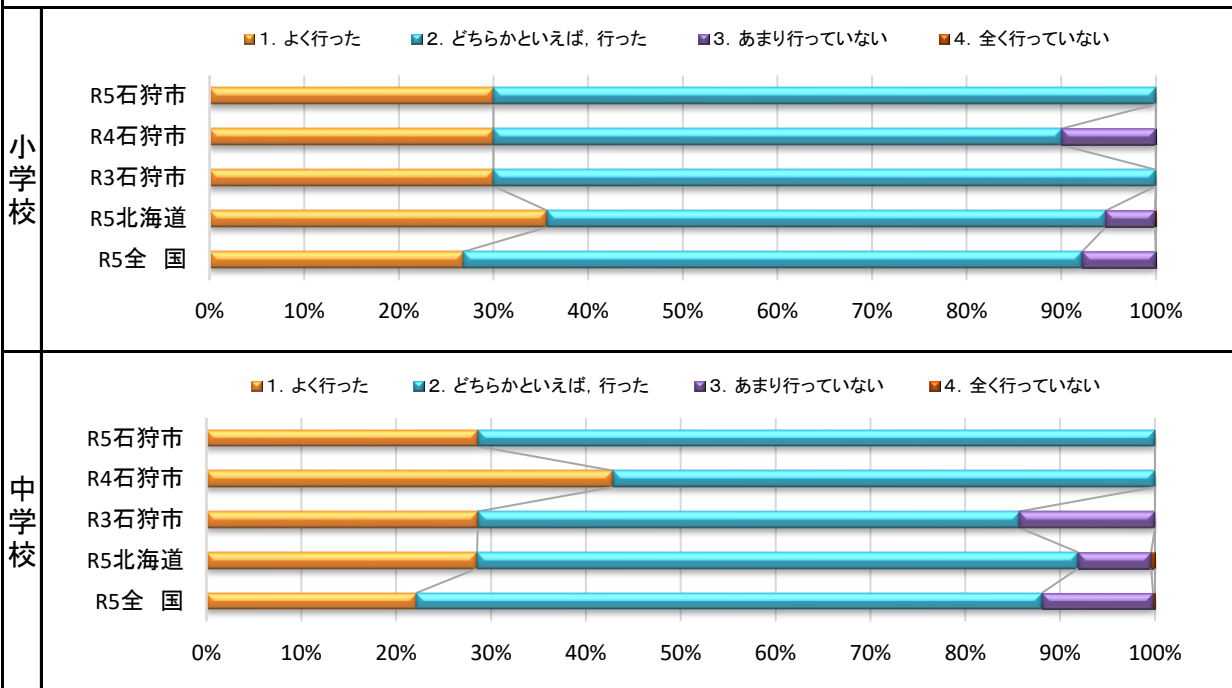
・「国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができる指導をよく行った(小)、場面の展開や登場人物の心情の変化について、描写を基に捉えることができる指導をよく行った(中)」割合は、小学校60.0% (全国比+23.1ポイント, 全道比+13.8ポイント) で、中学校では85.7% (全国比+31.5ポイント, 全道比+27.5ポイント) でした。

**8. (小) 調査対象学年の児童に対する国語の授業において、前年度までに、登場人物の人物像や物語の全体像を具体的に想像し、表現の効果を考えて読むことができるような指導を行いましたか
(中) 調査対象学年の生徒に対する国語の授業において、前年度までに、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行いましたか**



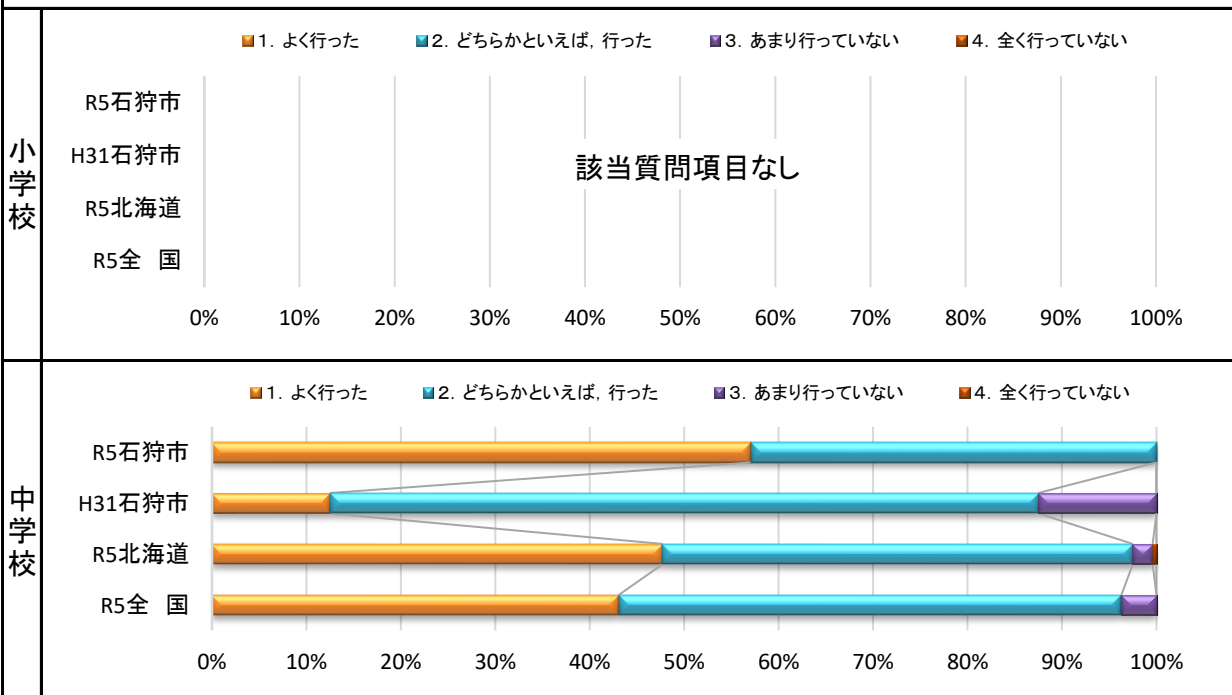
・「算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業をよく行った」割合は、小学校で30.0%(全国比+3.2ポイント、全道比-5.7ポイント)で、中学校では28.6%(全国比+6.5ポイント、全道比+0.1ポイント)でした。

9. 調査対象学年の児童・生徒に対する算数・数学の授業において、前年度までに、実生活における事象との関連を図った授業を行いましたか



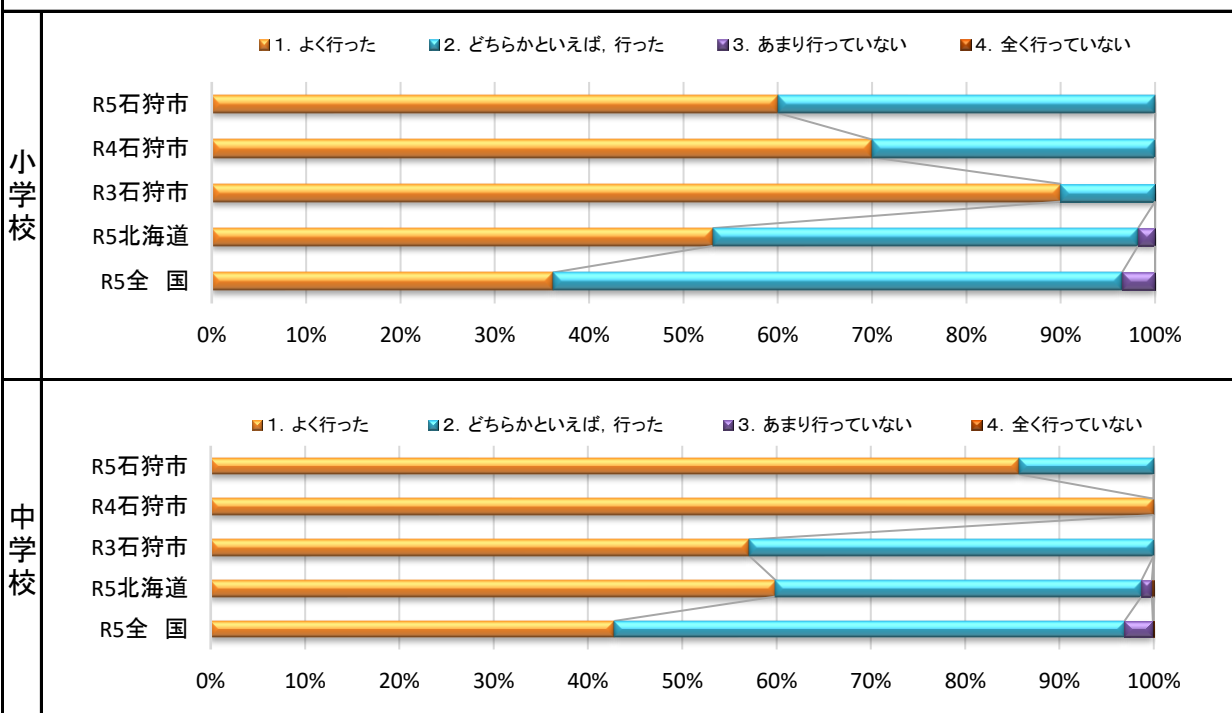
・「英語の授業において、前年度までに、英語を読んで概要や要点を捉える言語活動をよく行った」割合は、小学校では該当質問項目がなく、中学校では57.1%(全国比+14.1ポイント、全道比+9.5ポイント)でした。

10. 調査対象学年の生徒に対する英語の授業において、前年度までに、英語を読んで(一文一文ではなく全体の)概要や要点を捉える言語活動を行いましたか



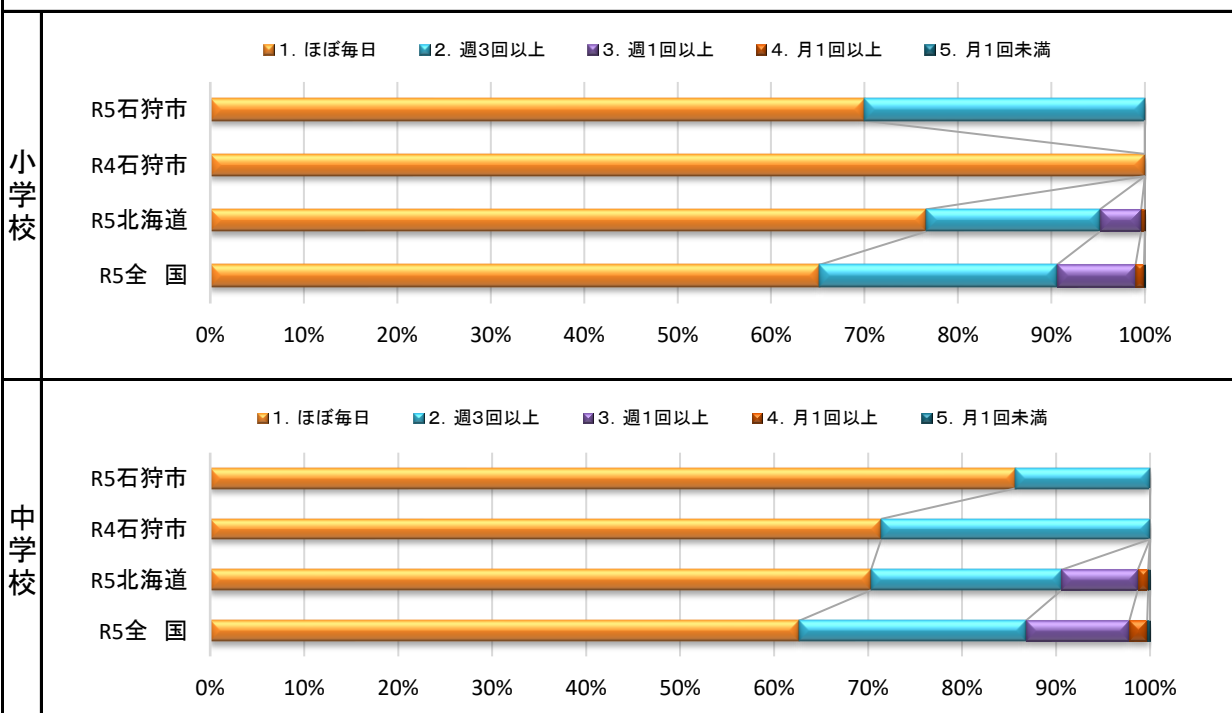
・「特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童・生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をよく行った」割合は、小学校で60.0%(全国比+23.8ポイント、全道比+6.9ポイント)で、中学校では85.7%(全国比+42.9ポイント、全道比+25.8ポイント)でした。

11. 調査対象学年の児童・生徒に対して、特別の教科 道徳において、取り上げる題材を児童・生徒自らが自分自身の問題として捉え、考え、話し合うような指導の工夫をしていますか



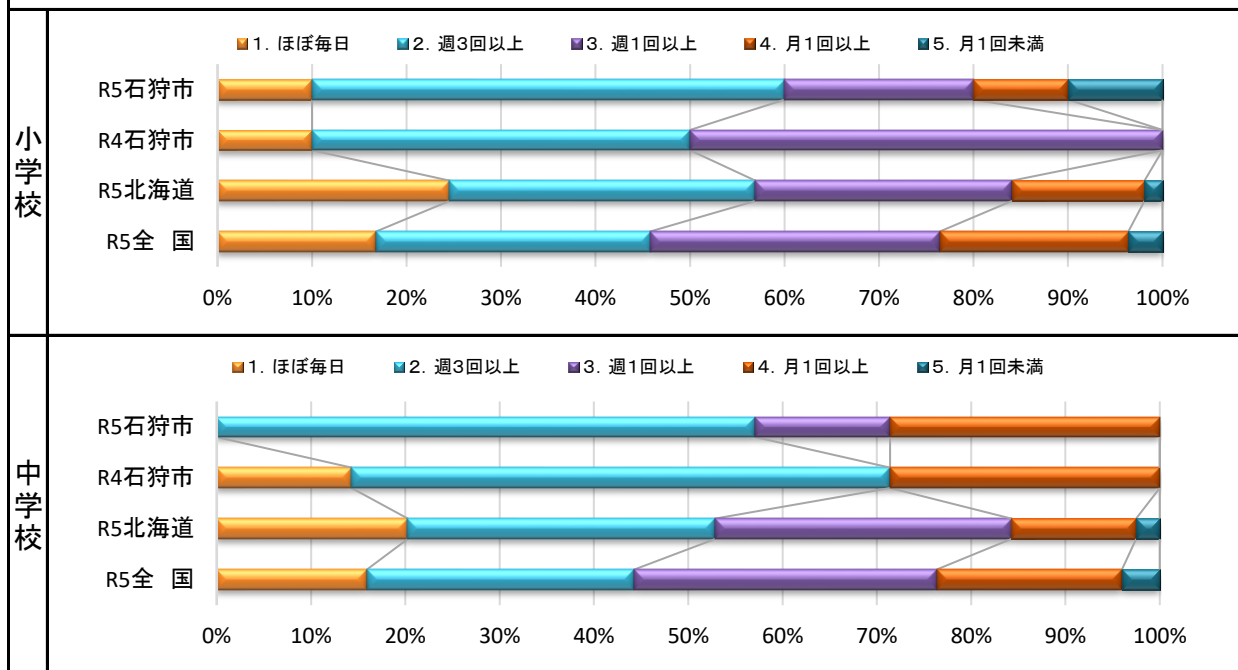
・「児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日活用した」割合は小学校で70.0%(全国比+4.8ポイント、全道比-6.6ポイント)で、中学校では85.7%(全国比+23.1ポイント、全道比+15.6ポイント)でした。

12. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器を、授業でどの程度活用しましたか



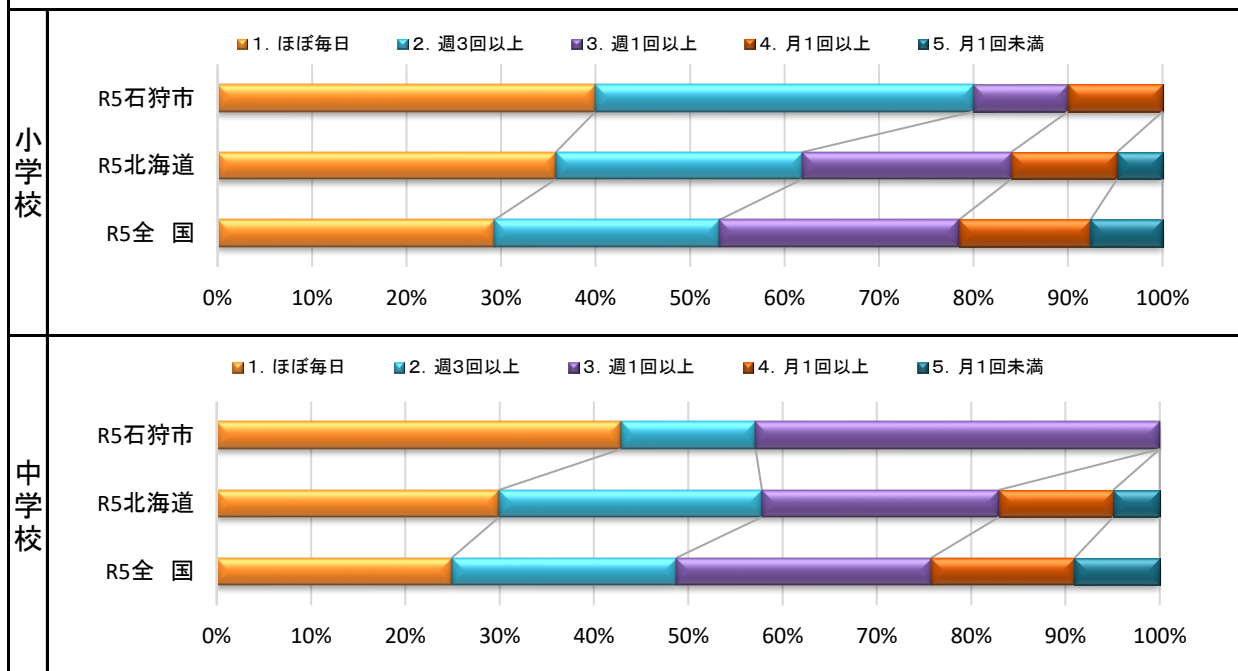
・「児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させていた」割合は小学校で10.0%(全国比-6.8ポイント、全道比-14.5ポイント)で、中学校では0.0%(全国比-15.9ポイント、全道比-20.2ポイント)でした。

13. 調査対象学年の児童・生徒が自分の考えをまとめ、発表・表現する場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



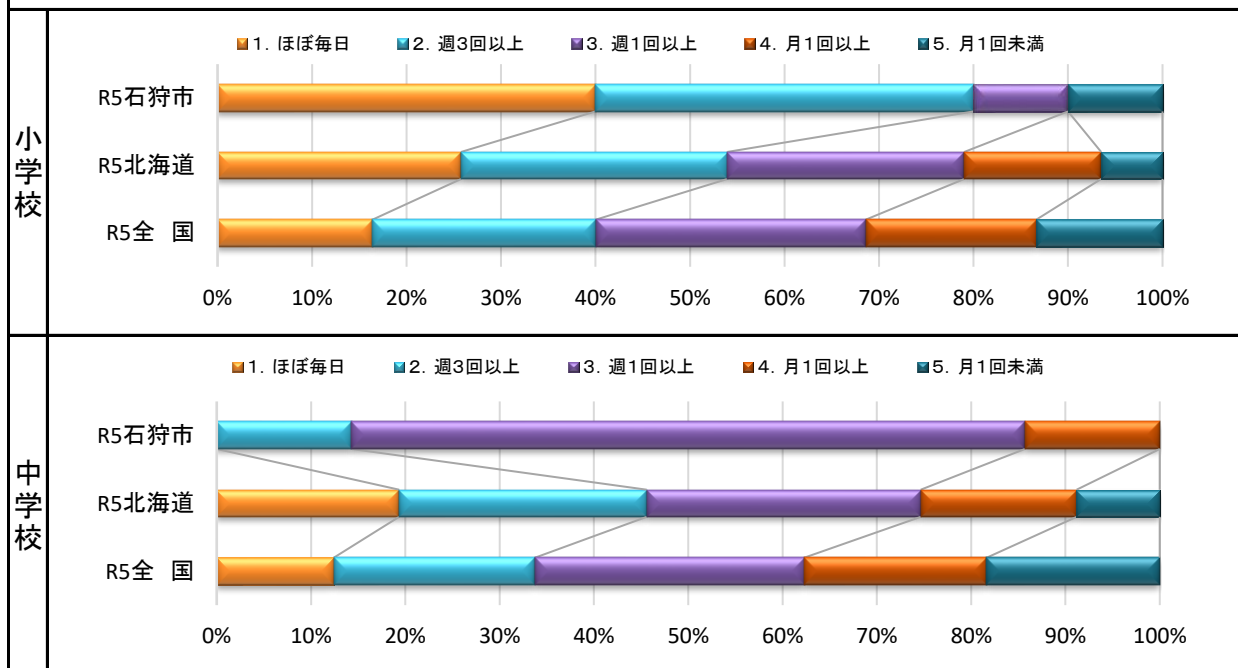
・「教職員と児童・生徒がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させていた」割合は小学校で40.0%(全国比+10.7ポイント、全道比+4.2ポイント)で、中学校では42.9%(全国比+18.0ポイント、全道比+13.0ポイント)でした。

14. 教職員と調査対象学年の児童・生徒がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



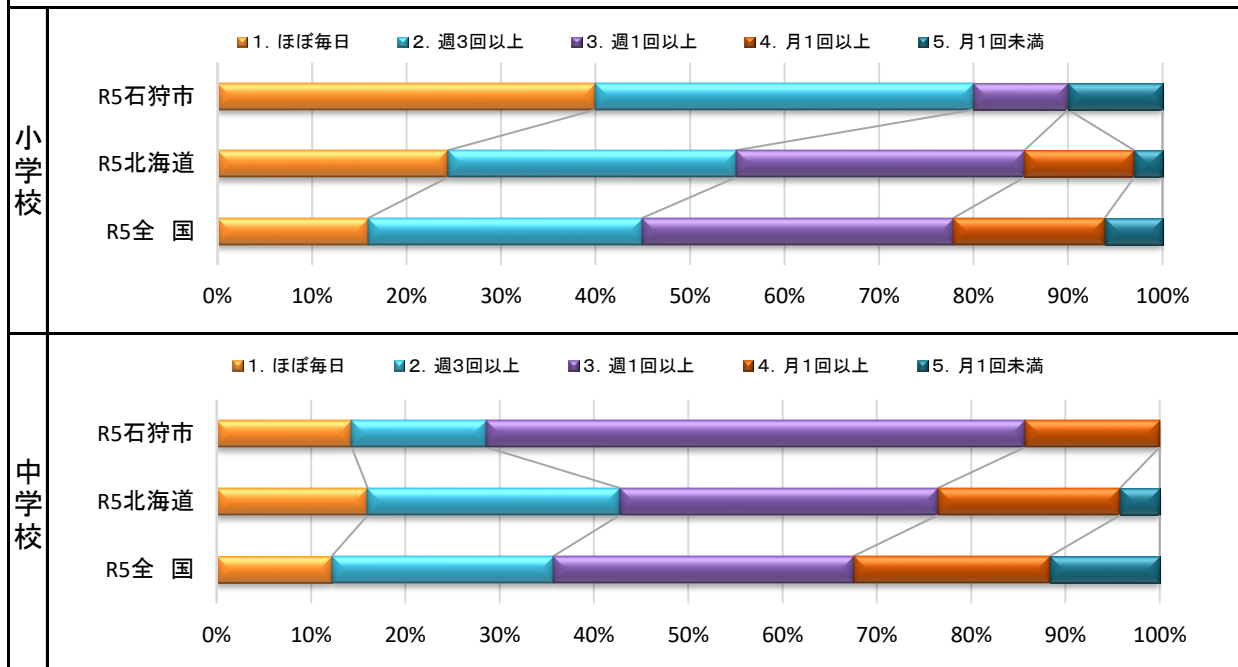
・「児童・生徒同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させていた」割合は小学校で40.0%(全国比+23.6ポイント、全道比+14.2ポイント)で、中学校では0.0%(全国比-12.4ポイント、全道比-19.3ポイント)でした。

15. 調査対象学年の児童・生徒同士がやりとりする場面では、児童一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



・「児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をほぼ毎日使用させていた」割合は小学校で40.0%(全国比+24.0ポイント、全道比+15.6ポイント)で、中学校では14.3%(全国比+2.1ポイント、全道比-1.7ポイント)でした。

16. 調査対象学年の児童・生徒が自分の特性や理解度・進度に合わせて課題に取り組む場面では、児童・生徒一人一人に配備されたPC・タブレットなどのICT機器をどの程度使用させていますか



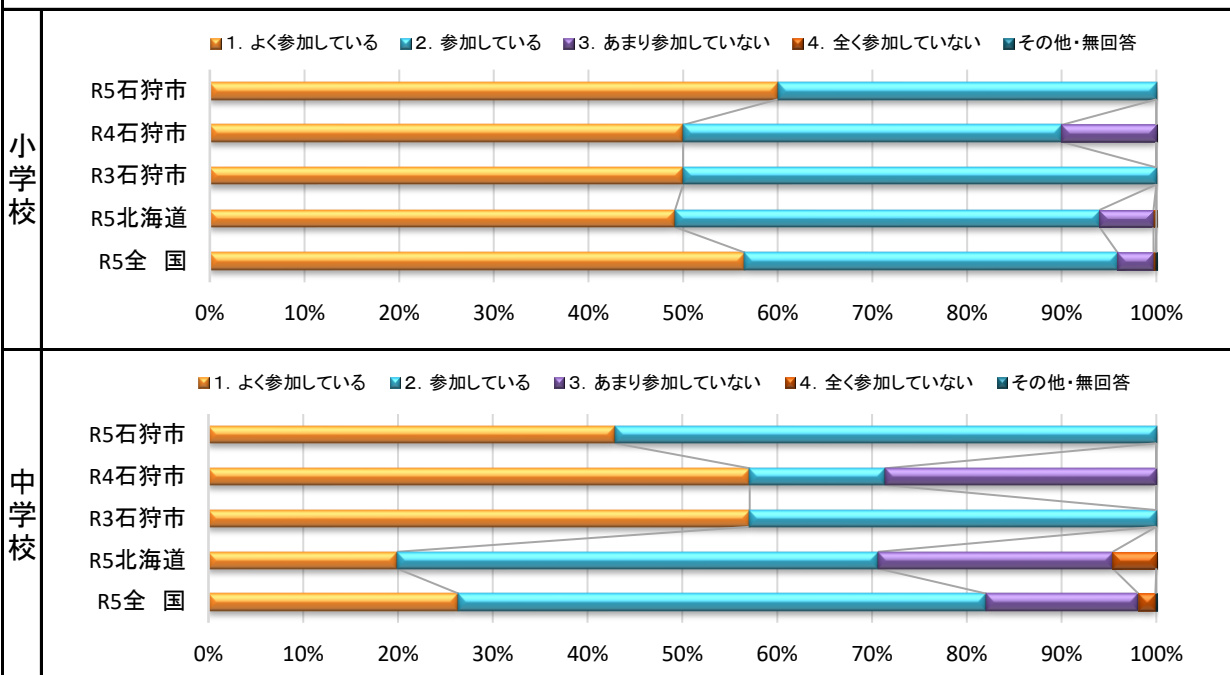
Ⅲ 家庭・地域・小中学校間連携

○地域の人材活用や小中間の連携教育は、小学校、中学校ともに進展傾向

○コミュニティスクール制度の活用や幼保を含めた小中連携の取組が肝要

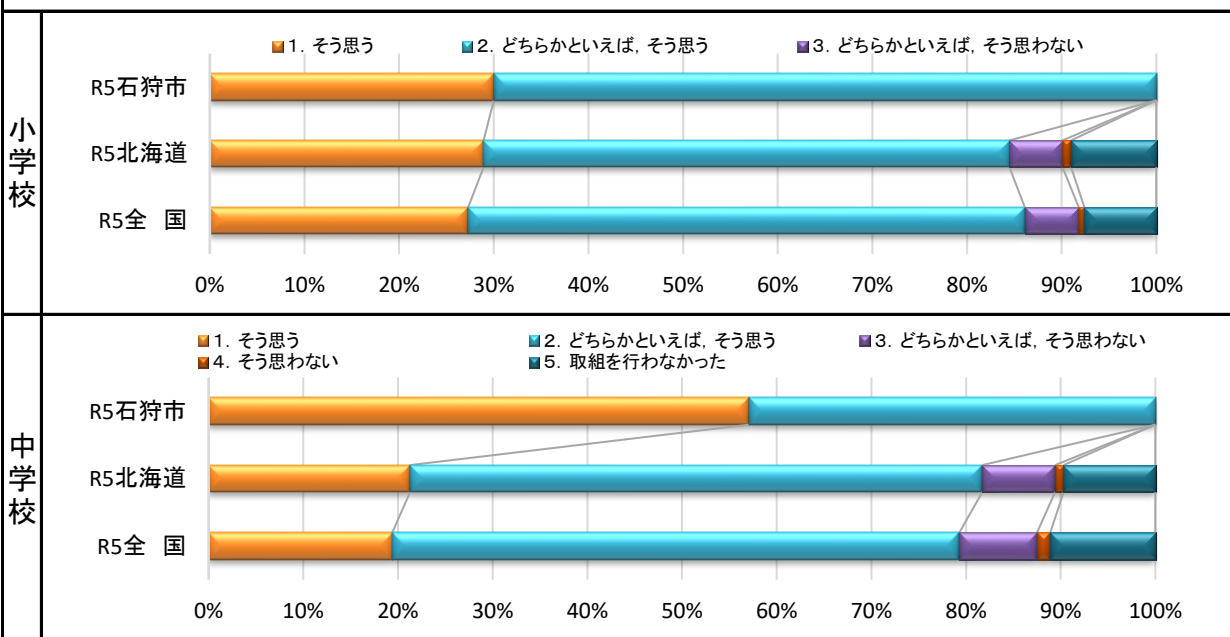
・「保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動によく参加している」割合は、小学校で60.0%(全国比+3.5ポイント、全道比+10.9ポイント)で、中学校では42.9%(全国比+16.5ポイント、全道比+23.0ポイント)でした。

17. 保護者や地域の人が学校の美化、登下校の見守り、学習・部活動支援、放課後支援、学校行事の運営などの活動に参加していますか



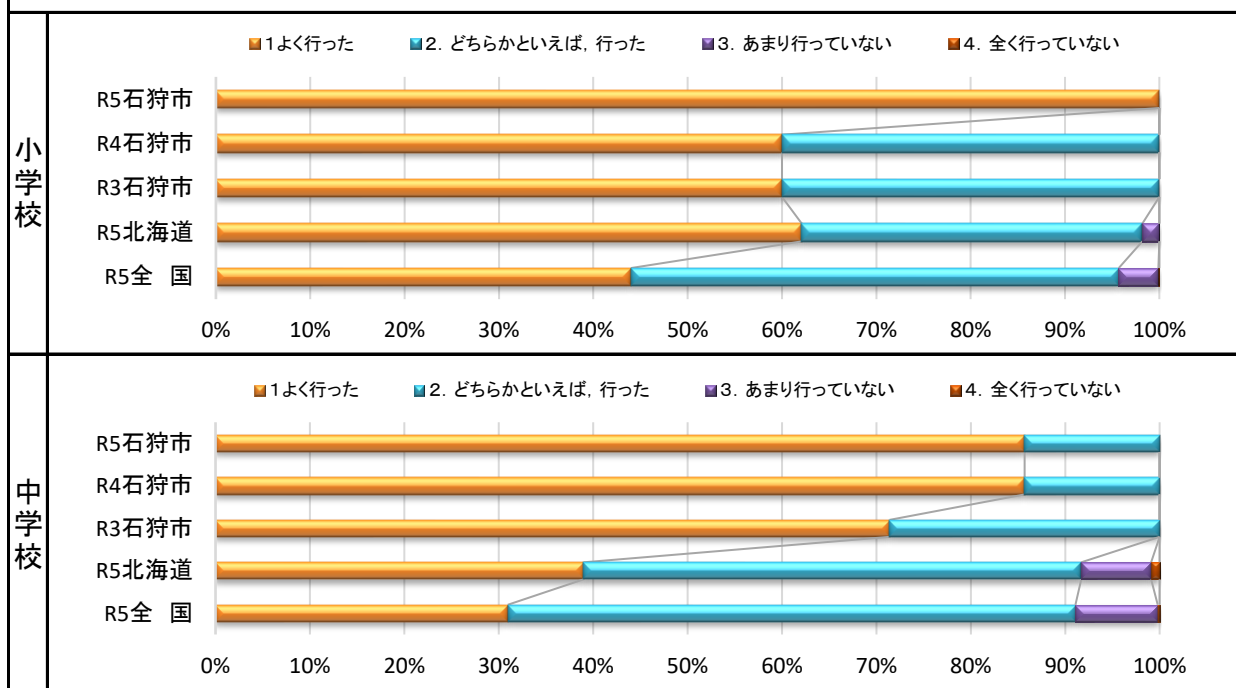
・「コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まった」割合は、小学校で30.0%(全国比+2.7ポイント、全道比+1.1ポイント)で、中学校では57.1%(全国比+37.7ポイント、全道比+35.8ポイント)でした。

18. コミュニティ・スクールや地域学校協働活動等の取組によって、学校と地域や保護者の相互理解は深まりましたか



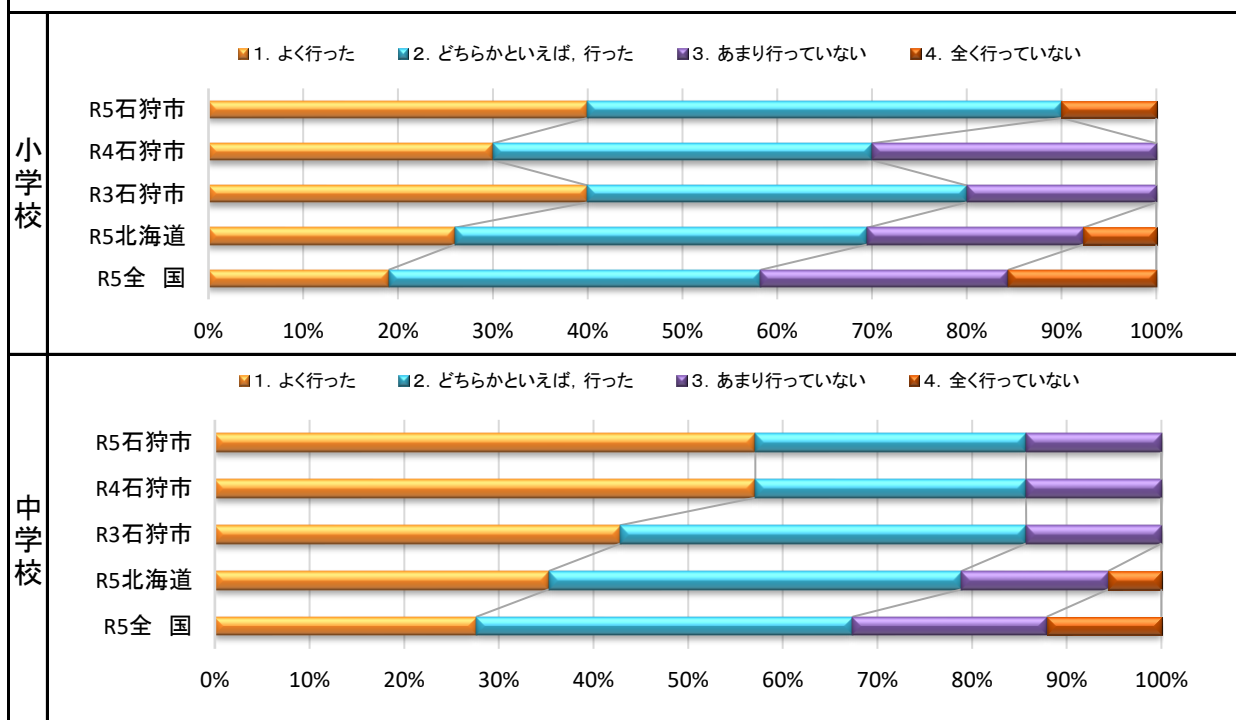
・「前年度までに、家庭学習の取組として、児童・生徒に家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしたことについて、よく行った」割合は、小学校で100.0%(全国比+56.0ポイント、全道比+37.9ポイント)で、中学校では、85.7%(全国比+54.8ポイント、全道比+46.7ポイント)でした。

19. 調査対象学年の児童・生徒に対して、前年度までに、家庭学習の取組として、家庭での学習方法等を具体例を挙げながら教えるようにしましたか(教科共通)



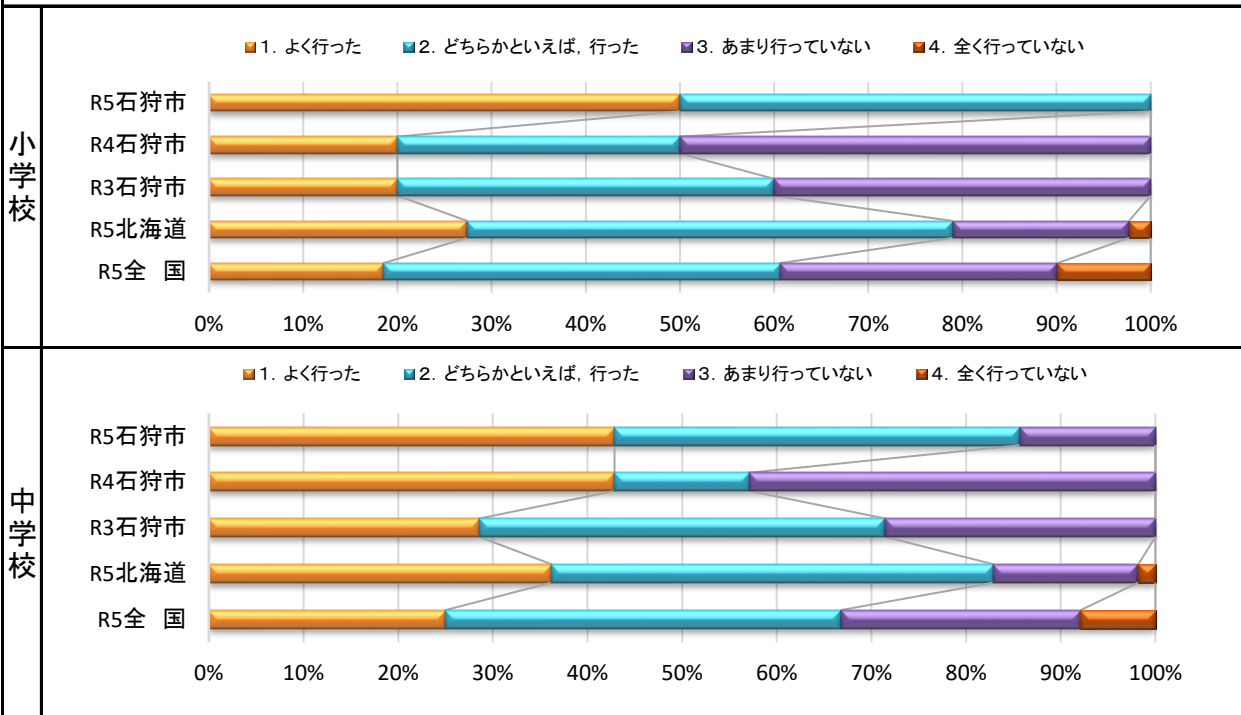
・「前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修をよく行った」割合は、小学校で40.0%(全国比+21.0ポイント、全道比+14.0ポイント)で、中学校は57.1%(全国比+29.5ポイント、全道比+21.8ポイント)でした。

20. 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、授業研究を行うなど、合同して研修を行いましたか



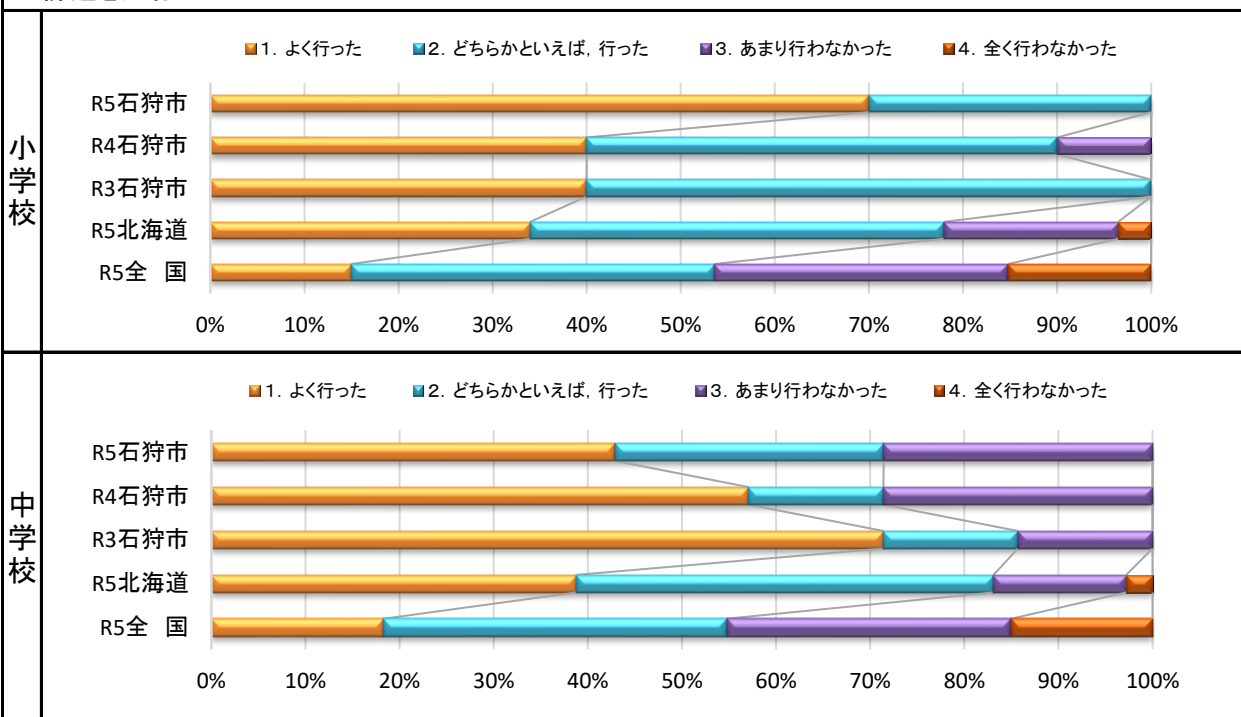
・「前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教育課程の接続や、教科の共通な目標設定など、教育課程に関する共通の取組をよく行った」割合は、小学校で50.0%(全国比+31.5ポイント、全道比+22.6ポイント)で、中学校は42.9%(全国比+17.9ポイント、全道比+6.7ポイント)でした。

21. 前年度までに、近隣等の中学校(小学校)と、教科の教育課程の接続や、教科に関する共通の目標設定など、教育課程に関する共通の取組を行いましたか



・「全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の小・中学校と成果や課題の共有をよく行った」割合は、小学校で70.0%(全国比+55.0ポイント、全道比+36.0ポイント)で、中学校では42.9%(全国比+24.6ポイント、全道比+4.1ポイント)でした。

22. 平成4年度の全国学力・学習状況調査の分析結果について、近隣等の中学校(小学校)と成果や課題を共有しましたか

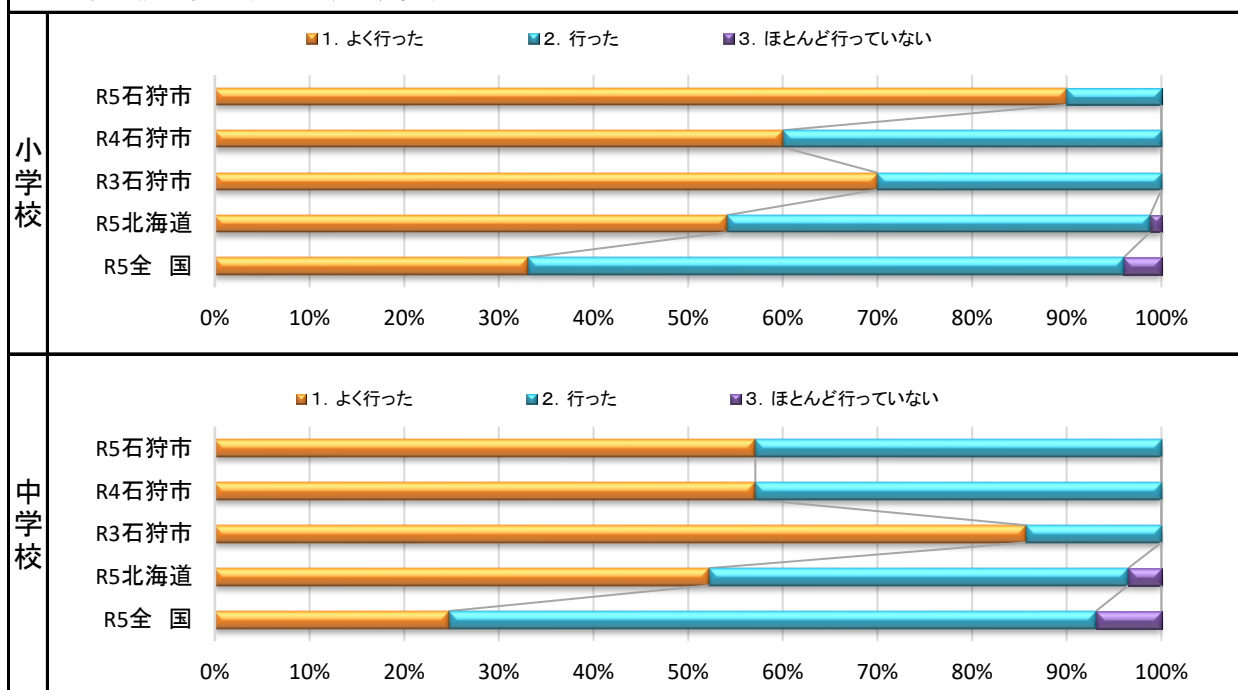


Ⅳ 全国学力・学習状況調査の結果の活用

○調査結果を積極的に活用し、教育活動改善の推進

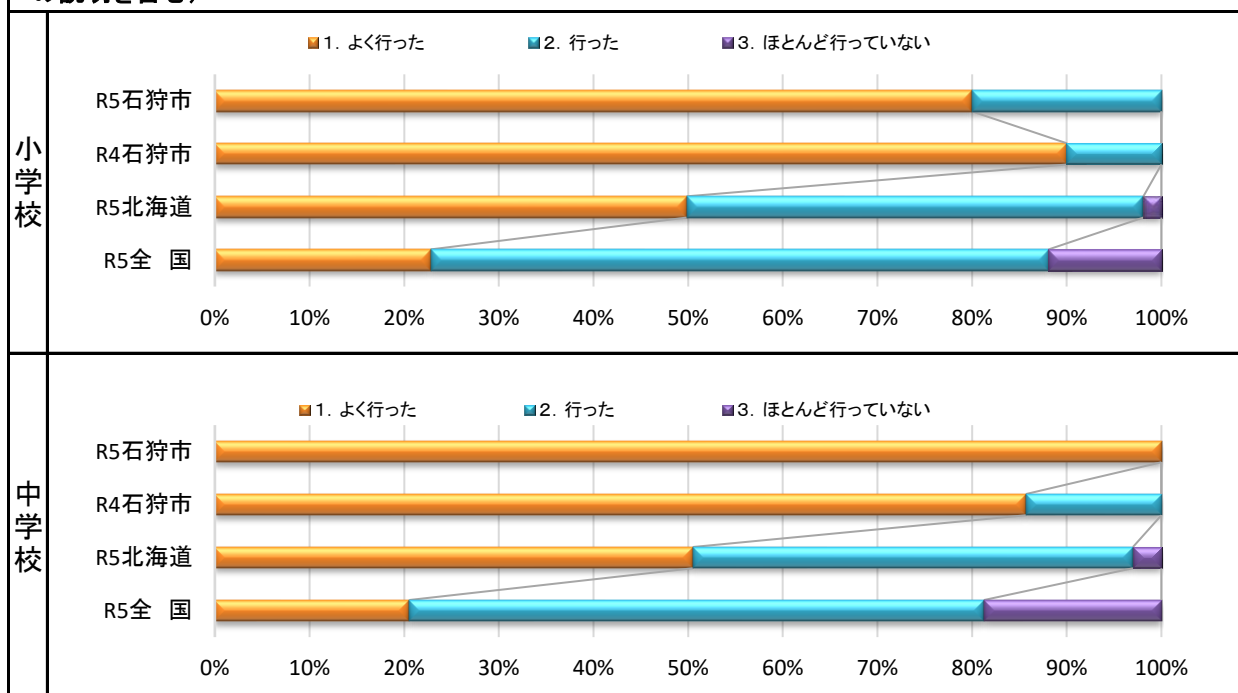
・「令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するためによく活用した」割合は、小学校で90.0%(全国比+56.9ポイント、全道比+35.9ポイント)で、中学校では、57.1%(全国比+32.4ポイント、全道比+4.9ポイント)でした。

23. 令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の分析結果について、調査対象学年・教科だけではなく、学校全体で教育活動を改善するために活用しましたか



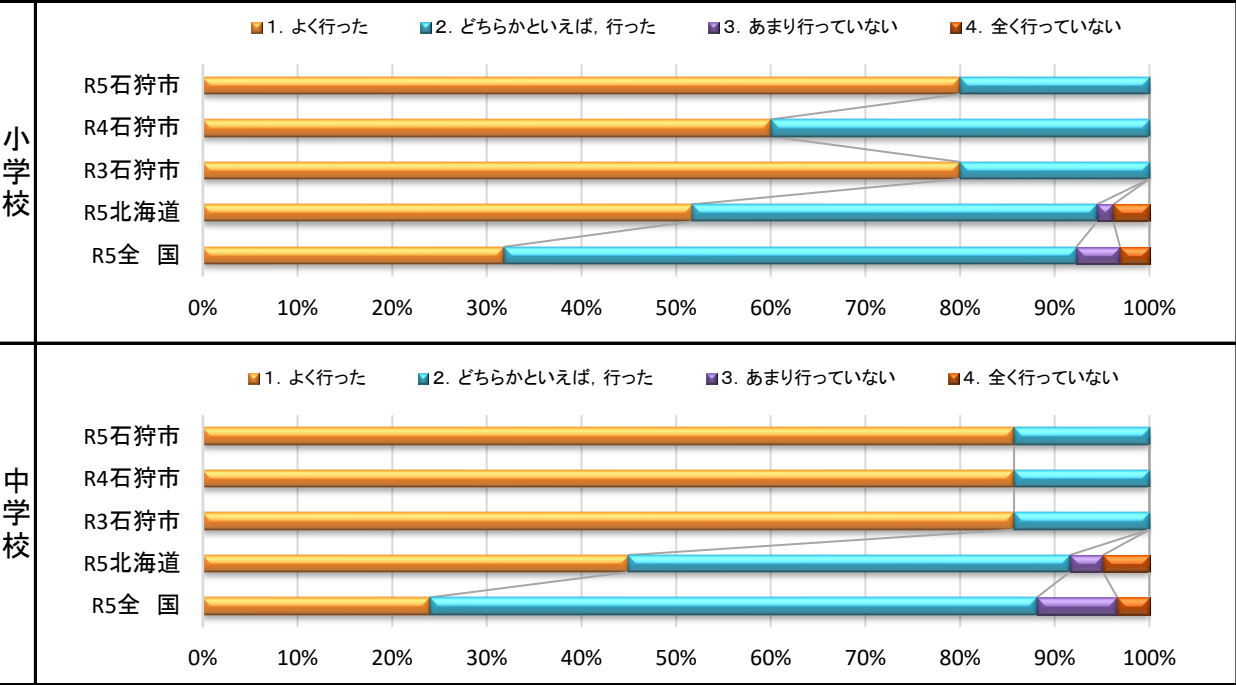
・「令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をよく行った」割合は、小学校で80.0%(全国比+57.2ポイント、全道比+30.2ポイント)で、中学校では、100.0%(全国比+79.5ポイント、全道比+49.6ポイント)でした。

24. 令和4年度全国学力・学習状況調査の自校の結果について、保護者や地域の人たちに対して公表や説明をどの程度行いましたか(学校のホームページや学校だよりなどへの掲載、保護者会等での説明を含む)



・「全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映をよく行った」の割合は、小学校で80.0%(全国比+48.2ポイント、全道比+28.4ポイント)で、中学校では、85.7%(全国比+61.7ポイント、全道比+40.7ポイント)でした。

25. 全国学力・学習状況調査の結果を地方公共団体における独自の学力調査の結果と併せて分析し、具体的な教育指導の改善や指導計画等への反映を行っていますか



事 務 連 絡
令和 5 年(2023 年)10 月 19 日

各 教 育 局 教 育 支 援 課 長
道立教育研究所研修部研究主幹
道立特別支援教育センター教育課長 様
関係道立学校副校長・教頭
各市町村教育委員会次・課長

北海道教育庁学校教育局学力向上推進課課長補佐

「令和 5 年度全国学力・学習状況調査北海道版結果報告書」の公表日等について
このことについて、次の日程で公表しますので、お知らせいたします。

記

1 日程

11 月 7 日 (火)

13:00 文教委員会で報告

17:00 道教委のホームページに報告書を掲載

(文教委員会案件報告終了時刻によっては、時間が前後する場合があります。)

2 報道解禁

- ・テレビ・ラジオ・インターネット～11 月 7 日 (火) 開催予定の文教委員会案件報告終了後
- ・新聞～11 月 8 日 (水) 朝刊以降

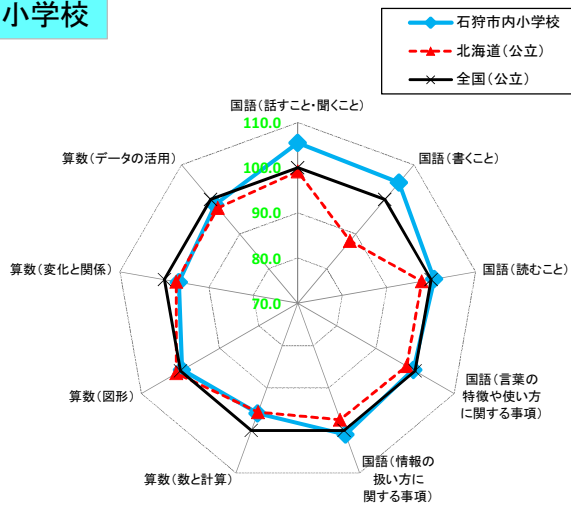
担当：学力向上支援係
TEL 011-206-6849(ダイヤルイン)
FAX 011-232-1072

■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:447人）（中学校数:7校、生徒数:482人）

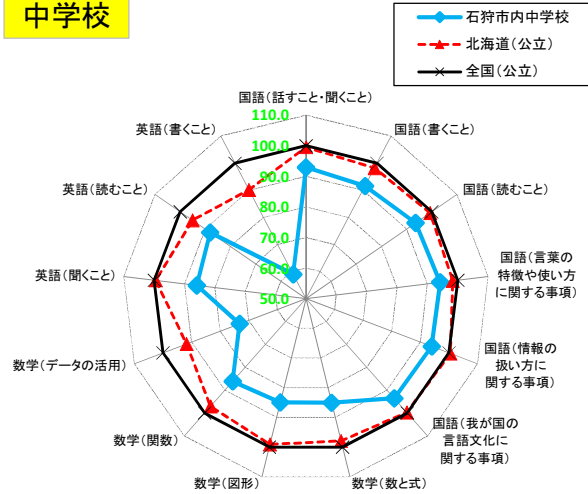
【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
 （市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）

小学校

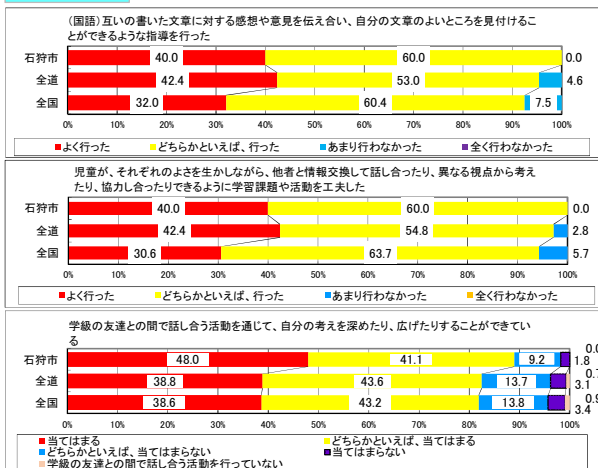


中学校

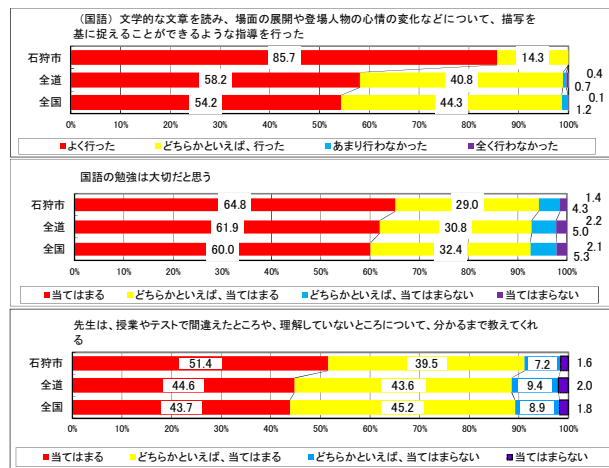


【質問紙の状況】

小学校



中学校



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校
国語の授業において、互いの書いた文章に対する感想や意見を伝え合い、自分の文章のよいところを見付けることができるような指導を行ったことにより、国語の「書くこと」の領域で平均正答率が全国及び全道を上回ったと考えられる。 児童が、それぞれのよさを生かしながら、他者と情報交換して話し合ったり、異なる視点から考えたり、協力し合ったりできるように学習課題や活動を工夫したことにより、学級の友達との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、広げたりすることができるという回答した児童の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

中学校
国語の授業において、文学的な文章を読み、場面の展開や登場人物の心情の変化などについて、描写を基に捉えることができるような指導を行ったことにより、国語の勉強は大切だと思うと回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。 市全体で、伸びしろ層・中間層・定着層の各層に応じた指導を充実させたことにより、先生は、授業やテストで間違えたところや、理解していないところについて、分かるまで教えてくれていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

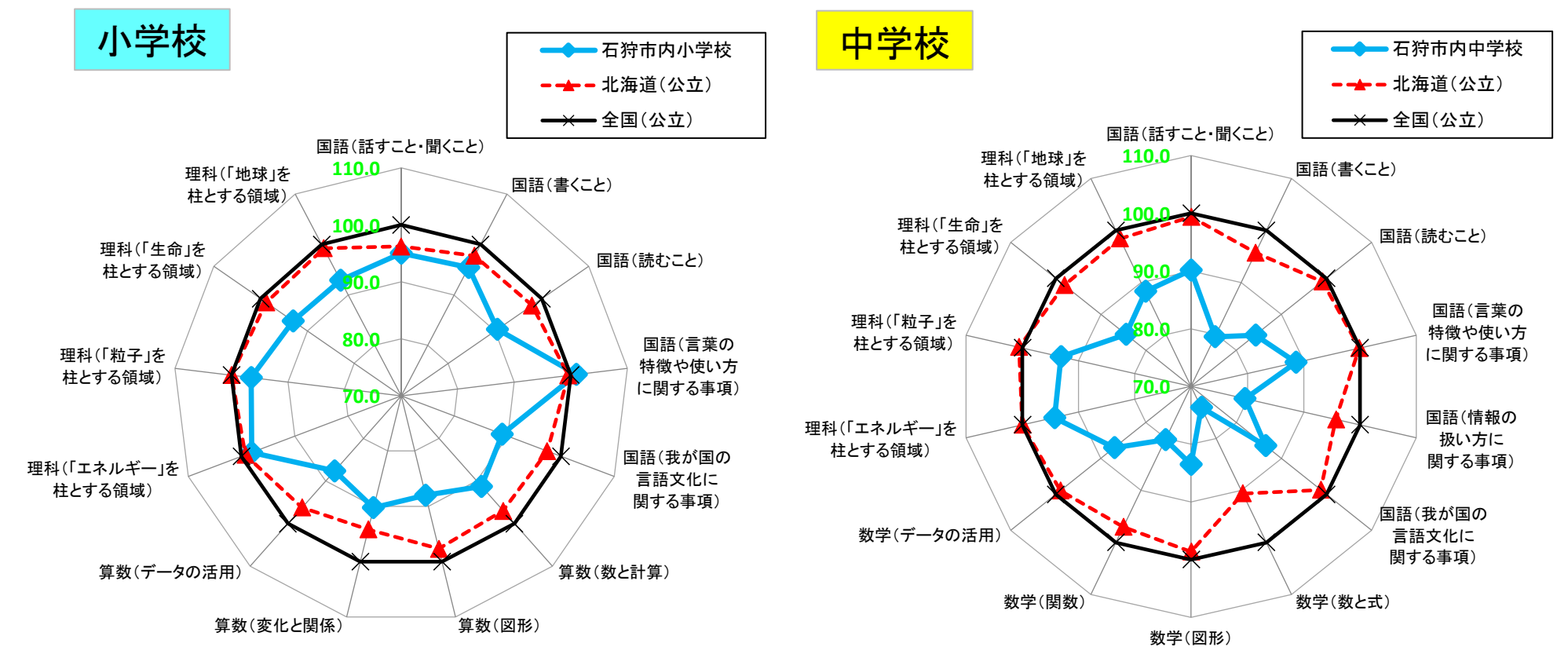
【石狩市の学力向上策】

- ◎ 国語科の「読むこと」の領域の課題解決に向けた取組の推進
- ◎ 教科指導における小中連携の推進
- ◎ 伸びしろ層・中間層・定着層の各層に応じた指導と対話重視の指導の充実

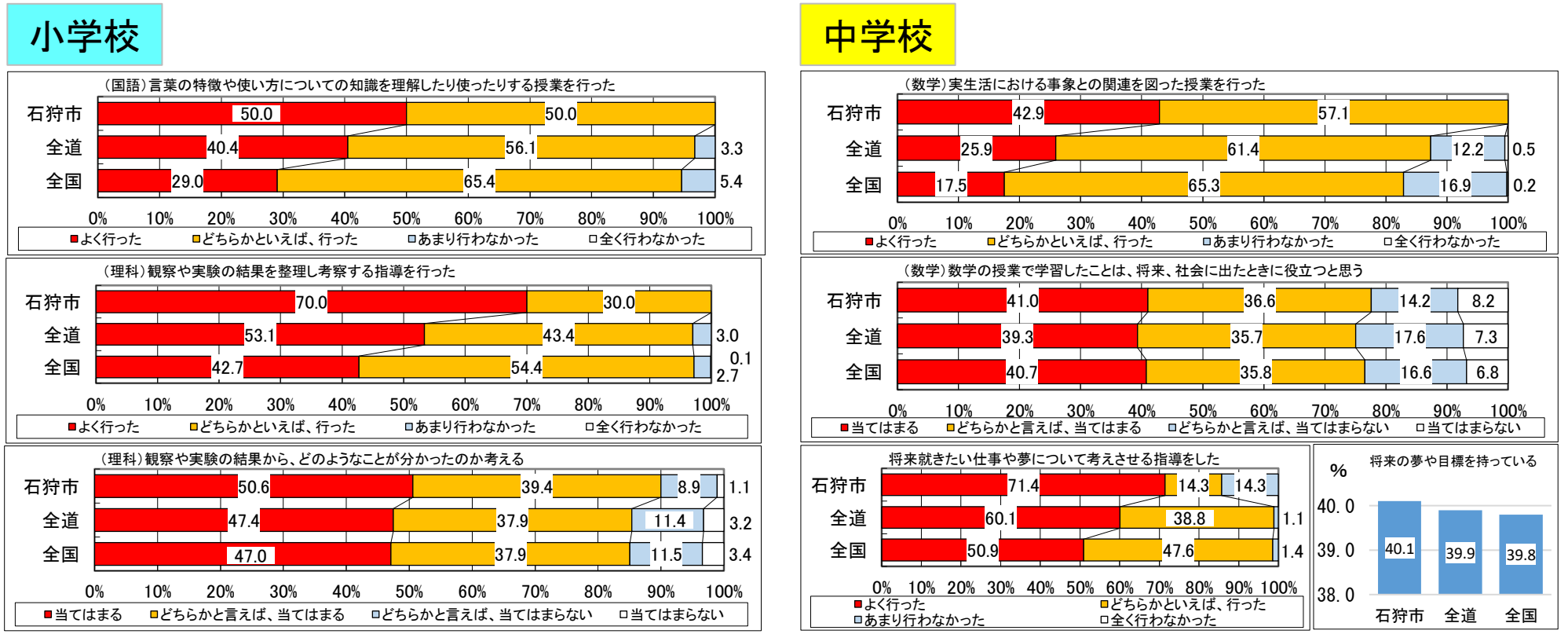
■石狩市内の状況及び学力向上策（小学校数:10校、児童数:459人）（中学校数:7校、生徒数:449人）

【教科全体の状況】

教科の領域別に全国を100とした場合の全道及び市町村の状況をレーダーチャートで示したもの
（市町村の平均正答率÷全国（公立）の平均正答率×100で算出）



【質問紙の状況】



【上記結果の考えられる要因の分析】

小学校	中学校
国語の授業において、言葉の特徴や使い方についての知識を理解したり使ったりする授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、「言葉の特徴や使い方に関する事項」で全国の平均正答率を上回ったと考えられる。	数学の授業において、実生活における事象との関連を図った授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、数学の授業で学習したことは、将来、社会に出たときに役に立つと回答した生徒の割合が全国を上回ったと考えられる。
理科の授業において、観察や実験の結果を整理し考察する授業を行うなど、授業改善を進めたことにより、理科の授業で、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったのか考えると回答した児童の割合が全国及び全道を上回るとともに、理科の「エネルギー」を柱とする領域で全国の平均正答率に最も近くなったと考えられる。	各学校において、将来就きたい仕事や夢について考えさせる指導を積極的に行ったことにより、将来の夢や目標を持っていると回答した生徒の割合が全国及び全道を上回ったと考えられる。

【石狩市の学力向上策】

- ◎ ICTを効果的に活用した「主体的・対話的で深い学び」を実現する授業改善の推進
- ◎ 教科担任制の導入やエキスパートサポーター、外部指導者の効果的な配置による指導体制の充実
- ◎ 「学びの連続性による学力向上」をテーマにした、中学校区における小中連携の取組の推進